

NEW ARSENE
PORUGO

新アルセーナ・
ポルゴ

夏木康志

目次

登場人物紹介	1
銀河を継ぐ者	
銀河を継ぐ者	4
新生ギャラクシー	6
登場！ 東郷源九郎	8
もう一つの王道	10
月の咆哮	16
鬼神	18
伝説の死闘	20
ジパング魂	22
新生	23
決着！	26
銀河を翔る、恋	
沈黙の三代目	32
銀河を翔る	35
危機！ 迫る	40
決闘！	43
絆	52
ギャラクシータッグトーナメント	
プロフェッサー	58
銀河最強タッグトーナメント	64
孤独	71
ギャラクシーシングルトーナメント	
暁、吠える！	76
やるな、暁	79
メモワール・オヴ・トーゴー	83
銀河最強シングルトーナメント	87
奥の手	89
寝技地獄！	92
パワー対スピード	95

武士道 VS ブシドー	97
死闘!	102
道!	106
生き残るのは誰だ?	109
銀河の大王	114
それからのポルゴ	
ブシドーの正体	120
テツオの休日	122
再会	126
リアル・ファイト	130
もう一人のポルゴ	135
あれから...	139
ファイヤーブラザーズ	
伝説のタッグチーム	146
最後の意地	150
鳴猫拳の真実!	156
登場! レッド大佐。	160
太陽の黒猫	162
キングオヴギャラクシー	
最終決戦!	166
チームダブルエックス	168
総合野郎 B チーム	170
グレートブシドーチーム	172
レッド大佐チーム	174
ジパングチーム	175
ポルゴチーム	177
龍族チーム	178
ネコ族チーム	180
傷だらけのライアン	182
ブシドーの誤算	186
パンサーの涙	190
大王決定戦	194
テクニク	197
決着!	203
ユニバーサルスタイル	207
決定! 第五代大王	213
議会解散!	214

許せない男	
許せない男	220
新たなる野望	
復活!	226
素振り	230
ユニバーサルルール	232
信じられない	236
BELIEVE ME!	237
FINAL BOUT THE GREAT ASIA MUSTGO	239
未来からの使者	
至高の使い手	244
シャノワールの恋	247
貴方では勝てない...	252
秘策	255
四天王	
アルセーヌ・ポルゴ	260
ソレイユ・シャノワール	265
東郷源九郎	271
G'(ジー・ダッシュ)	273
未来への帰還	
別れ、そして、出会い	278
参ったニャー	279
再会	285
ライアンの休日	
コンサート	290
プロフェッサー、再び	292
死闘	296
CYBER HUNTER	
新たなる刺客	302
世紀の一戦!	303
逆襲のカエサル	306
マリアの祝日	
マリアの祝日	310
鳴猫拳の真実 2!	312
もう一人の主人公	317

ゴールドパンサー

虚無ゆえに最強	322
修羅	323
金色なる豹	324
主役は俺だ!	326
運命の対決!	327

天空の歌姫

銀河を翔る、恋 II	332
復活の歌姫	333

蘇る、想い

復活の師、究極の闘い	338
再生、勝つのは俺だ!	340
最終決戦、勝つのは俺だ!	341
特別試合、ポルゴ対東郷源九郎!	343

忍者特急 666

ソウル・カブキ&ブラッド・セキカワ	346
ザ・グレート・ブシドー&暁	347
マリア・ハロルド&ライアン・ヤマモト	349

LOVE RUNS AROUND THE GALAXY: THE BEST OF MADAMAWAYA

哀愁の September	354
LAST LOVER	357
TRUE LOVE	359
絆	360
アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンド	361
SENZA TE (ORIGINAL ITALIAN EDITION)	363
La Mariage	364
Ciao!Ciao!Bambina!	365
HANABI!	367
REMEMBER ME	370
AMORE SEMPRE ATRAVERSARE ILMONDO.	375
Sing Le Bell!	376
Sing Le Bell! (World edition)	380
PRIMAVERA	383
Say Good Bye!	386
Say Good Bye!(global edition)	388
IMAGINE ME	390
パラレル・ワールド：交わる心	391

FENIX: アルセーヌ・ポルゴのテーマ	392
AMORE (挿入歌)	393
ZIPANG: エンディング・テーマ	393
奥付	
あとがき	396
奥付	396

登場人物紹介

アルセーヌ・ポルゴ：地球圏で活躍するサイバー探偵、主人公。

東郷源九郎：ポルゴの師匠、ミスター東郷の遺伝子を継ぐ者。

レイナ東郷：ミスター東郷の娘。

西郷詩郎：合気柔術と柔道を究めた至高の使い手。

銀河の大王：4代目、ネコ族出身の大王。本名、ソレイユ・シャノワール。

ジェラルド・ボルドー：極東流カラテの使い手、元月世界将軍。

ジュン・バード：メキシコ流カラテの使い手。

ジョー・ヨーグ12世：プロレスラー、蛇の穴出身。

マダム・アワヤ（東郷紀子）：歌手。銀河を代表するエージェント。

プリンス・ネコマタ：銀河を代表する元殺し屋。

ライアン・ヤマモト：ジパング出身の大学生ファイター。

永谷教授：ジパング大学大学院教授、ファイティングプロフェッサー。

リアル・パンサー：最強のキマイラ。

ジュンコ・ホシノ：マッドサイエンティスト。リアル・パンサーの生みの親。

ユメミ・ワカマツ・ポルゴ：ポルゴの妻。ハッキングを得意とするエージェント。

テツオ・ポルゴ：ポルゴの息子。現在やっと言葉を話し始めた。

ギャラクティカ・マグナ：三代目の大王。龍族。

ギャラクティカ・ジュニア：三代目の大王の息子。龍族。現在銀河帝国の No. 2。

暁次郎：もと力士の総合格闘家。

ザ・グレート・ブシドー：国籍不明、正体不明の仮面の総合格闘家。

レッド大佐：旧火星帝国出身の将軍。

マリア・ハロルド：女子大生格闘家。

クリス・ヤマモト：未来から来た青年。火星の強化人間の攻撃に対処すべく、その方法を探りに来た。

銀河を継ぐ者

銀河を継ぐ者

レイナ姉さん、あなたがレイナ姉さんだね。

会いたかったよ。俺はあなたの異母弟の東郷源九郎だ。よろしく。

えっ？

一瞬、馴れ馴れしく名乗りを上げた男がうさんくさく思えたが、その容姿は写真で見た若き頃の父の姿に完全に生き写しだった。

どういうこと、父さんは隠し子を持っていたの？ 不倫疑惑？

いや、そういうことじゃない。

父さんは、銀河帝国で科学者に若返り薬を作らせた時、交換条件として自分の DNA を提供した。その遺伝子をもとに、生み出された存在、それが俺、つまり東郷源九郎だ。

一度は三国一の美女と呼ばれた姉さんに会ってみたいかった。

認知症の母さんには黙っていてくれる。あなたのことがわかると無用な心配事が増えるわ。

それくらい、わかっていますって。

でも源九郎、あなたの目標は？

もちろん銀河の大王を倒して、俺が銀河最強の遺伝子を継いでいることを示すことだ。その前に、そうだな、アルセーヌ・ポルゴに会っておきたいな。

さっそく東郷源九郎はアルセーヌ・ポルゴの事務所に向かった。

ピンポン。

ドアを開けて、客の顔を拝んだユメミ夫人に驚きと困惑の表情が浮かんだ。

あなた、ちょっと。

あーん？

初めまして、私、東郷源九郎です。

俺は一瞬、この男がミスター東郷があの世界から舞い戻って来たのかと勘違いした。若い、眼光も十分に鋭い。

あんた、東郷師範の親族の者だな？

はい。いちおう息子です。

(あのエロジジイ、隠し子まで作っていたか...)

俺はミスター東郷には世話になった。まあ、今日は上がって行ってくれ。事務所で一杯やろう。もちろん飲み物は泡盛でいいよな、それとも焼酎か。いま吟球磨堤の新しいやつがある。シブく金魚酒で飲むか？

俺は、東郷源九郎に吟球磨堤のコーラ割（クマドライバー）を提供し、相手が3杯豪快に飲み干したところで、本題に入った。

あんた、一体何者だ。あの一刻者の東郷師範が隠し子を作ったなんて話聞いたことがない。奥さん以外の女性にタッチすることはあっても、それ以上はしない理性があったはずだ。

あおう。俺は銀河帝国育ちで。東郷源一郎は私の遺伝上の父です。父が若返り薬を銀河帝国の科学者に依頼した際、交換条件に遺伝子を提供したのです。

生物学上の母は、誰だかわからないのです。ただ、わかっていることは一つ。俺の父が東郷源一郎であることだけです。

だいたいわかった。そういうことだったのか。

で、あんたこの時代、この世界で何がしたい？

それはもちろんまずは父の意思を受け継いで、源流、いや東郷流の使い手になって、キングオヴギャラクシーで優勝したいと思います。

今の銀河の大王はネコ族で、猫じゃらしの使い方さえ間違えなければ、絶対勝てると思います。

(この男が明白な嘘をついているのは、明らかだった。既に男は武の道を極めているとオーラが語っていた。そして、ギャラクシー制覇程度で、この男の野望が、欲望が満たされるとは思えなかった。)

だいたい事情はわかった。俺が教えられるのは源流古武術と、Uスタイルの総合格闘技だ。あんた、ミスター東郷を目指したいのか？ それともパンサーを目指したいのか？

いいえ。父やその化身のパンサーを越えた何者かを目指したいです。

こうして、俺たちの新たな修行と戦いの道は始った。

新生ギャラクシー

とりあえず報告の内容は理解したニャン。東郷源九郎の挑戦、受けて立つニャー。

ソレイユ・シャノワールこと4代目の銀河の大王は、あの西郷詩郎の最大のライバル、ミスター東郷の息子源九郎が自分の首を狙っていることを知ると、潔く挑戦を受けることにした。

しかし主催者権限で今度のギャラクシーはシングルトーナメント、我が輩は当然シードだニャ。

ネコマタの君の力を借りるまでもない。大王自らシングルで相手をして見せる。圧倒的な自信だ。

首相、我が輩は今回キングオヴギャラクシーの開催に伴い、全権を貴君に委任する。

はい。お任せを。

首相と呼ばれた男、かつての銀河帝国の皇太子であり、ギャラクシー特別大会においてシャノワールに敗れてからは、銀河帝国の首相を務めている。

他にも挑戦者リストを知りたいニャー。ちょっとアイウォッチで見えるかニャン。

新生キングオヴギャラクシー、主要挑戦者リスト。

ジェラルド・ボルドー、アルセーヌ・ボルゴ、ライアン・ヤマモト、西郷詩郎。

どうも地球圏には優秀な格闘家が揃っているようだミャ。

他にはと、さらに検索を掛けると、コージ・オータニ、リアル・パンサーといった名前が上がって来た。

まっ、だいたい納得ニャン。全部まとめて、いや決勝で相手してあげるニャ。

さてと、せっかくのお祭りニャン。銀河帝国の威信を掛けて、バッチリ賞金も掛けるニャー。

しかし、東郷源九郎、全くファイトスタイルが読めないニャー。まずはトーナメントの初戦の様子を我が輩も他のネコ族に紛れて観戦するニャー。

こうして伝説の黒猫、太陽の名を持つソレイユ・シャノワールの主催する新生キングオヴギャラクシーは地球暦で半年後に開催が決定した。

登場！ 東郷源九郎

新生キングオヴギャラクシー、トーナメント一回戦の組み合わせが決定した。

第一試合、リアル・パンサー VS 東郷源九郎

第二試合、西郷詩郎 VS コージ・オータニ

第三試合、アルセーヌ・ポルゴ VS ジェラルール・ボルドー

第四試合、ライアン・ヤマモト VS トシアキ・フジワラ

圧倒的な好カードの下で、このトーナメントの勝者が決勝で銀河の大王に挑戦するというシステムになっていた。場所は銀河帝国の新首都惑星ネオワールド。

第一試合、リアル・パンサー VS 東郷源九郎が始った。

観客は東郷が入場した瞬間、一瞬どよめいた。あのミスター東郷の名は遥か銀河帝国まで知れ渡っていたのだ。そしてリアル・パンサーの入場。最強の獣人だ。

東郷はクリーンにパンサーと握手をすると、ゴングが鳴った。

東郷は一貫してUスタイルの総合格闘技の構えだ。パンサーも同様だ。

まずはリアルパンサーがジャブから左のローを放つ。

東郷は右足を一瞬引くと、返す刀でタックルを放つ。

パンサーは野生の勘で今のタックルを潰す。天然のバネを活かしてタックルに来た東郷を持ち上げると、そのままドリル・ア・ホール・パイルドライバーを放つ。

ゴッチ式か、やるニャン。こっちのパンサーも。

会場のネコ族に混ざって観戦していたシャノワールはつぶやいた。

しかし東郷もそのまま倒立して今の技から抜けた。その後、両者はスタンド勝負に移行した。

今度は東郷はぶっ放し気味に左フックを放った。その後、渾身の右ストレートから左のボディだ。

今のボディが入った瞬間、リアル・パンサーが一瞬崩れ落ちたかに見えた。

その後、東郷は首相撲に持ち込むと、強烈なヒザの連打を放った。その連打の後、腰を入れて払腰でパンサーを投げ放つと、ダウンカウントを場外レフリーに要求した。

勝負は着いた。東郷の KO 勝ちだ。

もう一つの王道

第二試合、西郷詩郎 VS コージ・オータニがはじまろうとしていた。

オータニは今回、最大級の隠し球を持っていた。気の技術を取得していた。

ラフなジーンズに T シャツのオータニと、柔術衣に袴姿の西郷が入場する。

ゴングが鳴った。

オータニはロックアップから、力比べへと移行した。

西郷は相手の手首を捻って、小手返しの要領でオータニを投げ放つ。

オータニはエビの要領で、間合いを取ってスタンド勝負に戻す。

接近戦では、西郷は一本背負い崩れの山嵐がある。しかし、観客の誰もが、オータニ相手に、大技山嵐を出すまでもないと思っていた。

一方、反則技のレパートリーであれば、確実にオータニは西郷を上回っていた。有刺鉄線ファイヤーバット、毒霧、火炎攻撃、仲間のゴトウの乱入など、波乱の要素を含んでいた。

オータニは一端、ロープに体をゆだねると、反動を利用してラリアットを放つ。

西郷はカウンターの脇固めに捉える。

しかしオータニは頭を軸に回転して、脇固めを外した。

その後、ヘッドスプリングで立ち上がるオータニ。

立ち上がったオータニは張り手の連打で西郷をコーナーまで押し込んだ。その後、キックの嵐で西郷を踏みつけていた。

西郷は今のキックの嵐を、下段の当て身投げで切り返すと、ダウンしたオータニに向かって、立ち上がって来いという合図を手で送った。

スタンド勝負を受け入れたオータニは、またロープに身を委ね、反動を利用してラリアットを放った。

完全にラリアットが決まったかと思えた瞬間、西郷はオータニの上半身を掴むと、強烈な大外刈りを放った。これで勝負は決まった。観客の多くはそう思った。

しかし、オータニは今の的外刈りを読んで、西郷の頭を掴んで、デンジャラスドライバーオータニの体勢で捨て身の投げ技を放っていた。

西郷、オータニとも同体でマットに倒れ込んでいた。

西郷は、何事もなかったかのように立ち上がる。オータニもほぼ同時立ち上がった。

オータニはこう思念していた。

山嵐を出すまでないと思っているな。それにスタミナ配分を考えて、力をセーブしている。そろそろ俺も本気を出して、西郷の奥の手を誘いたい。

オータニはいきなり叫んだ。

ファイヤーじゃ、ワシは負けん！

オータニの両腕が炎のオーラに包まれた。気を具現化して、オーラで両腕を覆っていた。

強烈な張り手の連打で西郷を殴ると、その後ラリアットの体勢で西郷を振り切った。

なおも張り手の連打で西郷をコーナーに押し込むオータニ。オータニは一端腕のオーラを解いて、今度は膝にオーラを込めて、西郷の顔面に膝蹴りの連打を放った。

ついに西郷が両膝をマットについた。オータニはそのまま西郷を抱え上げると、天高く西郷を持ち上げ、カナディアンバックブリーカーの体勢に入った。

その後一気に西郷を全身全霊を込めて頭から投げ落とした。

サンダーファイヤーパワーボムが決まった。

これで、あの西郷も敗れるかと思えた瞬間、無言で再び立ち上がる西郷の姿があった。

西郷はトーナメントのスタミナ配分を考えて、本気を出していなかったが、今の投げ技を受けたことで、考えを変えた。

西郷はすり足で間合いをつめると、カウンター気味の右ストレートを放った。オータニがバックステップで今のストレートをかわして、反動を利用してジャブで反撃をした。

西郷は今のジャブをわざと食らうと、次のツー（ストレート）を誘った。

オータニが右ストレートを放った瞬間、西郷は一気に体を沈めると、全身のバネを利用して、オータニの右腕を抱え込み、同時にオータニの右足首を薙り払った。

オータニはダウンカウントを聞かざるを得なかった。

ワシはかつて邪道探偵と呼ばれた。しかし、ポルゴとの決闘を経て、もう一つの王道を見いだした。クリーンファイトで反則技を使わずに勝負して敗れることもあれば、本望。ルールを守ってクリーンに戦うことに意義があるとポルゴは教えてくれた。西郷相手に山嵐を出させれば、満足と言うべきではないか。

しかし、セコンドのゴトーは、泣きながら叫んでいた。

立て、立つんだ、オータニ。俺たちは邪道と呼ばれてさげすまれて来た。ここでもう一つの王道を見せるんじゃないのか。

オータニはカウント 8 で、西郷の山嵐をまともに食らって起き上がった。驚異的なスタミナだ。

しかし、あれだけの攻撃を受けて、立ち上がっているのがやっただろう。

観客達はそう思っていた。

もう西郷は大技は山嵐改しか残っていなかった。決勝トーナメント一回戦で、最後の大技を出して手の内をさらすのか？ それとも西郷の辞書には、まだ究極の大技が残っているというのか。

立っているのがやっとのオータニに西郷は掴み掛かると、両者はダンスを踊っているかのような動きをした。最後に西郷がエイと掛け声をかけた瞬間、オータニは宙を舞って、頭から落ちていた。

西郷は隅落とし（空気投げ）をフィニッシュに使った。ただ体捌きと相手の力を利用して、オータニに最後のトドメをさした。

こうして西郷の KO 勝ちで勝負は着いた。

月の咆哮

第三試合、アルセーヌ・ポルゴ VS ジェラルール・ボルドーが始ろうとしていた。

ボルドーは盟友シャノワール、つまり銀河の大王と組んだことで、打撃中心のクリーンファイトの重要性を理解した。

ポルゴは、今回の試合も妻子を会場に同行していた。

両者にとって負けられない一戦だった。

ボルドーは月世界を代表して、今回の勝負に挑んでいた。

ゴングが鳴る。

ポルゴがジャブを放った。ボルドーは下段にシャッセ（直線蹴り）を放った。

ポルゴは左足を引いて、今のシャッセをかわした。今後はボルドーはポルゴの鳩尾を狙って、シャッセフロンタル（前蹴り）を放つ。

ポルゴは今の攻撃で若干間合いを広げた。効いた。

ボルドーは右のフェッテメディアン（回し蹴り）から左の後ろ回し蹴りへとつないだ。

ポルゴは後ろ回し蹴りをキャッチして、バックを取った。

その瞬間、ボルドーは頭からマットに叩き付けられた。

タイガードラゴンスープレックスが決まった。

ボルドーは驚異的なスタミナで立ち上がる。

今までの俺だったら、ここで目つぶしでも使うんだろうな。しかし、男と男の勝負は、ク
リーンファイトであってこそ意味があると、俺はシャノワールに教わった。

ボルドーは左の後ろ回し蹴りを唐突に放った。

またもポルゴがキャッチしようとした瞬間、今度は強烈な肘でポルゴを突き放す。

そのまま、膝の嵐だ。

パパは、アルセーヌ・ポルゴは、絶対に負けないんだから…

ポルゴ夫人は、夫以外にもトトを賭けながら、そう叫んでいた。

ポルゴは膝をキャッチすると、タックル気味にテイクダウンを奪った。

ガードポジションからも、強気に打撃を放つボルドー。

ポルゴは打撃を食らいつつ、パスガードすると、マウントに持ち込んだ。

一瞬、逆十字を狙ったかに見えたが、体を入れ替えて得意の肩固めでフィニッシュした。

ポルゴの一本勝ちだ。

鬼神

第四試合、ライアン・ヤマモト VS トシアキ・フジワラがはじまった。

ライアンは打撃はサバット、組み技は高専柔道+ブラジリアン柔術。一方、フジワラはUスタイルの総合格闘技とムエタイベースだった。

超満員の会場の熱気と共にゴングが鳴る。

ライアンは打撃を捨てて、いきなりマットを這い出すと、低空タックルに行った。

グラウンド上等！ というフジワラの声が聞こえそうだ。

フジワラは今のタックルを潰すと、ライアンの右腕を捉えた。一瞬の切り返して、フジワラデスロックが決まった。

ライアンは頭を支点にして、立ち上がった。

今度は打撃で勝負に出る。

シャッセバー（下段横蹴り）から右のフェットメディアンにつなぐ。フジワラは驚異的な反射神経で、今のミドルをキャッチすると、ドラゴンスクリューに捉えた。その後、すかさずフィギュアフォーレグロックに捉える。

今の足四の字を、腕の力でひっくり返すライアン。ライアンは技を解くと、再びスタンド勝負を要求した。

タックルは潰す。打撃はキャッチする。次の手は何だ？

フジワラはいきなりのヘッドバッドから左右のミドルを放つ。ひるんだライアンに飛びつき逆十字を仕掛けるフジワラ。

フジワラが飛びついて来たことに対して、素直にグラウンドに引き込まれることにしたライアン。ライアンはまだ逆十字をブロックしていた。フジワラが、下からの三角締めに移行しようとした瞬間、一瞬の間隙をついてヒールホールドを決めた。

やや、強引であったが、今のヒールホールドでライアンは一本勝ちした。

伝説の死闘

第五試合、東郷源九郎 VS 西郷詩郎が始った。

東郷は今回柔道着を着ていた。一方の西郷は袴に柔術衣だ。

ゴングが鳴る。

東郷は打撃を捨てて、無心に西郷に組みかかる。反射的に西郷も組んでしまった。

東郷の表情が変わった。一瞬、獲物を得た獣の顔になった。ひたすら掴んだ西郷の顔面に肘と膝のラッシュだ。

西郷は一瞬両手を突っぱねると、再び掴み掛かってきた東郷の右腕を抱え込んだ。そのまま一本背負い崩れの山嵐の体勢になる。

西郷が右足で東郷の右足を刈り払おうとした瞬間、西郷は宙に浮いていた。

そのままカウンターのバックドロップで西郷を叩き付ける東郷源九郎。

来いよ。立ち上がって。

源九郎が叫んだ。

立ち上がる西郷にもう一度山嵐を出してみろと挑発する源九郎。

今度は西郷は、源九郎の右襟と右袖を掴み、まさに電光石火の山嵐を放った。

東郷は西郷の必殺技、山嵐を受け止めると、そのまま背後にスライディングして、捨て

身の谷落しを放った。

今の谷落しで西郷は頭を強打していた。そのまま KO が宣告された。

東郷源九郎の実力が証明された歴史的な一戦だ。

ジパング魂

ポルゴ VS ライアンの試合が始まった。

両者共にジパングを代表する格闘家だ。ポルゴは古武術＋Uスタイル、ライアンはサバット＋高専柔道というのが基本スタイルだ。

前回の勝負ではポルゴ扮するパンサーとライアンは引き分けている。今回で全ての決着が着く。

ポルゴは全身の気をマックスまで高めていた。紫色の神々しいオーラが具現化していた。一方、ライアンはまだ気の技術を習得してはいなかった。

ポルゴはワンツーミドルという基本的な技を放った。ライアンは今のワンツーをバックステップでかわすと、右腕でミドルを受けた。

ガードの上からでも今の一撃は効いた。

ライアンは左のシャッセから右のフェツテを放った。ポルゴは右のミドルをカウンターで放つ。

相打ちかに見えた瞬間、ダウンしているライアンの姿があった。

そうか、ライアンは操気術の心得がないんだ。オーラをマックスまで高めて勝負すれば、ダメージのケタが違う。しかし、短期決戦に持ち込まないと、オーラの消費量が大きすぎる。若さから言っても、持久戦はライアン有利だな。

そう思念するポルゴ。

立ち上がったライアンをワンツーボディ、アッパーと畳み掛けると、最後に後ろ回し蹴りを顔面に当てて、ポルゴはノックアウト勝ちをした。

新生

キングオヴギャラクシー準決勝、ポルゴ VS 東郷源九郎の試合が始まった。

ポルゴ、東郷共に源流という古武術をベースにした総合格闘技の使い手だ。しかし、東郷には隠し球があるかもしれない。

ポルゴは一気に全身の気を高めると、紫色のオーラを爆発させていた。

一方、東郷はオーラを不敵に漂わすと、青色のレベルでとどめていた。

オーラの量であれば、ポルゴが勝っていた。

ゴングが鳴る。ポルゴは左のコークスクリューキックで蹴りかかる。東郷は今の蹴りを片手でガードすると踏み込んだ。右ストレートから左フック、右ボディのコンビネーションを放つ東郷。

ポルゴは右ボディに、右の肘でカウンターを合わせた。

両者共に間合いを取る。

パパ、頑張ってー。ジュニアも応援するのよ。

と言いつつ、トトではシャノワールにも賭けているポルゴ夫人。

ポルゴが右ハイを放つと、東郷はあろう事か、右腕と首で右ハイをキャッチして、キャプチュードスープレックスに移行した。

今の東郷の投げでダメージを受けたポルゴ。

これが、東郷源九郎の実力か…

正直厳しいな。せめてもう一度だけ気を全開にして勝負すれば。

ポルゴは全身のオーラを高めて、ジャブから右のストレート、左の後ろ回し蹴りを放った。

カウンターで東郷が右のトラスキックを放った瞬間、ポルゴは東郷のバックを一瞬にして取った。その後、左腕をハーフネルソン、右腕をチキンウィングに捉えると、必殺のタイガードラゴンスープレックスを決めた。

ポルゴはブリッジしたままの体勢から立ち上がると、いったん間合いを開いて様子を見ていた。

今の投げを食らって、不敵に立ち上がる東郷の姿があった。

もうオーラが見えないな。さすがに今の攻撃を食らって、体力と気力を消耗したな。

...オーラは七段階ではない。八段階目の見えないオーラがあることをポルゴはまだ知らなかった。

東郷は全身のオーラを一気に高めると、ポルゴには見えない第八段階のオーラのレベルまで高めた。

一瞬、全身の気を手のひらに集めると、一気に解放した。

ギャラクシーウェーブ・ネオ！

会場の観客達には、今、東郷の放った衝撃波でポルゴが倒れるのが目に見えた。

東郷の新必殺技で、勝負は着いた。

決着！

新生キングオヴギャラクシーの決勝が始まろうとしていた。

東郷源九郎の前に立ちはだかるのは、ソレイユ・シャノワールこと、今の銀河の大王だ。

シャノワールもオープンフィンガーをはめていた。

ゴングが鳴る。

東郷は一気に全身の気を高めると、また掌から衝撃波を放った。

シャノワールは両手で今の気弾を受け止めると、肉球からオーラを吸収した。

東郷は左ストレートから右のフック、左のボディと連打する。

今の攻撃をバックステップ、ブロッキング、ガードするシャノワール。

東郷は間合いを詰めると、ボディタックルに行った。その後、フロントスープレックスに切り替え、後方に弧を描いてシャノワールを投げた。

空中で一回転して、立ち上がるシャノワール。

我が輩に投げ技は通用しないニャ。あの山嵐もかわす自信があるニャ。それは、お互い

様かニャ。気弾攻撃は吸収、投げはキャット空中回転。さあ、どうするニャ。

東郷はバックステップをすると、全身のバネを利用してシャノワールに蹴りかかった。
ドロップキックだ。

今のキックをバックステップでよけたシャノワールは、左右のローキックを放った。東郷は今の蹴りを膝の辺りで受け止めると、左右の肘でお返しをした。

まだ、君はネコ族の本当の恐ろしさを知らないニャ。でも、我が輩もそろそろ本気を出すことにしたニャ。

オープンフィンガーを投げ捨てると、両手の爪を出すシャノワール。

遊びは、終わりニャ。

離れた距離で左右のフックを放ったかに見えたが、シャノワールの爪が東郷の顔を攻撃していた。その後も、シャノワールがロングレンジのアップパーを放ったに見えたが、これも爪による攻撃だった。

最後にシャノワールが右のキックをボディに放つと、東郷はダウンした。

ダウンした東郷を、シャノワールは尻尾を使って、スリーパーに捉えた。

変形裸締めによる一本勝ちだった。

決着が着くと、会場にいたレイナが東郷に駆け寄った。

「俺は親父の息子であることを証明出来なかった。本当ならば、優勝したかった。」

「何言っているの？ あなたは立派な二代目ミスター東郷よ。まるで、父さんが戦っているかのようだった」

「我が輩もひさしぶりに本気を出したニャ。君は太陽系一のジパング人ニャ。まだ世界では二番目だけど。」

「もう一度俺と戦ってくれるか？ 大王」

「それは君次第ニャ。またトーナメントで決勝まで来れば、いつでも相手するニャ」

こうして銀河に轟く名勝負は着いたのだった。

銀河を翔る、恋

沈黙の三代目

地球圏のとある都市国家では、地球連合政府に加盟を拒否して、核武装することで、独立を保とうとしていた。

当然、核武装やそれに伴う紛争は、一般市民に多大なる不安や悪影響を与える。特に銀河帝国では、核汚染を極端に嫌っていた。帝国の版図を外れていたとしても、核戦争や核汚染は思想的に嫌われていた。

人類が宇宙に出てからの数世紀、太陽光発電を衛星軌道上で行い、軌道エレベーターや、高分子電線を使って地球圏に電力を供給する方法が採られていた。ただし、過去の利権上の問題から、旧世代の電力発電方法が未だに用いられている地域があった。

ジパングにも20カ所程度、旧式発電所が残っていた。そして、とある都市国家は、近隣のジパング地方の旧式発電所へ向けてミサイルを発射することをちらつかせては、独立維持や経済支援の理由にしていた。

将軍と呼ばれる独裁政権も三代目まで続いていた。

未だ、ソシアリズム・コンプロダクション制度を取っている旧式の都市国家だった。

「そんなぼろ国家、ほっとけば、自然消滅するんじゃない？」

「ああ、そうだろう。でも、やつらは新興宗教やクローン貿易といったあくどい手法や、核武装や旧世代発電所のミサイル攻撃をちらつかせている。今、始末しないと、いずれジュニアの世代にはジパングに住めなくなることもありうる。」

「じゃあ、その三代目の将軍を倒すの？」

「あんな奴、直接手にかけるまでもないさ。かつての旧火星皇帝のように、いつかは市民の手で処分されるだろう。しかし、そのためにはあのぼろ国家の市民に正確な圧政の情報を流す必要がある。」

「情報兵器ね。それに、ソシアリズム・コンプロダクション制度は一見平等をうたっているけど、実際は都市と農村、軍と文民では、大きなカーストの違いがある。不平等の再生産体系と言うべきね。」

「俺は銀河帝国のとある首脳から、あのぼろ国家の核武装やミサイル配備、それに独裁政権を倒すべく依頼を受けている。協力してくれるよな？」

「もちろん、ポルゴさん。いや、あなた」

「月世界からの支援はまだなのか？」

「偉大なる将軍様、月世界は新しい法王のもとで、完全な民主主義に移行しました。それに伴い、我々の国家の支援を打ち切ろうと宣言しております。」

「金星フロンティアからの生物兵器の手配は？」

「それも遅れております。金星人達は、我々を非人道的組織として指定し、軍事協力を拒否して来ました。」

「仕方ないな。そろそろジパングにミサイルでも打って、我々の真の軍事力を見せつけよう。」

「ジパング地方を敵に回して、生き残ることが出来るのでしょうか？」

「出来る！ 我々はもともと一つの独立国家だった。それをジパング人達が野蛮な植民行為を行って、国家が南北に分断された。本当に必要なのは、力と独立だ！ 私に、将軍様について来い。」

とある都市国家は独立国家 SRK を名乗り、地球圏の完全掌握を目論んでいた。ソシアリズム・レパブリック・K（K は地域名の頭文字）の略称だ。

そして SRK は銀河帝国の腕利きエージェント、マダム・アワヤを大金を積んで雇用すると、逆に地球圏、特に宿敵ジパングを代表するエージェント、サイバー探偵アルセーヌ・ポルゴ排除計画を立案した。事前に、ポルゴが SRK の独立計画を銀河帝国から妨害することを察知した SRK の将軍はマダム・アワヤにポルゴの存在を社会的に抹消することを依頼した。

銀河を翔る

銀河超一流のエージェント、マダム・アワヤは SRK からの依頼を受けると、すぐに独自のネットワークでアルセーヌ・ポルゴの弱点を見抜いた。

ライバル、西郷詩郎、東郷源九郎など。弱点、家族。

マダム・アワヤはさっそく地球圏に降り立つと、ジパングで諜報活動を開始した。表向きは、歌手マダム・アワヤとして活動し、裏の顔は超一流の暗殺者兼エージェントだった。

銀河帝国で活躍しているマダム・アワヤは地球圏では全く無名、いや、知る人ぞ知る存在だった。

マダム・アワヤはジパングチャンネルの音楽番組のインタビューで、こう語った。

「好みのタイプですか？ そうですね、強くて格好いい人。それに優しくれば、ベストかな。総合格闘家の東郷源九郎さんがいいですね。出来れば、お見合いしてみたいな。」

ジパングに滞在していた東郷源九郎は、偶然見ていたジパングチャンネルで自分の名前が登場したことに驚くと同時に、こうつぶやいた。

「お見合い、面白い。直接会って話してみたいな。」

ミスター東郷の遺伝子を継ぐ者である東郷源九郎がマダム・アワヤの誘惑を無視することなど、あり得なかった。

マダム・アワヤはプロ版アイウォッチの機能で、フレンドネットに繋がると、東郷源九郎のメールアドレスを割り出し、「キングオヴギャラクシーを生で見ているファンで、歌手のアワヤと申します。よかったら、今度お茶しませんか？」というメールを送った。もちろん顔写真付きだ。

東郷はマダム・アワヤと会うことにした。

東郷はポルゴ夫人にジパングのデートスポットを聞くと、まずはザ・ブラック・キャットという喫茶店が雰囲気が高く聞いていたので、そこを待ち合わせ場所に指定した。

ブラック・キャットを訪れた東郷はバックミュージックにマダム・アワヤの曲「哀愁のSeptember」がかかっていることで安心した。

待ち合わせ時間5分遅れで現れたのは、間違えなくジバングチャンネルで見たマダム・アワヤだった。

「ごめんなさい。待ちましたか？」

「いや。全然」

と言いつつ、待ち合わせ時間の30分前から待っていた東郷だ。

「ギャラクシーを生で見せてくれていたんですってね。あれは新首都惑星ネオワールドだったから、もしかして君は銀河帝国出身？」

「宇宙人はお嫌いですか？ 私は銀河帝国出身のジバング移民です。」

「いや、俺も宇宙人みたいなもんさ。銀河帝国で生まれた。父は東郷源一郎。母は、わからない。」

「お互い苦労してきたんですね。両親は銀河帝国出身ですが、私は今、生活のためにジバングに移民して異国の言葉で、歌を歌って生活しております。ジプシーみたいな者です。」

東郷源九郎は思った。どうせ結婚するんだったら、ジパング人よりは、異邦人。異邦人よりは、宇宙人と。スケールがデカくて、いいじゃないか。惑星間結婚、最高。しかし、確認しておきたいこともある。

「ジプシーでいいじゃないですか。私もジパングに実家みたいなものがありますが、出入り禁止の身です。国籍は銀河帝国にあります。私は、一度でいいから、宇宙間結婚をしてみたいと思っています。国も惑星も、銀河も違う。でも、心はひとつ。それでいいじゃないですか？ 時間と空間を超越するものがこの世界にあるとしたら、たぶん」

「♪刻を越えて、惑星（ほし）を越えて、ただ一つあるの。それは、愛♪」

マダム・アワヤの曲「アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンド」が流れた。

マダム・アワヤはこの曲をレコーディングした時に、内心、「♪刻を越えて、惑星（ほし）を越えて、ただ一つあるの。それは、マネー♪」と替え歌を作っていた。二番はこの歌詞にしようと主張したが、プロデューサーのヤン氏によって断られた。「アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンド」は「愛はいつも世界を超越する」という題名だ。

「いい曲ですね。同感だ。」

マダム・アワヤは恋する乙女（おんな）の表情を浮かべると、こう切り出した。

「私は今まで恋の歌をいくつも歌ってきましたが、本当の恋に出会ったのは今日が初めてだった気がします。」

心にもないセリフだったが、だからこそ気持ちを込めて言ってしまった。演技力には、絶対の自信があった。

「♪あなたは最高の恋人（ひと）。そして、私の最後の恋人♪」

今度はマダム・アワヤの新曲「ラスト・ラヴァー」が流れた。

この喫茶店、会話の途中で、言いたいことが、全てバックグラウンドミュージックで通じてしまう。それだけマダム・アワヤのアルバム「銀河を翔る、恋」の楽曲の歌詞は強烈だった。

笑顔が絶えない東郷に、マダム・アワヤは本題を切り出した。

「東郷さんにだけは、本当のことを話してもいいわね。歌手は、仮の姿。」

「わかっている。俺も銀河帝国出身だ。エージェント・マダム・アワヤ。アルセーヌ・ポルゴの社会的抹殺とSRKの独立があなたの仕事（ミッション）だろう。」

「♪でもね、私の心は一つ。あなただけよ。TRUE LOVE ♪」

銀河の名曲「TRUE LOVE」が流れていた。

「協力してくれるかしら？」

「ああ。そろそろ平和な時代には飽き飽きしていたころだ。何なら銀河征服にだって、力を貸すさ。」

こうして、東郷源九郎はマダム・アワヤの作戦に協力することを誓った。

危機！ 迫る

東郷源九郎は、マダム・アワヤに協力することは誓ったが、ポルゴを直接手を下そうとは思わなかった。ギャラクシーで一度倒した相手だ。力関係ははっきりしたはず、だ。

むしろ、公の場でマダム・アワヤとポルゴを決闘させ、始末させることを選んだ。この世界で、いくらなんでも素人の女性に敗れては、サイバー探偵として生きていくことは出来ない。そう判断した。

マダム・アワヤは姑息な手段であったが、ポルゴへの公開挑戦状と共に、彼の妻子の写真を貼って送った。もし挑戦を断ったら、その時は...

ポルゴは激怒した。しかし、このような手段を使ってくる相手が、彼に敵う人間でないこともわかっていた。

「わかっているのは、あなたよ。私は、マダム・アワヤ。手段を選ばない女だわ。」

ポルゴが気がかりだったことは、恩師の息子、源九郎がマダム・アワヤと交際していることだった。しかし、他人の彼にどうこう言う資格はない。

「ユメミ、いい儲け話がある。ちょっと金星フロンティアまで、ジュニアと旅行にでも行ってきたら、どうだい。金星で新しいサイバーウィルス駆除会社が上場したらしい。その株を買い占めたら、どう？」

ユメミ夫人は、既にその会社の株の一部を取得し、さらに、保険でライバル会社の株を買い占めていた。

「いい話ね。ジュニアにも金星で銀河ワニやパープルパンサーを生で見せてあげないと。情操教育も重要よね。」

内心、ユメミ夫人は夫が危険を感じて、妻子を疎開させようとしていることに気付いていた。マダム・アワヤという歌手の女性に、公開挑戦状を送りつけられ、しかもそのバックに源九郎までいる。

ユメミ夫人は、マダム・アワヤが今まで 100 人を越える銀河帝国の要人、その中には龍族も含まれる、を暗殺してきた事実を知っていたが、努めて冷静にこう告げた。

「気をつけてね。あなた。」

マダム・アワヤは公開挑戦状で、対決の場を SRK の首都、シティ・ビヨンドに指定した。セコンド是一名のみという条件付きだ。

マダム・アワヤはセコンドに東郷源九郎を指名していた。一方、ポルゴはセコンドに正義感の強いメキシコ流カラテの達人、ジュン・バードを指名した。

対決は一ヶ月後に迫っていた。

決闘！

SRK の首都シティ・ビヨンドでは、マダム・アワヤのコンサートが開かれていた。

「♪運命の恋人（ひと）。それは、あなた♪」

「♪いま惑星（ほし）を越え、刻を越え、それは Ai（愛）♪」

曲だけだったら、支持出来るが、問題は家族を人質にするような汚いやり口だ。

俺は単身、SRK に潜入すると、マダム・アワヤの公開挑戦を受け入れた。

コンサートの後、ランバージャックデスマッチをマダム・アワヤは提案してきた。

コンサート会場で、ジュン・バードと合流すると、俺たちは指定の時間までイライラしながら、待っていた。

「アンコール！ アンコール！」

「アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンド」が終わり、アンコールの声に答えて、「ラスト・ラヴァー」が演奏されていた。

「ポルゴさん、奴ら卑怯です。絶対、ロスト・ラヴァーにしてやりましょう！」

ジュン・バードは言った。最後の恋人を「失恋者」にするという意味だ。

「今日、会場に来てくださった皆様に、最後に私の本当の恋人を紹介します。」

会場には「TRUE LOVE」のインストゥメンタルが流れていた。

「東郷源九郎さんです。そして、私は、彼と一緒に、とある地球圏のワル者に挑戦を挑みます！」

「その相手は...アルセーヌ・ポルゴです。」

会場の真ん中に轟音と共に突然リングが現れると、地球の名曲「Un Altra Vita」（ジパング語で新生を意味する）が流れた。

俺はリングインした。

「私は、私たちは絶対に負けません。対戦方法はランバージャックデスマッチ。特別レフリーは西郷詩郎さんです。決着は、KOのみです。ギブアップもなし。」

...なめてんのか？ と思う。ギブアップなしのルールで、ランバージャックか。相手は相当の自信があるようだな。

もちろん、俺はランバージャックであろうと、セコンドのジュン・バードには一切手出しは無用と断っておいた。

念のため、全身のオーラをマックスまで高めていた。紫の段階だ。

一方、マダム・アワヤはオーラすら一切出さなかった。

事前に、俺はマダム・アワヤがただの歌手ではなく、銀河帝国を代表するエージェントであることを察知していた。また、前回の東郷源九郎との戦いで、紫を越えた見えないオーラを使う相手が、この広い銀河には存在することを知っていた。

会場に「ファイナル・ウォーリア」が流れると、リングにゆっくりとマダム・アワヤと東郷源九郎が近づき、笑顔でマダム・アワヤがリングインした。

特別レフリーの西郷が、ランバージャックデスマッチで、決着はKOのみであることを告げると、こう言った。

セコンドアウト。ファイト！

ゴングが鳴る。

相手の流派もわからない。ただわかることは、相手は桁違いに強いことだった。あの先代の銀河の大王すら、「危険だ。マダム・アワヤには近づくな」と警告してくれた相手だ。

ジュニアとユメミの顔が思い浮かぶ。

マダム・アワヤはガードを中段に構えていた。

俺はこの試合、Uスタイルで勝負に出ると誓った。

アップライトに構えると、いきなりの右ローキックだ。マダム・アワヤは今のキックを前足を上げてカットすると、そのまま左の前蹴りを放ってきた。

ファーストコンタクトで相手が、ジパングで言うところの伝統空手をベースにしたオリ

ジナルな格闘技の使い手であることを見抜いた。

「ポルゴさーん、冷静に。ここは打撃で様子を見ましょう。」

前蹴りをバックステップでかわすと、相手は一旦右手を腰まで引いて、右の正拳突きを放ってきた。これもバックステップでかわす。俺は踏み込むと、右のミドルを放った。

マダム・アワヤは左手でミドルキックを受けると、カウンターの右ストレートを放った。同時に俺はタックルに行くと、マウントを取り、一気にパウンド勝負に出た。

マダム・アワヤはパウンドをガードしながら、ブリッジすると俺をはねのけた。驚異的なバネだ。

俺はスタンド勝負を要求した。

一方、マダム・アワヤは下から俺の膝を狙って、イノキ・アリ戦状態から、一瞬の間についてヘッドスプリングで立ち上がった。

マダム・アワヤは今度は掌底気味のストレートからフックと繋いで、俺がカウンターでボディタックルに行ったところ、わざと今のタックルを受けた。そのまま俺がコーナーまで同体で進むと、マダム・アワヤは全身のバネを使って投げっぱなしのフロントスー

プレックスを放った。リング外にロープを越えて吹き飛ばされる俺。一方、敵コーナーでは、セコンドの東郷が待っていた。ストンピングの嵐で俺を踏みつけると、何とか立ち上がった俺に、東郷は強烈なボディを放った。そして、無理矢理リング内に押し戻された。

ランバージャックデスマッチの恐ろしさだ。

「ポルゴさん、いったんコーナーまで戻ってください。こっちのコーナーを常に背にして戦えば、東郷は手出し出来ません。」

ジュンのアドバイスが聞こえた。

俺は自分のコーナーに戻って、構えた。

打撃のセンスは相手がやや上だった。スープレックスまで相手は使いこなしていた。こうなったら、サブミッションしかない！

俺はいったん身体をロープに預けると反動を利用してラリアットに行った。マダム・アワヤもカウンターのラリアットを放った。

この時を待っていた。

俺はフジワラデスロック（ワキ固め）に捉えると、一気にアワヤの右腕を極めに行った。ギブアップもなく、相手が家族を人質に取ることを暗示している以上、折るしかなかった。

ポイントは完全につぼに入っていた。力を込めるが、アワヤは一方、苦しそうな声も上げなかった。

「私は地球圏の人間ではない。銀河帝国出身の異種族だ。関節技は通用しない！」

折れよとばかりに力を入れたが、無駄に終わった。

「ポルゴさん、いったんスタンドに戻しましょう。」

俺は技を解くと、スタンド勝負を受け入れた。

マダム・アワヤはあろう事か、ギャラクシーウェーブ・ネオの体勢に入っていた。

俺は目視で今の技を見切ると、ガードを顔面の前に置き、オーラを紫の状態で両腕に集中させた。

一瞬、会場がフラッシュが焚かれたかのようにに輝きを放ったが、マダム・アワヤのギャラクシーウェーブ・ネオは見えない気弾を放ち、俺はコーナーぎりぎりまで押し返された。

「ポルゴさん、ここはフェニックスファイナルアタックです！」

マダム・アワヤが大技ギャラクシーウェーブ・ネオを放ち硬直している瞬間、俺は左足にオーラを込めて、後ろ回し蹴りを放った。具現化したオーラがマダム・アワヤの身体に燃え移り、一瞬だけマダム・アワヤの身体が炎上したかに見えた。

「今です。トドメです！！」

俺はマダム・アワヤにボディタックルをかますと、相手が反動で前に進んできた瞬間、一気に相手の身体を門に極め、フロントタイガードラゴンスープレックスを放った。

ゴングがなった。

フロントタイガードラゴンスープレックスによる KO で決着は着いた。

ゴングと同時に、SRK の将軍はジパングに対してミサイル発射の指示を送ったが、既に SRK に潜入していたジョー・ヨーシ 12 世によって、全てのミサイルは破壊されていた。

リングに東郷が駆け寄ると、マダム・アワヤを介抱していた。

「今日から、俺たちは敵同士だ。覚えておけよ。アルセーヌ・ポルゴ！」

こう東郷は言い放つと、マダム・アワヤを抱いて会場を後にした。

ジュン・バードは西郷詩郎に「実はマダム・アワヤはポルゴさんの家族を人質にとると脅していたんです」と事実を話すと、西郷はこう答えた。

「そんなことだろうと思っていた。しかし、私はアルセーヌ・ポルゴの実力を信じていた。彼の心は簡単には、折れない。」

ジュン・バードが親友のジョー・ヨーシ 12 世のアイウォッチに連絡を取ると、ジョー・ヨーシ 12 世は、情報兵器のスイッチを入れた。

SRK の市民に、將軍の本当の姿が伝えられると、すぐに暴動が起こり、SRK の三代にわたる独裁政治は終止符を打ったのだった。

強敵、東郷源九郎がポルゴ打倒を宣言し、マダム・アワヤと手を組んだことを除けば、アルセーヌ・ポルゴの、そして自由を愛する旧 SRK の市民の勝利は、疑いがなかった。

絆

旧 SRK での一件で、かえって東郷源九郎とマダム・アワヤの距離は縮まった。打倒アルセーヌ・ポルゴ、キングオブギャラクシー制覇、銀河帝国を牛耳るといった野望は共通だった。

東郷源九郎にとって、マダム・アワヤと時間を共有することは、とても安心感があり、くつろげることだった。

一方、マダム・アワヤにとっても、東郷源九郎と一緒に過ごす時間は、解放感があると同時に相手の包容力を感じずにはいられなかった。

「哀愁の September」「アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンド」「ラスト・ラヴァー」「TRUE LOVE」どの曲も彼らの共有する穏やかな時間を象徴していた。

マダム・アワヤは東郷源九郎と過ごすことで、新しい曲と歌詞が書ける。自信と確信があった。

惑星間結婚では子孫繁栄は難しいかもしれなかったが、パートナーと充実した時間を共有するというメリットには代え難かった。

「アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンド」は愛はいつも世界を越えるという意味であり、「ラスト・ラヴァー」は最後の恋から本当の愛がはじまるという意味だ。

「また新しい曲と歌詞が思いついたの。」

「どんな曲？」

「♪絆。私たちの絆は、惑星（ほし）を越えてゆく。そしてまた刻を越えてゆく。絆は、永遠♪」

かつてマダム・アワヤが「アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンド」を歌い始めた頃は、その曲に願いを込めていたが、実感はなかった。しかし今、「アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンド」の曲の意味は身にしみてわかった。「哀愁の September」を歌い始めた頃の、孤独だった自分もういない。新しい「絆」の意味に目覚めた自分が、ここにいる。

また新しい曲のアイデアが浮かんだ。

「♪ SENZA TE. 君なしではもう、僕はいられない。SENZA TE ♪」

「そう言えば、君に紹介しておきたい人がいるんだけど…」

「誰？」

「俺の姉だ。唯一の血の繋がった肉親だ。」

「あぁ、お姉さんね。キングオブギャラクシーの決勝で見たわ。綺麗な人ね。」

「私も、紹介しておきたい人がいるんだけど」

「誰？」

「グランパ、銀河では超有名な元殺し屋で通っているけど」

「えっ？」

「プリンス・ネコマタよ。私実はネコ族のクォーターなの。国籍は銀河帝国。」

「道理であんなに強いんだ。」

若干、マダム・アワヤの耳の形がネコ族に似ていると東郷は思っていた。しかし、自分も遺伝上の母親を知らないことは事実なので、お互い様だった。ネコ族は直立した人間だったし、クォーターなら子孫も作れるか。そんなことを東郷は考えていた。

東郷とマダム・アワヤはプリンス・ネコマタに会いに行った。

「はじめまして。東郷、東郷源九郎と申します。今日は、お願いがあってきました。」

「私はネコマタだ。伊達に尻尾が3本に別れる程生きてはいない。御主の願い、了承済みじゃ。しかし、条件があることをわかっておるな…」

「条件？」

「御主の父はプレイボーイで銀河に名を轟かしたあのミスター東郷じゃ。もし、ワシの孫以外の女に手を出した時は。」

一瞬、ネコマタが握っていた葉巻が粉々に砕けた。

「わかっているな。なーに、心配はいらない。私も地球人と結婚した身だ。御主達の子孫も繁栄するじゃろう。はやく、曾孫の顔が見たい。」

「グランパ、ちょっと照れちゃうわ。」

「ネオワールドでさっそく入籍の手続きを取らせていただきます。」

こうして東郷源九郎とマダム・アワヤは入籍した。

次の新曲は「チャオ！ チャオ！ バンビーナ」か「ラ・マリアージュ」のカバーになりそうねと冗談を言う東郷夫人だった。ジパング語に直せば、「こんにちは赤ちゃん」、「結婚」である。

二人はネオワールドの役所を出た時、「♪絆。私たちの絆は、惑星（ほし）を越えてゆくの。そしてまた刻を越えてゆく。絆は、永遠♪」と「絆」の歌声が聞こえてきた。空耳かと思ったが、その歌声がなぜか懐かしい。

「姉さん、レイナ姉さん」

「源九郎、あなた達二人を祝福しに来たの。アワヤさん、おめでとう！ そしてお幸せに」

「ありがとうございます。お義姉さん。」

こうして二人の新たなる人生の一步はここ銀河帝国で踏み出されようとしていた。新しい冒険と絆の物語がいまはじまる。その展開は、誰にも予想出来ないものになるだろう。

ギャラクシータッグトーナメント

プロフェッサー

ジパング大学理学部生物学科では、ライアン・ヤマモトと指導教授のプロフェッサー・ナガヤが卒業論文の計画を練っていた。

「銀河帝国には、まだ我々の知らない生物種や、人種まで存在しています。それを遺伝子レベルで解析を行い、銀河生態系との影響関係を調査します。」

「銀河帝国か。私はまだ地球圏止まりの研究者で、銀河帝国には行ったことがないです。龍族やネコ族といった異人種がいるんでしょう。もちろん、龍族やネコ族の持つ驚異的な力に関する論文は、何本も読んではいませんが。やはり卒業論文としては、地球圏の生物種と、銀河帝国の生物種を遺伝子レベルで分析し、比較検討を行うことが無難だと思います。」

「俺本当は、銀河帝国と地球圏の文明圏の比較をやってみたいです。」

「それは、博論レベルでしょうね。それにその論文は私の指導出来るレベルを越えるかもしれせん。」

ライアン・ヤマモトが公私共に師であり、友人でもあるこの男、ジパング大学理学系研究科生物学科情報生命体論研究室主任教授、プロフェッサー・ナガヤである。永谷教授はブラジリアン柔術とサバットを融合した独自のファイトスタイルを持つファイティング・プロフェッサーとしても知られる。ライアンは高校時代からサバットを練習していたが、ジパング大学に進学してから、高専柔道とブラジリアン柔術をファイトスタイル

に取り入れていた。高専柔道は、たまたま柔道部で出会ったが、自分の寝技にブラジリアン柔術のスタイルを取り入れたのは、プロフェッサー・ナガヤの勧めからだ。

「だいたい研究の話はそれくらいいいですね。ヤマモト君、単位も大丈夫そうですね。」

「文学部で聴講中の比較文明圏論の単位がくれば、楽勝です。」

「じゃあ、後は大学のジムに行って、格闘技の練習と行きますか。」

「はい。」

二人は大学のジムナジウムに到着すると、永谷教授は空手着姿のあるメキシコ人をライアンに紹介した。

「彼は私の研究所時代の親友で、エリック・ニシザキと言います。メキシコ流空手の黒帯の実力者です。」

「はじめまして、ライアン・ヤマモト。あなたのファイトはギャラクシー・ヴィジョンで見っていました。一度手合わせ願いたい。」

「軽いスパーだったら、いいですよ。俺はシューズ履いてますけど、いいですか？」

「私は空手家です。靴は履きませんが、お手合わせ願います。」

エリックとライアンのスパーがはじまった。

「構えて。アレ！」

ライアンは胸元に拳を構えて、サリュと言って礼をした。一方、エリックは顔面の前で拳を重ねて、押忍と礼をした。

ライアンはワンツー・ミドルで様子を見た。左ミドルを右ひじで受けるエリック。接近戦で、エリックは右フックから左アッパー、右ボディと畳み掛ける。

「出来るな。」

ライアンは左のシャッセ（直線蹴り）で間合いを取る。エリックはジャブから右の足払いだ。ライアンは燕返しを使うと、返す刀で左ハイを放つ。

きっちりガードして、バックステップを行うエリック。

ステップインしたエリックは左ローから右の横蹴りに移行した。

今の左をかわすと、ライアンは右の横蹴りを拳で叩き落とした。

両者は、いったん間合いを離れると礼をしてスパーを中断した。

「いや、さすがはメキシコ流空手黒帯ですね。ちょっと本気モードになりかけましたよ。」

「グラシアス、ヤマモト。私は打撃のみのスタイルで、寝技ではあなた達に敵いません。」

「そうですか。ヤマモト君、ひさしぶりに、私と寝技のスパーでもやりませんか。」

「プロフェッサー。出来れば、総合ルールでお願いしたいと思います。」

「いいでしょう。では、お互いにオープンフィンガーをはめて勝負と行きますか。」

ライアンとプロフェッサー・ナガヤのガチスパーがはじまった。研究室恒例のイベントだ。

両者礼をして、ライアンが構えた瞬間、永谷教授の音速タックルが決まった。

ライアンがタックルを切る暇もなく、ガードポジションで対処した。永谷教授は上からパウンドといった攻めは見せずに、ねちっこい寝技の攻防で、上からまず肩固めを狙っていた。ライアンは肩固めを嫌って、下からヒジで攻撃した。そのまま下からのキックで間合いを取り、両者立ち上がる。

今度はライアンが右のシャッセで距離を掴むと、ツーワンを放った。永谷教授は今のツーワンをブロックすると、右フックから左のアップパーを繰り出した。ライアンはウィーヴィングで今のパンチをかわす。

またもタックル狙いで来た教授に、ライアンが右の膝を合わせたところで、エリックが「時間です」と言って両者をわけた。

あのライアン・ヤマモトと互角のスパーが出来る最強の大学教授、プロフェッサー・ナガヤ。今だ独身である。

研究室の秘書達まで、永谷教授の影響で、格闘技の練習をはじめていた。

「ライアン君。私もフィールドワークを兼ねて、そろそろ銀河帝国に行ってみたくまりました。」

「教授、それでは、次のキングオヴギャラクシーの件、いいですね。」

「もちろん、その前に、君の卒論を仕上げてください。マスターに来てくれるんですよ。」

「はい。今の練習環境、いや研究環境に満足していると同時に、先生以外の人を先生と呼ぶ気にはなれないので。」

今から半年後、今度はタッグでのキングオブギャラクシーが開催されるという噂は、地球圏にまで届いていた。アルセーヌ・ポルゴや東郷源九郎といった実力者に加えて、ジパング大学師弟チームが優勝候補として話題になっている。

ブラジリアン柔術黒帯にしてサバットの使い手でもあるプロフェッサー・ナガヤが、あのライアン・ヤマモトと組むという衝撃的なニュースが、ポルゴの元にも届いていた。

「東郷源九郎は敵対しているし、パートナーの当てもないか。マリアさんは大学受験の準備で忙しいとか言ってるし、困ったな。ジュン・バードに頼んでみるか。それとも、西郷詩郎。それは、ないか。」

混沌とした状況の中で、全ての戦いに終止符を打つべく、現銀河の大王であるソレイユ・シャノワールは、ジェラルド・ボルドーにパートナーを依頼した。

ポルゴがパートナー候補に考えていた一人、西郷詩郎のもとには、銀河帝国の二人の龍族が直接挨拶に向かっていた。成人の脱皮を終えたばかりの、ギャラクティカ・ジュニアこと銀河帝国副首相と、ギャラクティカ・マグナこと前銀河帝国首相兼大王の二人は、直接西郷に頭を下げている。

「西郷先生、私とぜひタッグを組んでください。私は龍族としてのプライドを取り戻したいのです。そして銀河帝国を構成する全市民のために、代表としてもう一度働きたい。力

を貸してください。」

「西郷先生、ワシからも願います。息子を漢にしてやってくれ。」

ポルゴ夫妻のもとに、一人のジパング出身の科学者が訪ねてきていた。

「ユメミ、ひさしぶり。テツオちゃん、元気？ ポルゴさん、あの時以来ね。」

「ジュンコちゃん、まあ、お茶でも飲んでいってくれ。」

「ホシノ、用件は何？」

「キングオヴギャラクシーのポルゴさんのパートナーだけど、一人だけ、適任者がいるわ。」

「誰？」

「リアル・パンサーよ。彼だったら、ポルゴさんとの相性は抜群だわ。」

「なぜ？」

「だって彼は私がポルゴさんのデータをもとにデザインした最強のキマイラだから。」

「俺のデータ？ キマイラ？ 一体、何のことだ？」

「銀河最強の遺伝子を持つ男と金星ヒョウの複合生命体、それがリアル・パンサーの正体よ。私の理想の男をベースに作った最強の獣人。」

「やっぱり、ホシノ、ポルゴのことが好きだったんだ。」

「その話は置いて、私の科学者としての提案が、リアル・パンサーとのタググよ。次のギャラクシー、あの東郷源九郎も出るわ。東郷紀子夫人と組んで。」

「東郷紀子、一体誰だ？」

「マダム・アワヤよ。彼女、東郷と入籍したの。」

「そういうことか。だいたいわかった。」

「西郷師範は、銀河帝国の王子と組む。それにシャノワール大王は、ボルドーと組む。頼みの綱のライアンはプロフェッサーと組む。だったら、答えは一つよね。」

「わかったよ。俺はリアル・パンサーと組む。」

わかっていることは、ただ一つ。次のギャラクシーで銀河最強タッグが決まることだ。

銀河最強タッグトーナメント

いよいよ明日から、キングオヴギャラクシー、銀河最強タッグトーナメントが開催されようとしていた。見事予選を勝ち残り、決勝トーナメントまで残ったチームは以上である。

ジパング大学師弟チーム（プロフェッサー・ナガヤ&ライアン・ヤマモト）

西郷チーム（西郷詩郎&ギャラクティカ・ジュニア）

東郷夫妻チーム（東郷源九郎&東郷紀子）

ポルゴチーム（ポルゴ&リアル・パンサー）

銀河帝国代表チーム（銀河の大王&ボルドー）

なお、最初の4チームのみトーナメントで、トーナメントを制したチームが銀河帝国代表チームへの挑戦権を得ることになっている。

では、第一試合。プロフェッサー・ナガヤ&ライアン・ヤマモト組対西郷詩郎&ギャラクティカ・ジュニアを行います。

ジパング大学師弟チームの先発はライアンだ。そして西郷チームの先鋒は王子だ。

王子が構えると歓声がどっとわいた。前大王と同様、成人した龍族の姿に、最後の脱皮を遂げて成長していた。

ライアンが音速の低空タックルに行くが、王子はタックルを切って、潰した。すかさず上からのフロントチョークに移行する王子。

永谷教授がたまらずカットに入る。

コーナーから気配で牽制する西郷。

王子は全身の気を一気に高めた。音速の速さで、銀河最強の光線技、ギャラクシーウェーブを放った。

会場が光り輝く。

今のギャラクシーウェーブをまともにくらい、スタンドの体勢のまま気絶しているライアンの姿があった。

すかさず、ナガヤがリングインする。

「ボクは、西郷先生と勝負がしたい。」

そう言い終えると、コーナーの西郷をにらむプロフェッサー。

西郷がタッチしてリングインする。

ナガヤは右ひざ狙いのシャッセ（横蹴り）で牽制する。西郷は右足を一旦引くとフロントステップして、一気にナガヤに掴み掛かった。そのままナガヤの右腕を右手で一本背負いの要領で抱え込むと、右足で一気にナガヤの右足を刈り払った。一本背負い崩れの山嵐で勝負は着いた。

続きまして、第二試合。東郷夫妻チーム対ポルゴチームを行います。

入場曲ファイナル・ウォリアーと共にリングインする東郷源九郎と妻の紀子。一方、ポルゴチームは「紫の孤豹」と共に入場した。

先発は東郷紀子（マダム・アワヤ）とリアル・パンサーだ。

両者共に、第八段階の见えない気のレベルにオーラを高めている。

マダム・アワヤが左ストレートから右フックを放つ。カウンターでリアル・パンサーが右のアッパーだ。相打ちの展開に会場が盛り上がる。

マダム・アワヤはいったん、右の横蹴りを放って、間合いを取った。すかさずリアル・パンサーがタックルに行くと、マダム・アワヤはタックルをパイルドライバーで返した。そのままヘッドシザースに移行するアワヤ。

リアル・パンサーはヘッドスプリングの要領で、今のヘッドシザースを返すと、スタンドに移行した。

パンサーはいきなりの右ソバットを当てた。アワヤは今のソバットを叩き落とすと、掟破りのタイガードラゴンスープレックスを放った。

リアル・パンサーは大ダメージを受けたが、何とかコーナーまで戻り、ポルゴとタッチを成功した。

一方、マダム・アワヤも東郷源九郎とタッチを成功した。

東郷はリングインした瞬間、両手からギャラクシーウェーブ・ネオを放った。ポルゴは今の技をガードしたまま、間合いを詰めた。

大技を放って硬直している東郷を一気に掴むと、ポルゴはフロントタイガードラゴンスープレックスに捉えた。

すかさず、リングにリアル・パンサーがノータッチで入ると、ポルゴはコーナーのマダム・アワヤに全身のオーラを込めたドロップキックを放った。

リアル・パンサーは東郷をストンピングで踏みつけると、そのまま場外レフリーにノックアウト裁定を要求した。

ポルゴチームの作戦勝ちだ。

続きまして、第三試合、西郷チーム対ポルゴチームを行います。

先発はジュニアとリアル・パンサーだ。ジュニアはいきなりのギャラクシーウェーブを放つ。パンサーはカウンターでタックルで一気に入合いを詰めた。ショートレンジのアップを放ったパンサーは間合いを取って、右のソバットを放つ。互角の戦いだ。

いったん間合いを開いた両者は、ジュニアの右のぶっ放しストレートと共に間合いをつめた。パンサーはバックステップをせずに、額でパンチを受けながら、ボディタックルに行く。そのまま抱きつきドラゴンキラースープレックスを放った。フロントスープレックスの体勢でひねりを加える大技だ。しかし、ジュニアは投げられながら身体を捻り、グッドポジションをキープした。上四方気味にパンサーを押しえ込むジュニア。

すかさずポルゴが乱入して、ストンピングでカットに入る。

一方、西郷詩郎はコーナーから高見の見物だ。

ジュニアはいったんスタンドでロープに身体を振ると、ダブルリアットでポルゴとパンサーをなぎ倒した。そのまま倒れたパンサーを場外に蹴落とし、場外ラフファイトに持ち込むジュニア。

西郷がリングインし、ポルゴと対峙した。

強烈なオーラがポルゴの全身を捉える。ポルゴは左のシャッセフロンタル（前蹴り）で間合いを取ると、すかさず右の二段蹴りに繋いだ。西郷はカウンターの大内刈りでポルゴをなぎ倒す。

場外ではイスチャンバラがはじまっていた。

ポルゴは大内刈りで頭を強打したが、本能的にエビを使って、間合いを開いた。

西郷の打撃はない。光線技もない。あるのは投げだけだ。

両者、スタンドに戻り、ポルゴは左のジャブを放った。西郷は今のジャブをかわすと、次のストレートを誘った。ポルゴが渾身の右ストレートを放った瞬間、西郷はその腕を抱え込んで、同時に右足を豪快に刈り払った。一本背負い崩れの山嵐だ。

完全に一本。しかし、この場はキングオヴギャラクシーだ。ポルゴは最後の力を振り絞って、コーナーにエビで逃げると、イスチャンバラで王子を KO したパンサーとタッチを成功した。

偽物のパープル・パンサーか。

西郷は言い放った。しかし、本物のパンサー以上の柔軟性、そしてパンサーを越えるパンサーがリアル・パンサーだ。

来い。

西郷が言うまでもなく、全身のオーラを込めて、強烈な打撃を放つパンサー。左のコークスクリュキックから右のソバットの好連携が決まる。わざとパンサーはぶっ放しの

右ストレートを放った。西郷が右ストレートをキャッチした瞬間、パンサーは驚異的なバネで飛び上がった。そのままキャット空中一回転で山嵐を完封するパンサー。

人間業じゃない。

観客の一人はそう思った。そう、これが獣神（=キマイラ）の力だ。

パンサーは右ローキックから左のシャッセバー（下段横蹴り）を放ち、最後に右の上段リバースキックで西郷の顔面をかすめた。

西郷が一瞬、のけぞった瞬間、パンサーはフロントタイガースアップレックスで西郷を後方に投げ放ち、そのままホールドした。

ポルゴチームが辛勝した瞬間だ。

30分の休憩の後、銀河帝国チーム対ポルゴチームの試合が始まった。

リングサイドではポルゴ夫人、息子のテツオ、そしてホシノ博士が見守っていた。

シャノワールとボルドー、ポルゴとパンサーがリングインする。

ゴングがなる前に、パンサーがボルドーに先制攻撃を仕掛けた。ポルゴとシャノワールはコーナーから見物だ。

パンサーがストンピング気味のキックの嵐でコーナーまでボルドーを追いつめた。しかし、ボルドーは右のボディータックルで形成逆転した。パンサーの顔面を掴むと、ヒザのお返しだ。ダウンしたパンサーの脳天にカカト落としを打ち込むボルドー。

「リアル・パンサー。ここは踏ん張るんだ。」

コーナーからポルゴの指示が飛ぶ。

パンサーはいったん、ダウンしたまま転がって場外戦を誘った。この誘いを受けるポル

ドー。

ポルゴとシャノワールがリングインする。

ポルゴは全身のオーラを高めると、一気に紫を越える見えない第八段階のオーラを具現化して、気弾として投げはなった。

ネコ絶拳！

シャノワールは両手を前に出すと、肉球を使って今の気弾を吸収した。その後、豪快なワンツーフックからフックアッパーと繋いだ。ポルゴは気弾攻撃の反動で硬直して、今のパンチをもろに食らった。

一瞬、最後のアッパーで意識が飛んだポルゴに声が響いた。

「負けないで、パパっ！」

息子テツオの応援だ。

ポルゴは何とかバックステップで踏みとどまると、左のシャッセバーから右のミドルへと繋いだ。シャノワールはダブルハンマーを使って、ポルゴの脳天を叩こうとした。ポルゴはすかさずタックルに行き、テイクダウンに成功した。その後、バックを取ると、チキンウィングスリーパーホールドを決めた。

シャノワールが空いている左手で苦しまぎれに反撃したが、無駄だった。

場外ではイスチャンバラの挙げ句、パンサーはボルドーを鉄さくに打ち付け KO していた。

ポルゴチームが何とか銀河帝国チームを倒した瞬間だ。

リングに駆け寄るユメミ夫人と息子のテツオ。ポルゴはテツオを反射的に肩車した。

「お前が、今日からアルセーヌ・ポルゴ二世だ。」

「ポルゴ、ポルゴ。パンサー、パンサー。」

声援が飛ぶ。

場外戦で流血したリアル・パンサーの額を優しく押さえるホシノ博士。

全ての決着は着いたが、銀河帝国の権力構造に変化はなかった。優勝したポルゴチームは休憩を挟んで3連戦という過酷なスケジュールのトーナメントだ。

孤独

リアル・パンサーはある感情に苛まれていた。

もともとキマイラとして生み出された彼であったが、今回のギャラクシーにポルゴと組んで優勝したことで若干の自信を得ていた。

人間と金星ヒョウのキマイラ。異種交雑故のクレバーな頭脳と最強とも言える肉体。しかし、彼に比肩しうる者はもはや存在しないと言ってもよかった。

確かにポルゴや西郷といった連中は強さだけだったら、彼よりは強いと言えるかもしれない。

しかし、彼には彼と同種、キマイラとして生み出された兄弟はいなかった。

生みの親とも言うべき、ホシノ博士は、内心、ポルゴの代わりとして自分を生み出したように思っていた。

結局のところ、リアル・パンサーが本物の存在になるためには、パンサー（ポルゴ）を倒す必要があると結論した。

一方、ポルゴはそろそろ歴史の表舞台から消えてもいいかと考えていた。息子のテツオももうすぐ三歳になる。マダム・アワヤを敵に回した時のように、今の稼業をしていたら、いつ家族が狙われるかわからない。そろそろ引退するか、地味な仕事専門にならないと。ミスター東郷から引き継いだパープル・パンサーのマスクも完全に回転休業中だしな。いくらキングオブギャラクシーで戦ったところで、もう次の目標もないんじゃないか。

♪ピンポーン。

「はい。」

事務所を誰か訪ねてきた。

「お久しぶり、テツオちゃん、ユメミさん。今日はいいい知らせがあって、報告に来ました。」

誰かと思ったら、マリア・ハロルドだ。

「ポルゴさん、私、あこがれのジパング大学に合格しました。あのライアン・ヤマモト先輩の後輩になるんです。」

「ふーん。何学部？」

「もちろん、ライアン先輩と一緒に理学部、生態学コースです。」

「じゃあ、あのプロフェッサー・ナガヤの研究室のあるコースか。」

「私もまだまだ上を目指します。ポルゴさんも、今度はシングルトーナメントで会いましょう。」

いくら大学に合格してテンションが弾んでいるとは言え、場慣れしない敬語が似合わない相手ではある。

「テツオちゃんも、そろそろ子供園に入学する頃ね。」

「そうです。マリアさん、特製チョコケーキがあるわ。」

「じゃあ、いただいていきます。」

事務所の二階の窓からは、夕暮れを告げる一番星が見えていた。ある夏の夕暮れ時のころだった。

ギャラクシーシングルトーナメント

暁、吠える！

御主のようなヤツは相撲界から追放する！

かつて大関の地位に手に届くところまで活躍したジパング系力士、暁次郎は師匠から破門宣告を受けた。

八百長疑惑？ いや、そんなことはない。賭博、そんなこともしない。

ただタニマチの奥さんと一度限りのアヴァンチュールがフレンドネットで暴露され、ちょっとしたお祭りになってしまった。

はい、わかったでござす。

とは言ったものの、次の職も決まっていない。プロレス？ うーん。打撃系？ いや、打撃はオープンハンドしかない。

そこに持ち上がったのが、キングオヴギャラクシーシングルトーナメントだ。

とりあえずリアルファイト系の団体、ユニバーサルレスリングルールなら、今まで作り上げてきた技術を心技を、応用できる！

ジェラルド・ボルドーとのユニバーサルレスリングルール、KO、ギブアップのみの完全決着ルールで、暁次郎の転向後、第一戦が組まれた。

ボルドーはリングインすると、空手衣を脱ぎ捨て、入れ墨の入った上半身をあらわにした。一方、暁はマワシではなく、キックトランクスを着用して入場した。2メートル、200キロの巨漢だ。

ゴングが鳴る。ボルドーはアップライト、暁は雲竜型に構える。

ボルドーのジャブを右のオープンハンドで受ける暁、右のローをカットする暁。そのままぶちかまし気味に強烈な張り手の連打だ。コーナーまで追い込まれるボルドー。

強い。今まで体験したことのないプレッシャーだ。

ここは、反則攻撃で切り返したい。しかし、シャノワールの横顔がよぎる。

クリーンファイトの重要性を説いた男だ。

ボルドーは冷静に右のボディで現状打破を試みた。

ボルドーのボディが通じない。それだけの肉体だ。

暁はボルドーを掴むと、そのまま豪快な上手投げを打った。ダウンしたボルドーをドスコイと、四股を踏んで顔面を踏みつける暁。

間一髪、エビを使って顔面踏みつけの危機をかわすボルドー。

イノキアリ状態から、膝を狙った蹴りを打って牽制しつつ立ち上がるボルドー。

ボルドーが劣勢に立っている。衝撃的なシーンだ。

ボルドーは冷静にローから切り崩していく作戦を取る。

ワシは、中学までカラテをならっていたでゴワス。黒帯でゴワス。

ボルドーのローが通用しない。

強烈な張り手の連打から右肩のタックルに行く暁。そのまま掴んで、今度はのど輪落とした。

ボルドーがダウンする。さすがに暁には寝技の技術はないだろう。皆がそう思った瞬間。

暁がエルボーを落とした。そのまま顔面を变形片羽絞めに捉える暁。

ボルドーが遂に落ちた。気絶したボルドーを牽制しつつ、後ずさりをする暁。

ボルドーはテンカウントを聞いた。その後、暁が勝利の雄叫びを上げ、四股を踏むと、リングの振動でボルドーは目覚めた。

チキンウィングフェースロック。古典的なUスタイルの技だ。総合転向の師匠はあのトシアキ・フジワラだった。

今ここに全く新しいファイトスタイルの格闘家、暁次郎の伝説が始ろうとしていた。

やるな、暁

俺は暁次郎の試合を格闘技チャンネルで見ているが思った。

出来る。そして、今、最もシングルで最強に近い男だ。

暁次郎を倒すには、首を攻めるしかないだろう。グラウンドで。

問題は、テイクダウンだ。

相手は空手の経験があり、最低限打撃のガードは出来る。

あの巨体だ。タイガードラゴンスープレックスなど、ほぼ全ての投げ技は通用しない。

ドラゴンスクリーでも、下手に潰されるとアウトだ。

あの体格で、あの実力。プリンス・ネコマタを凌ぐサイズと強さだ。

しかも、新しい総合の師匠がトシアキ・フジワラで、関節技までこなす。

気を使った放出系の攻撃もあの肉厚なボディは受け止めるだろう。

龍族歴代最強の名を欲しいままにした、全盛期の3代目の銀河の大王でも無理だろう。

ソレイユ・シャノワールなら、スーパーフランケンからのチョークスリーパーを狙うだろう。

しかし、勝負はやってみなければ、わからない。

あの MARIA・ハロルドも正直、暁には敵わない、だろう。

しかし、ぶっぱなす秘技、必殺技を編み出すよりも、ここは基本に戻って、打撃、関節、投げの反復練習をして、気を練った方がいい。

あの西郷詩郎でも、山嵐が通用しない相手かもしれない。しかし、西郷は合気柔術の心得もある。関節を決めて豪快に暁を投げ飛ばすかもしれない。

信頼できるスパーリングパートナーが必要だな。

そう考えていたところ、ジュン・バードとジョー・ヨーシ 12 世が訪ねてきた。

ポルゴさん、お久しぶりです。テツオ君、元気でしたか？ 大分身長が伸びましたね。

ポルゴさん、コンニチワ。いよいよ、キングオブギャラクシーシングルトーナメントが開催されマース。ボク達は、あの暁次郎やプリンス・ネコマタに匹敵する大型選手を発掘しました。

何っ！ 暁やネコマタに匹敵する選手だと！

ハイ、ご紹介します。ザ・グレート・ブシドー。

ギャグかと思ったネーミングセンスだ。しかし、俺はグレート・ブシドーを見た瞬間、強烈な戦慄が走った。銀河の殺し屋、あのブラックホールズと対峙した時と、同様の暗い、重厚なオーラだ。しかも、体型は 2 メートル、ウェートは 150 キロ程度か。

スーパーヘビー級の動ける選手。それがザ・グレート・ブシドーです。

ハジメマシテ、ミスター・ポルゴ。いや二代目パープルパンサー。

何でも知ってやがるな。こいつ。

ワタシはあなたのファイトスタイルを見て思った。ワタシの師であり友人、ミスター東郷のハートを継ぐ者はあなたしかいないと。

アンタ、ミスター東郷と会ったことがあるのか？

ミスター東郷の金星留学時代に、古武術の稽古を付けてもらった。東郷源九郎は、姿形、遺伝子はミスター東郷のものと一緒にだが、ハートは邪道だ。

一緒に、基本から源流、いや東郷流の稽古をしよう。そして仕上げで、お互いにギャラクシーにエントリーしよう。

今回、私達は、サポーター役に徹します。一緒に、同じ夢を目指しましょう。

ザ・グレート・ブシドーは仮面を付けており、素顔はわからなかった。ただわかっていることは、一つ。現役最強時代のミスター東郷をザ・グレート・ブシドーは知っていることだった。

メモワール・オヴ・トーゴー

トレーニングの最中、ザ・グレート・ブシドーは仮面の奥を光らせると、ミスター東郷との記憶を語りだした。

… あれは、トーゴーが生態学の論文で博士号を取り、金星フロンティアで研究留学に来た時だった。

オレとトーゴーははじめて手合わせをした。オレは今よりウェイトも乗っていて、暴れたい盛りだった。

トーゴーはオレの右腕の関節を決めると、赤子の手を捻るかのごとく豪快にオレを投げ飛ばした。何度立ち上がっても、その繰り返しだった。

そして、オレは負けを認めて、トーゴー、いや東郷師範に弟子入りをした。ミスター・ポルゴ、オレはアナタの兄弟子ということになる。

そしてオレは知った。誰よりも東郷師範が人格的に優れていたことを。そして、唯一の欠点を除けば、最強の人間に近いことを。

ミスター東郷の唯一の欠点か。たぶん、女好き、だろう。

いや、それは違う。ミスター東郷の唯一の欠点は、彼が優しすぎることだ。時に人格的な甘さは、致命傷となるのが、オレたち武道、いや武士道を生きる者の世界にある。

東郷源九郎の欠点は、彼がミスター東郷の肉体的な強さにとらわれ、その精神を継承しなかったことにある。オレは、マダム・アワヤの汚いやり方を知っている。源九郎は、その弱い面を含めて、マダム・アワヤと惹かれ合って、結婚した。

まあ、弱いもの同士が傷をなめ合って生きていくのも人生じゃないか。

ミスター・ポルゴ、アナタの唯一の欠点は、たぶんその甘さだろう。まあ、いい。オレはちょっと完璧主義なのかもしれない。でも、オレたちの武の道は、全て基本からだ。

まずは、ファーストコンタクトからだ。ジャブ、ワンツ、ワンツーフック。オレのミットに打ち込んで来い。

ポルゴがワンツを放った瞬間、戻り際の際に、ザ・グレート・ブシドーはカウンターの右ストレートを放った。

ガードはワスレルな。トーゴ師範に習わなかったか？

その後、ワンツーミドルや左右ミドル、左右ハイのミット打ちをやった。

ポルゴよ、基本は常にローキックじゃ。ローキックを美しく蹴れば、ミドルもハイも蹴れる。

東郷師範の声を思い出すポルゴ。

打撃の基本はいい。次は当て身投げだ。オレのストレートをカウンターで取って、投げることは出来るだろうな。

ブシドーは右ストレートを放った。はやい。そしてパワフルだ。一発が致命傷になる。

もう一発、お願いします。

ブシドーの右をキャッチすると、ポルゴは関節を決めて当て身投げを放った。ブシドーは直立不動だった。

ミスター・ポルゴ、当て身投げの基本は、関節のポイントを決めることと、相手の力を利用して一気に投げることだ。

見本を見せよう。

右ストレートを放て。

ポルゴが右を放つと、ブシドーは左手一本だけでポルゴを投げ放った。完全な弧を描いて、投げ飛ばされたポルゴ。

おそらく合気という概念も、相手の呼吸と合わせて技を放つということだろう。

ザ・グレート・ブシドー。全盛期の東郷師範の弟子にして友人ということは、ある。

暁次郎、西郷詩郎、マリア・ハロルド。シャノワール。ポルゴ。プロフェッサー・ナガヤ。有力者の前に立ちはだかる孤高の壁、それが、ザ・グレート・ブシドーだ。そして、東郷源九郎も、もちろんギャラクシーに参加することを企てていた。

銀河最強シングルトーナメント

あの、ザ・グレート・ブシドーが参戦するのかニャ！？

それに巨漢ファイター、暁次郎まで。

じゃあ、我が輩も本気を出すしかないニャ。今度のギャラクシー、グローブなしの素手で挑むニャ。奥の手を最初から解禁して勝負に出ないと、我が輩の大王の座もやばいニャ。

キングオウギャラクシーシングルトーナメントは、西郷詩郎、東郷源九郎、アルセーヌ・ポルゴ、ギャラクティカ・ジュニア、ザ・グレート・ブシドー、 MARIA・ハロルド、プロフェッサー・ナガヤ、暁次郎といった有力者がエントリーをしていた。このトーナメントの勝者の挑戦を、4代目の銀河の大王、つまりソレイユ・シャノワールが受けることになる。

厳正な抽選により、トーナメント一回戦の組み合わせが決まった。

第一試合 東郷源九郎 VS MARIA・ハロルド

第二試合 プロフェッサー・ナガヤ VS アルセーヌ・ポルゴ

第三試合 暁次郎 VS ギャラクティカ・ジュニア

第四試合 西郷詩郎 VS ザ・グレート・ブシドー

圧倒的なスケールで、キングオウギャラクシーシングルトーナメントは開催される。ルー

ルはKO、ギブアップのみの完全決着制。武器・凶器の使用は一切認められない。ただし、爪、キバなどによる攻撃は、相手を殺めない限り、可とされる。気を使った攻撃は可だ。グローブまたは素手、レガースまたはシューズの着用は認められている。その他の防具は一切認められない。

試合の様子を伝える前に、ここで各選手のファイトスタイルと出身を紹介しておこう。

東郷源九郎、ファイトスタイル源流古武術＋Uスタイル総合格闘技、出身銀河帝国

マリア・ハロルド、ファイトスタイルハロルド流古武術、出身ジパング

プロフェッサー・ナガヤ、ファイトスタイルブラジリアン柔術＋サバット、出身ジパング

アルセーヌ・ポルゴ、ファイトスタイル源流古武術＋Uスタイル総合格闘技、出身ジパング

暁次郎、ファイトスタイル相撲道＋Uスタイル総合格闘技、出身ジパング

ギャラクティカ・ジュニア、ファイトスタイル総合、出身銀河帝国

西郷詩郎、ファイトスタイル柔道＋合気柔術、出身ジパング

ザ・グレート・ブシドー、ファイトスタイル 総合、出身不明 おそらく銀河帝国

ソレイユ・シャノワール、ファイトスタイルサバットをベースにしたネコ流カラテ、出身銀河帝国

ファイトスタイルは、ジパング発祥の相撲道、柔道、古流柔術が多い。その他にはUスタイル総合格闘技やサバット、ブラジリアン柔術といったスタイルもある。

地球圏格闘技の発祥のメッカの一つと呼ばれる黄金の国ジパング、そして銀河帝国からの参加者がほとんどだ。キングオヴギャラクシー、空前絶後の火ぶたが切って落とされ

ようとしていた。

奥の手

第一試合、東郷源九郎 VS マリア・ハロルドがはじまろうとしていた。

東郷の入場テーマは、アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンドだ。一方、マリアは名曲 Gloria（栄光）だ。

東郷源九郎は第八段階の見えないオーラを纏って登場した。セコンドは東郷紀子夫人ことマダム・アワヤだ。

マリア・ハロルドも対応して見えないオーラを纏っている。出来る。セコンドはもちろん先輩のライアン・ヤマモトだ。

ゴングが鳴る。

マリア、シャッセから崩していけ！

重みの乗った下段横蹴り（シャッセ・バー）で東郷の左膝を狙うマリア。東郷は怯むことなく前進する。そして、気を込めた強烈な右アッパーだ。

もともと第八段階のオーラは可視できないし、セコンドのライアンは操気術の心得がない。

マリアはアッパーを右手で受けると、左フックで切り返した。

ウィーヴィングでフックをよける東郷。またも右のアッパーで反動を利用して切り返す東郷。

直撃か、と誰もが思った瞬間、マリア・ハロルドの姿はそこにはなかった。

気をフィールドとして利用したマリアは瞬間移動して、東郷のバックを取った。すかさず投げっぱなしのジャーマンを放つマリア。

東郷が頭からマットに突き刺さる。

やるじゃないか？ 東郷は立ち上がりながら、言った。

でも、遊びはここまでだ。

東郷は全身のオーラを両の掌に込めると、ギャラクシーウェーブ・ネオの体勢に入った。

マリアは右手にオーラを込めると、球状にしてアップercットの軌道で放った。

ギャラクシー・ウェーブと激風拳の相打ちだ。会場がオーラの爆発の衝撃で輝いた瞬間、マリアは瞬間移動で東郷の目の前に立っていた。

東郷は今の瞬間移動を、気の気配の微妙な変化で読んでいた。右手にオーラを込めると、強烈なボディストレートを放った。発頸だ。

しかし、マリア・ハロルドも今の一撃を堪えた。

左足からステップすると、右足にオーラを込めて、顔面に前蹴り（シャッセ・フロンタル）を放った。

打撃の技術では、互角か？ オーライ、それじゃ、奥の手を出さず。

東郷は宣言すると、全身のオーラをマックスまで高めた。一体、何が起きるのか？

東郷はオーラを全身に纏ったまま、ワンツーを打った。マリア・ハロルドがカウンター

の右ストレートを放った瞬間、東郷はマリアの右腕の関節を決めて、豪快に投げ放った。マリア・ハロルドは立ち上がろうとしたが、全身が痺れて身動きが取れなかった。

オーラを変化させて、雷撃のように相手を痺れさせる。そして相手に悟られないよう、カウンターの当て身投げと同時に相手を変化したオーラで攻撃する。羅刹門という強烈な当て身投げが決まった瞬間だ。

すかさずダウンしたマリア・ハロルドの右腕を決めて、逆十字の体勢に入った東郷。マリアの様子がおかしいことを見取ったライアンはタオルを投入して、東郷の TKO 勝ちが決まった。

寝技地獄！

第二試合が始った。

正直、俺は永谷教授をなめていた。プロフェッサーと周囲からは呼ばれているが、格闘家としては、ただの愛想のいいオッサンだ。植物学者特有の優しげな表情。しかし、格闘家としてのピークは過ぎているはずだ。いくら打撃はサバット、グラウンドはブラジリアン柔術であろうと、教授と呼ばれるまでの年齢で、ライアンほどの動きのキレはないはずだ。

ゴングと共に、プロフェッサー・ナガヤは握手を求めてきた。クリーンに右手を差し出す俺。

ファーストコンタクトは、俺の右ストレートだ。

プロフェッサーは右ストレートをかわすと、右の足払いで俺を揺さぶった。一瞬、足払いで意識が下に向かった瞬間、顔面をめがけて容赦ない左のハイが飛んできた。

当然ガードした。次の瞬間、プロフェッサーは低空タックルに来た。俺は思わず尻餅を着いてしまった。

両足に抱きついたまま、ねちっこく離れないプロフェッサー。

一発、殴ろうと思って右手を出した瞬間、カウンター気味に肩固めを決められた。

息が出来ない。完全に決まっていた。

ブリッジをして切り返す。

何とかバックを取った。チョークでも狙うか、と思った瞬間、プロフェッサーは俺の足を手首で掴んでバランスを崩させた。

そのままサイドを取るプロフェッサー。

マウントだけは取らせないと思う。サイドを取ったまま、左腕を腕搦みで狙うプロフェッサー。一方、右腕も足を使って動きを封じてきた。空いている左腕で、ギロチンチョークを仕掛けるプロフェッサー。両腕を決め、ギロチンを行うという職人芸を見せる。変形地獄絞めだ。

通常的地獄絞めが相手をひっくり返してから決めるのに対して、プロフェッサーはサイドポジションのまま、まるでヘビのように俺の両腕を決め、首までも絞めてきた。

ブリッジで切り返す。

そのままエビで間合いを開くと、反立ちになったプロフェッサーに、俺は膝を狙ったシャッセを放ち牽制しつつ、立ち上がった。

まさに寝技地獄だ。打撃のセンスもあり、一発で仕留めることは難しい。

だったら、答えは一つだ。総合格闘技、ギャラクシーの基本は、打・投・極の3つが巴のように絡み合う攻防にある。

俺は投しか残っていなかった。

ワンツを放って、相手が右ストレートで切り返した瞬間、一気に俺は間合いを詰めた。そして、奥の手のフロントタイガードラゴンスープレックスを放った。迷わずマットに頭からめり込んだ相手をフォールドして、身動きを封じた。

確かにグラウンドは理詰めだ。打撃もロジックでカバー出来るかもしれない。しかし、天性のバネが役に立つのが、投げだ。フロントタイガードラゴンスープレックスホールドで、ノックアウト勝ちした瞬間だ。

パワー対スピード

第三試合、暁次郎 VS ギャラクティカ・ジュニア戦がはじまった。

相撲道出身の暁は、パワーファイターだ。一方、龍族出身の王子は、天性のバネとスピードを併せ持っていた。

ゴングがなる。

暁は強烈な張り手で王子をコーナーまでつめた。王子は右ストレートから左のローのコンビネーションの後、暁の右サイドに廻り込んだ。

コーナーを背にした暁。すかさず右のミドルを放ち、左のソバットを叩き込む王子。

直撃だ。しかし、暁の巨体はダメージを受けたそぶりがなかった。

すかさず顔面を狙った張り手で王子が怯んだ瞬間、のど輪落として叩き付ける暁。

王子は驚異的なスタミナで立ち上がると、もう一度のど輪を狙う暁であった。

王子は背中の羽で飛び上がると、両足を暁の首に絡めた。そのままひねりを加えて、後転のようにして暁を後方に投げ放った。

スーパーフランケンシュタイナーだ。すかさず全身の気を掌に集中して溜め込む王子。

会場が大きく揺れた。王子がギャラクシーウェーブを放った。

暁は今の光線技をまともに受けて、いまだ直立不動だ。

王子の表情に動揺が走る。フルパワーギャラクシーウェーブを受けて、なおも立っている相手がそこにあった。

今度はワシの番たい！

暁は頭突きを王子の顎に当てた。すかさず組み付くと、豪快な下手投げで王子を投げ放った。

そのままダウンした王子に乗かった暁は、サイドポジションから、王子ののど元に膝を押当てた。

暁の 200 キロの体重が、全て王子ののど元に向かった。

ギロチンチョークによるノックアウトだ。

武士道 VS ブシドー

第4試合、西郷詩郎 VS ザ・グレート・ブシドーが始ろうとしていた。

津軽三味線冬景色と共に、西郷が入場する。一方、ブシドーはザ・フロンティアと共に入場だ。羽織袴の古武術スタイルの西郷と、仮面に柔道衣姿のブシドー。

ブシドーの周りには暗黒のオーラが漂っていた。

西郷が問うた。

貴様、この世の者の者ではないな？

いかにも。ワタシは異界から、強者との闘いを求めてやってきた。西郷詩郎、お手合わせ願う。

望むところだ。

ゴングが鳴る。

西郷は迷わずブシドーに掴み掛かった。右袖、右襟を掴むと、電光石火の山嵐を放った。

ブシドーの巨体が宙を舞った。そのままダウンするブシドー。

西郷はダウンカウントを要請した。

カウントスリーで不敵に立ち上がるブシドー。

ブシドーはこう言った。

冥土の土産に教えておこう。ワタシはどんな格闘家でも、最初の一発、得意技を受けることにしている。そして、同じ技で相手を葬ることを選んでいる。ワタシに同じ技は二度通じない。そして、オマエの得意技が、オマエを葬ることになる。

戯れ言を。

西郷はもう一度ブシドーに掴み掛かった。ブシドーの右袖、右襟を掴むと背負い投げのように懐に入り込んだ。そして、右足で右足を刈り払った。

しかし、ガッチリと今の攻撃を腰を落として受けているブシドーの姿があった。そのまま、バックドロップで山嵐を切り返すブシドー。

西郷がダウンする。

先に立ち上がったブシドーは上着を脱いだ。

これで今のエリを掴んだ山嵐は放てまい。

フッ。

西郷はブシドーに右ストレートを放った。ブシドーがカウンターの右ストレートを放った瞬間、ブシドーの右腕を抱え込んで一本背負いの体勢に入った西郷。そのまま右足で相手の右足首を刈り払う。

一本背負い崩れの山嵐だ。

しかし、ブシドーは腰を下げて山嵐を受けると、そのままカウンターの谷落としを放った。

受け身に失敗して頭を強打する西郷。

しかし、不屈のファイテンィングスピリッツで西郷は立ち上がる。

ブシドーは一瞬ロープに身を委ねると、立ち上がった西郷にラリアットを一発、二発と決める。

誰もが三発目のラリアットを予想した瞬間、西郷の懐に飛び込むブシドーの姿があった。

ブシドーは左腕で西郷の右袖、右手で西郷の右襟を掴むと、背負い投げのように懐から西郷を担ぎ上げた。すかさず、電光石火のごとく、西郷の右足首を右足で刈り払うブシドー。

予告通り、西郷の必殺技、山嵐をブシドーが放った。すかさず空中で一回転したブシドーはその巨体で西郷の身体にのしかかった。

山嵐巻込みだ。

悪いな。ワタシは確かにオマエの必殺技で勝負を決めると言った。しかし、ワタシ流のアレンジも加えるのも忘れないことが、ワタシの趣味だ。

西郷詩郎、確かに柔の道を極めた使い手であった。

過去形で語るのが、惜しいことだな。

こうしてブシドーの一本勝ちで勝負は着いた。

死闘！

東郷源九郎との試合が始ろうとしていた。

東郷のセコンドは紀子夫人ことマダム・アワヤだ。一方、俺のセコンドは、ジュン・バードとジョー・ヨーヅ 12 世が着いてくれた。

ポルゴさん、油断しないで。

ポルゴさーん、力有効利用でーす。

マダム・アワヤは俺をきっと睨むと、源九郎にこう告げた。

今日こそ、アルセーヌ・ポルゴの命日よ。

ゴングが鳴る。

源九郎も俺も、オーラを見えない第八段階まで高めていた。

もし今の状態でフルパワーギャラクシーウェーブ・ネオを放たれても、微妙な空気の動きで読める。それくらい全身の神経を集中していた。

ファーストコンタクトは源九郎のジャブからのストレートだ。

俺はバックステップで今の攻撃をかわすと、カウンター気味に右ストレートを放ち、すかさず左フックから右アッパーを放った。

空振り気味だったが、威嚇効果にはなった。

源九郎は右のローキックから左のミドルへと繋いだ。今のミドルは強烈でガードの上からでも骨身に沁みた。

俺は返す刀で、右のフロンタルを放って、間合いを取った。

パパー、頑張っ。賞金！

ユメミの声が聞こえる。

このトーナメントを最後に引退しようか、という思いがよぎる。

俺はジャブを放つと、そのまま身体を下げて前進した。タックルだ。

テイクダウンした後、足をクロスしてガードポジションに移行する東郷。

俺は迷わず、上からパウンドの嵐だ。

東郷は冷静さを失わない。下から、逆十字か三角に移行するチャンスを狙っている。

筋肉が鍛えられないアバラの間あたりを狙って、パンチの雨を落とす。

右のいいのが入った瞬間、東郷は足をクロスして逆十字を狙ってきた。

すかさず、俺は全身の力を振り絞って、東郷を持ち上げた。そのままパワーボムだ。

このやり方は一歩間違えると右腕を痛める恐れがある。

そのまま強引に右腕を引き抜いた俺は、イノキアリ状態で、東郷にローキックの連打を行った。

東郷は冷静にハンドスプリングの要領で立ち上がる。

スタンド勝負だ。

東郷はいきなりその場で飛び上がると、ドロップキックを放った。

バックステップでかわす。

牽制しつつ、両者は間合いをつめた。

俺は掌底気味のフックからアッパーへ繋いだ。

右アッパーを東郷はバックステップでかわすと左のミドルを放つ。

俺は何とかこのミドルをキャッチして、そのまま東郷の足に抱きつきマットに倒れ込んだ。

ドラゴンスクリューが決まった。

すかさず足四の字を決める。

東郷は全身のバネで足四の字を外した。お互い間合いを取って、またスタンドに移行する。

俺はわざと東郷に向かって、大振りのフックを2発空打った。

東郷はパンチってというのは、こうやってやるんだと、カウンターのフックを2発返した。

この瞬間、俺は殴られながら、一気に間合いを詰めた。フックを腕で受けて止めて、クラッチを作った。

そのまま真後ろに向かって、ブリッジをして、東郷を投げるとそのままフォールドした。

フロントタイガードラゴンスープレックスホールドが決まった瞬間だ。

道！

暁次郎 VS ザ・グレート・ブシドーの試合が始まった。

両者共に 2 メートル、暁は 200 キロ、ブシドーは 150 キロのスーパーヘビー級だ。

暁はキックトランクス、ブシドーは柔道衣装だ。

ブシドーはこう言った。

暁次郎、ハンデをやる。一発だけ、得意技を食らって進ぜよう。

暁は逆上して、鉄砲道の張り手でブシドーをコーナーにつめた。そのまま、上手投げで豪快にブシドーを投げた。

了解。上手投げが得意技だな。オマエはその上手投げで敗北することになる。

何を言ってるんでゴワス。ワシの技はそう簡単に真似できないでゴワス。

ブシドーはいったん、ロープに身を委ねると、強烈な右のラリアットを放った。

仁王立ちの暁。なおも今度は背後からラリアットを往復するブシドー。

まだ倒れない暁。

ブシドーは、右腕を斧のように曲げると今度はアックスボンバーだ。

さすがに顎にヒジを貰って、倒れる暁次郎。

アーカツキ、アーカツキ！

会場の観客の声がこだまする。

ブシドーはダウンした暁にエルボーを落とす。

暁の頭を掴むと、ブシドーは、こう言った。

立て！

ブシドーは立ち上がった暁に張り手の嵐を見舞った。

今の掌底気味の張り手で暁は意識を失った。

そのまま右手でがっぷりと暁の右腕を抱え込み、左腕で暁の左腕を掴むと、豪快に腰を入れて上手投げを放つブシドー。ダウンした暁に、空中で一回転してのしかかるブシドー。

ブシドーの KO 勝ちだ。ザ・グレート・ブシドーは勝利のポーズを決めて、ジャケットを脱ぎ上半身をあらわにすると、背中に道という字が浮き上がっていた。

圧倒的なブシドーの実力だ。

生き残るのは誰だ？

俺はザ・グレート・ブシドーとの勝負を迎えようとしていた。

ザ・グレート・ブシドーは東郷師範の友人にして、兄弟子とは言え、暗黒のオーラを発している。闇側の人間だ。ファイトスタイルも、容赦がない。

これは最初から全力で飛ばさないと、厳しい。

手加減とかは、なしだ。

ゴングが鳴る。

俺はアップライトに構えると、ブシドーはお決まりのセリフを言った。

ミスター・ポルゴ、アナタの得意技を一発だけ受けよう。

面白い。俺はステップで相手を攪乱すると、右のローキックを放ち、そのままバックに廻った。ブシドーの左腕をチキンウィング、右腕をハーフネルソンに捉えると、そのまま全身のオーラで固定して、背後に強烈なブリッジをして投げ放った。

タイガードラゴンスープレックスホールドが決まった。

さすがに 150 キロのスーパーヘビー級の相手だ。一試合にスープレックスは一度が限度だ。

うーむ。なかなかの技。アナタはこの技で敗れることになる。

黙れ。この技を使いこなせるのはパープルパンサーのマスクをかぶったことのある人間だけだ。

俺は強烈な左ミドルを放った。

ブシドーは今の左をキャッチすると、間合いを一気につめてキャプチュードで返してきた。

空中を舞う俺。

相手もミスター東郷の弟子だ。ということは、俺がミスター東郷を越えない限り、勝ち目はないということか。

ほんとは技なんてモノはどうでもいいんじゃ。必要なのは心だ。そして勢いがあれば、勝てる。

ミスター東郷の台詞だ。

俺は立ち上がると、構えを裏構えに替えた。

今度は後ろ足になった左足で、強烈かつスピードの疾いミドルを蹴った。連打だ。

さすがにキャッチは出来ない。

今度は右のハイだ。すかさず左のソバットを相手のボディに当てる。

崩れないか、じゃあ、今度は掌底の嵐だ。

ブシドーの顔面を的確に俺の掌底が捉える。

すかさず左のフロンタル（前蹴り）から右の上段フロンタルへと繋いだ。

ブシドーが片膝を着いた。

すかさずシャイニングウィザードでブシドーの頭を刈り払う。

ダウン。

ワン、ツー、スリー。

カウントフォーで立ち上がるブシドー、圧倒的なスタミナだ。

ミスター・ポルゴ、裏の48手で来るとは、面白い。ワタシも本気を出そう。

ブシドーがジャケットを脱いだ。背中の道という文字が浮き上がる。

ブシドーはおもむろに右ローキックを放った。重い攻撃だ。そのまま、俺の背後に回った。

バックを取ったブシドーは俺の左腕をハーフネルソン、右腕をチキンウィングに捉えた。

絶体絶命だ。

でも、俺はこんな時のためにとっておきを用意しておいた。

俺は空いている左足をおもむろに後方に蹴り上げた。

今の急所攻撃で、ブシドーは大打撃を受けた。

クラッチが外れた。すかさず右足で関節蹴りを放ち、間合いを取った。

パープルパンサーをなめるなよ。

俺は全身のオーラを一気に解放した。

そのままブシドーとの間合いをつめると、フロントタイガードラゴンスープレックスを放った。

ブシドーは両目を剥いて気絶していた。

銀河の大王

あ、あのザ・グレート・ブシドーをノックアウト。や、やるな、二代目パンサーことアルセーヌ・ポルゴ。

でも、我が輩だって銀河の大王である。敗北は許されない。

今回、ソレイユ・シャノワールはグローブを着用せず、素手で勝負に挑んでいた。ネコ流カラテの奥義、爪や牙を使った攻撃も辞さないつもりだ。

一方、アルセーヌ・ポルゴは無心で虎視眈々と勝ち上がってきた。

会場総立ちの元、銀河帝国の国歌が斉唱される。

我が輩が大王になったのは、ネコ族をはじめとする少数民族の力を復権し、民族差別のない、明るい世界を作るためだニャ。

なぜ、貧困や、飢餓、そして戦争がなくなるのか？ そして、大王の両肩に、銀河帝国の国民の幸福や平和が全てのしかかっていた。

国民の代表、そして軍事的な庇護者、それが、銀河の大王だ。

その強さ、とくと見せつけてやる。

ゴングが鳴る。

連戦でスタミナを消費しているポルゴは短期決戦を狙っていた。

ワンツーミドルから右のローを放つと、バックを取った。

そのまま、やや強引にタイガードラゴンスープレックスを放とうとした。

大王は、キャット空中回転で、今のスープレックスから無傷で立ち上がった。

上手く尻尾でバランスを取って、左右のローキックから、左の下段横蹴りを放った。

すかさず踏み込んで、今度は顔面を狙って、爪攻撃だ。

ポルゴはバックステップで躲したが、若干ダメージを受けた。

打撃は相手が若干上、投げも通じない。

そう判断したポルゴは、低空タックルから、関節技の攻防を仕掛けた。

大王が下から三角締めを狙った瞬間、ポルゴはサイドポジションを取った。

そのまま、大王の右腕を極め、左腕を抑え、最後にのど元を絞めにかかった。

プロフェッサー・ナガヤの必殺技、変形地獄絞めだ。

完全に決まったかに見えた瞬間、大王は尻尾を使い、ポイントを外した。そのままエビ

で逃げた。

今のはやばかったニャ。

でも、これで奥の手は出し切ったはずニャ。

大王の目つきが変わった。ハンターそのものだ。

遊びは、終わりニャ。

最速のステップで間合いをつめると、一気に爪でポルゴの顔面やボディを攻撃し、ダウンしたところで、両手でポルゴを叩き伏せた。最後に牙で噛み付こうとした瞬間、タオルが投入された。

やや、残酷な勝ち方だが、四代目の銀河の大王ソレイユ・シャノワールの TKO 勝ちだ。

それからのポルゴ

ブシドーの正体

何とか数週間の入院で、無事娑婆に出ることが出来た。

それにしても、気にかかるのはあのザ・グレート・ブシドーの正体だ。

金星時代にミスター東郷と知り合ったと言うが、気やファイトスタイルは完全に暗黒そのものだ。

完璧主義者という一面も無視できない。

ミスター・ポルゴ、そんなにオレの正体が気になるか？

オレはブラックホールズの同胞だ。しかし、奴らと違って殺しはやらない。

ただ強い奴と戦うことを唯一の楽しみにしている。

まあ、それを悪行というなら、悪行だ。

この銀河は広い。まだアナタの知らない人種や文明が存在する。

それを異界といって遠ざけるか、自ら体験するかは、アナタ次第だ。

前にも話しただろう。

アナタもミスター東郷も、人間的である。それが唯一の弱点だ。

人間が人間らしい。そのことを誇りに思って、生きていい。

オレの星では、人間が人間らしく、生きてゆくことが出来なかった。

そのために、オレは星を出て、強くなることだけを目指してきた。

しかし、人間に必要なのは、思いやりだ。

そう教えてくれたのが、ミスター東郷だ。

もっと自信を持っていい。自分の生き方に。

それが、ミスター東郷の兄弟子からの最後のメッセージだ。

オレはまた、旅に出る。

もう会うことは、ないだろう。しかし、覚えておいてくれ。

この世界、生きている限り、そしてお互いにクリーンな生き方をしている限り、道はまた必ず交わるとな。

さらばだ。ミスター・ポルゴ。

こうして、ザ・グレート・ブシドーは、自分の道に戻っていった。

ある夏の夕暮れ刻のことだ。

テツオの休日

やっと訪れた休日、こういう日は一日中ビールでも飲みながら、ネットヴィジョンでプロレス観戦に限る。

そう思っていたのも、つかの間。

パパー。

テツオが、珍しくパパと呼んでくれた。普段はママーしか言わない。

どこか遊びにいこうよ。そう眼で語りかけるテツオ。もうすぐ3歳だ。もうちょっとでトレーニングパンツも卒業だ。そして、子供園。

オレは、妻のユメミを一瞥した。もう一杯だけ、ビールが飲みたい。

パパ、たまにはテツオを公園にでも連れて行ってあげたら？

ああ、わかった。

オレはサッカーボールを掴むと、玄関に向かって歩き出した。

我先にと玄関に進むテツオ。

クック、履いてから。

オレはテツオに靴を履かせてやると、一緒に近所の公園に向かった。

テツオにボールを転がし、サッカーをしようと誘う、オレ。

テツオはまず、遊具に飛びついた。

近くで、見守る、オレ。

テツオはなかなかアスレチックの遊具を怖がって、先に進もうとはしない。

テツオー、滑り台の側で息子を促すオレ。

テツオはなかなか滑り台を滑ろうとしない。

後ろから近所の子供が、早く滑ってと促している。

それをのけようとするテツオ。

ダメっ、譲り合い、譲り合い。

やっと滑り台を降りたテツオ。

ボールを軽く蹴って、サッカーを勧めてみる。

しかし、テツオは砂場へ向かった。

テツオ、サッカーしない？

無言で砂をかぶるテツオ。その後、近所の女の子たちと遊びはじめた。

しかし、これじゃあ、将来子供園や小学校に入ってから苦労しそうだな。

ちょっと鍛えないと、運動神経が鈍いままだ。

しかし、振り返るに運動神経はオレもいい方じゃない。

むしろ、努力でカバーして、格闘センスを身につけたはずだ。

まあ、子供園に入る前から格闘技教えて、ケンカで相手を怪我させても困る。

大器晩成で行こう。

オレは、空が暗くなったのと同時に、そろそろ帰ろうとテツオに行った。

まだ帰りたくない、と意思表示するテツオ。

テツオー、もう暗いし、パパ、帰るぞ。

テツオは砂をかぶって遊んでいたが、オレがちょっと離れると帰る気になったようだ。

テツオと一緒に公園から帰ると、オレたちは一緒にシャワーを浴びた。泥だらけのテツオ。

こうして男は少しずつ成長していく。時には先に進めず立ち止まる時もある。でも、ゆっくりとでも前に進んでゆけば、いいじゃないか。

再会

4代目の銀河の大王、ソレイユ・シャノワールは、政権奪取の際の功労者、プリンス・ネコマタにひさしぶりに会いにいった。

お久しぶりですニャン。我が輩、何とかお蔭さまで、日々大王の任務をこなしているニャン。

そうか、よくわかっている。

ところで、お孫さんをご結婚されたそうで...これは、つまらないものですが、お祝いの品ですニャン。

そうか、悪いな。孫の紀子も喜ぶだろう。

お相手は、確かジパング系の若者と聞いていますニャン。

そうだ、東郷源九郎だ。

一瞬、シャノワールは顔をしかめた。

何か、問題でもあるか？

いえ、将来有望な野心家の若者ですミャン。

シャノワール、貴様、本当にそう思っているか？ このワシは、ネコマタじゃぞ。伊達に尻尾が3本に別れるまで、長生きはしておらん。

では、申し上げますニャ。東郷源九郎、男としての器量は、まあまあ。しかし、ハートが伴いません。人間的な優しさに欠ける男と思えますニャン。

オレもそう思う。しかし、孫にさえ優しく出来れば、それでも、いい。いや、孫さえ愛していれば、そして生まれてくる家族だけを。

それは、エゴですニャン。東郷のようにこれからの世界を背負って立つ人間には、博愛の心を持ってほしいと考えます。

シャノワール、貴様、最近思うところがあったな？

ハイ、地球圏では未だに政治が未発達で、多くの者が貧困や飢餓に苦しみ、疫病の危機にさらされていると聞きますニャン。そして、まだSRKの件のように、紛争すらなくならない。そして、地域によっては、独裁者すら存在すると。

地球圏は確かに問題の坩堝だ。しかし、貴様が介入すべきとも思えん。

人間は人間として生まれた以上、人間らしく生きてほしい。それを保障するのは、我々、大人の役目ですニャン。地球圏には、人権がまだ未熟である。一銀河帝国市民として、そういう結論に達しました。

介入をするのか？ この銀河帝国が、一辺境惑星国家ごときに？

いや、それはまだ、我慢しますニャ。地球圏にはあのアルセーヌ・ポルゴのように見所のある男がいるように思えますニャ。ライアン・ヤマモトもなかなか将来性のある若者ですニャン。

確かに、地球圏、そしてジパングは人財の宝庫だな。案外、政治的に混沌にさらされている国々の方が、優秀な人財を輩出するのかもしれん。

人間は多様性だけではなく、それを受け入れる器量、優しさが需要ですニャン。

成長したな、シャノワール。父上にもよろしく伝えてくれ。

こうしてシャノワールとネコマタの再会は、平穩無事に終った。ソレイユ・シャノワールがこれからも4代目の銀河の大王を継続することに、ネコマタは強い信頼感を寄せていた。シャノワールにあって、東郷源九郎にないもの。それは、誰の眼にも明らかであった。

確かにどのような人間でも、他者に対して愛情をいだくことは、ありうることだ。しかし、それを博愛の精神にまで昇華させたものが、はじめてその力を行使することが出来る。それが、銀河の大王の精神の本質だ。

これからもシャノワールは、銀河の大王として、銀河帝国の市民のために生きることを誓った。ある夕暮れ時のことであった。

リアル・ファイト

最強は一人で、いい。

こうリアル・パンサーからの挑戦状には書いてあった。パープル・パンサーの二番煎じとしての生み出された存在。そのことに疑問を持った。そしてパンサーを名乗るのは、仮面の存在ではなく、本物だけであるのみだと。どちらが最強のパンサーか決めようじゃないか？

で、後楽園ホールリングに立っている、両者。

一方は仮面を冠り、紫のオーラをびんびんにさらしている。一方は、獣身で、無とも言うべき巨大なオーラを弾けだしている。

セコンドは、赤コーナーはポルゴ・ジュニアとユメミ夫人だ。青コーナーはホシノ博士だ。

ゴングが鳴った。ルールはユニバーサル・レスリングルールだ。

俺は、ワンツーからの左ミドルを放った。リアル・パンサーは右足を上げて、右手を使いブロックした。

空いたボディに右を入れる。リアル・パンサーは掌底で反撃してきた。

コーナーまで詰められた。苦し紛れにボディタックルに行った。

リアル・パンサーはフロントチョークで応戦した。

後ろはコーナー、前はチョーク地獄。まさに背水の陣だ。

俺は上手く身体をずらして、サイドにまわり、バックを取った。

すかさず、ハーフネルソン&チキンウィングに捉える。

タイガードラゴンスープレックス・ホールドに行った。

リアル・パンサーは両腕を決められたまま、マットに突き刺さった。

ユニバーサルルールのため、ノックアウトかギブアップのみで、フォールはない。

スープレックスポイントが一点入るだけだ。

クラッチを解くと、俺は一旦立ち上がり、様子を見た。

カウントファイブで立ち上がるリアル・パンサー。

リアル・パンサーの目つきが変わった。完全に金星ヒョウと同じ、敵を狩る目つきだ。

俺は、すかさず下段のシャッセで牽制すると、右のコークスクリュー、左のソバットを放った。

リアル・パンサーはカウンターの左のレッグラリアートで応戦する。渋い技だ。

すかさず、俺は大振りの左フックでこめかみを捉えた。今度は右のアップーだ。

一瞬、リアル・パンサーが怯んだ隙を、俺は見逃さなかった。

悶気味にフロントからクラッチすると、一気に後方にブリッジして、俺は振り返った。

フロント・タイガー・ドラゴンスープレックホールドが決まった。

俺はクラッチを外すと、なおも立ち上がろうとするリアル・パンサーに右のハイキックを放った。

全てが終わった。ご苦労様。パープル・パンサーのマスクに俺は心の奥で話し掛けた。

控え室で、マスクを脱ぐと、俺は一人のジパング人に戻った。

仮面という道具は便利だ。いつでも脱ぎ捨てることで、元のペルソナに戻ることが出来る。

脱げないマスクを持ったリアル・パンサー。それは、あわれな存在かもしれなかった。

でも、もう後戻りは出来ない。その決意は、会場のファン達にも伝わったようだ。

-ワタシにとって、パンサーはあなた一人よ。あなたに出会えて良かった。

そう話し掛けるホシノ博士であった。

-パパとパープル・パンサーって、どっちが強いの？

無邪気に聞いてきたテツオ。

-たぶん、パンサーじゃね？

たとえ、枕詞がリアルでもパープルでも、パンサーが最強の存在であることに誰も異論はなかった。

-面白くねーな。最強は、ここにいるだろ？

そうネットヴィジョンを見ながらつぶやいた男がいた。

もちろん、東郷源九郎である。

東郷源九郎、アルセーヌ・ポルゴ、4代目の銀河の大王。まだ見ぬ強豪を含めて、これから本当のバトルがはじまる。

リアル・ファイトはこれからだ。

もう一人のポルゴ

こんにちは、マリアおばちゃん。

こらっ、女子大生にむかって、おばちゃんはないだろっ、テツオ。

久しぶりにゼミの合間を抜けて、ポルゴ一家を訪ねたマリア・ハロルド。

ユメミさん、ちょっとテツオ君借りてもいいですか？ ポルゴさんも良かったら、一緒に来てもらえますか。

一瞬、何かやばそうなことが起ったと理解したテツオだ。

マリアお姉さん、どこに行くの？

ちゃんとお姉さんと呼べるんじゃないの？ 今から大学の体育館に特別に案内してあげる。

最低でも柔術の基礎と、打撃の基礎を教えないと。それにはまず英才教育だというのがマリア・ハロルドの持論だった。

内心、テツオは自分の格闘センスに自信を持っていた。パパといつも練習している。それにあのパパでも出来るんだから、余裕だもんね。

30分後、ジパング大学の体育館に着いた。そこには、永谷教授とのスパーを終えたライアン・ヤマモトが待っていた。

まだジュニア・スクールに通い始めたばかりだ。いきなりライアンは誰が見てもきつい相手だ。

好きな防具を着けていいわ。

じゃあ、ボクはいつもオープンフィンガーと、そうだな、いつものキックトランクスで。マウスピースとヘッドギアはいらないよ。ヤマモトさん、ボクまだ手加減出来ないけど、いいかな。ルールとかは、ユニバーサルでいいよ。

手加減？ いや、それはこちらの台詞だろと言いたいヤマモトであった。

もう一人のポルゴがそこに立っていた。

サリュ、アレ。

礼をして構える2人。テツオ、いやポルゴ・ジュニアはサウスポーに構えると、いきなり右のジャブを放った。ライアンがカウンターの大振りの左フックを放った瞬間、ポルゴ・ジュニアはまるで猿の子供が木に絡み付くように、抱きつき逆十字で、あのライアンから一本を奪った。

先輩、手加減しなくていいですよ。

じゃあ、もう一本だけ、お願いしようか。

サリュ、アレ。

構える2人。今度はライアンは右ミドルを放った。軌道はミドルだが、テツオにはハイ

の軌道だった。

ふーん。今のはちょっとマジになりそうだったな。

ジュニアの目つきが変わった。右膝にむかって関節蹴りを放つジュニア。

ライアンが同じ蹴りを放って反撃した瞬間、一気にスライディングして抱きつき膝十字で一本を取るジュニア。

テツオ、もうその辺にしておけ！

ポルゴが言った。

先輩、もしかして、悪いものでも食べましたか？

いや、これが本当のアルセーヌ・ポルゴ・ジュニアの実力だ。コマンドサンボのような戦い方を身につけている。

いや、俺、最近サンボにハマっていてね。息子もその影響を受けたようだね。

本当はテツオは、自分の知っている百を超える技から、相手のファイトスタイルに合わせて引き出しを出すことを覚えていた。ライアンのような相手であれば、打撃をカウンターで関節で切り返すしか、勝機はないと読んでいた。

テツオ君、これから、大学のカフェでお茶しない。

ありがとう、マリア、おば、じゃなかったおねーちゃん。

こうして、もう一人のポルゴは、すべからくキングオヴギャラクシーの初戦に向けて、経験を積んでいた。

ある冬の昼下がりのことであった。

あれから...

数年後、ついにデビューしたもう一人のアルセーヌ・ポルゴこと、テツオだ。

対戦相手は、西郷詩郎だ。

あまりの強敵ぶりに会場が沸く。

いいのか、テツオ。命がけだぞ。

わかってるって、親父。

それでは、キングオヴギャラクシーオープントーナメント特別試合、アルセーヌ・ポルゴ・ジュニア VS 西郷詩郎の試合を開始します。

セコンドアウト。

ゴングが鳴った。

まだポルゴ・ジュニアはジュニア・スクールだ。

西郷は柔道着姿だ。黒帯が威圧感を放っている。

テツオは、キックトランクスだ。

テツオは下段の左シャッセで牽制すると、ジャブを放った。

西郷はすり足で、まずシャッセをかわすと、ジャブも微妙な軌道を読んでかわした。

若造、山嵐を出すまでもない。

テツオの強烈な右ミドルが西郷の身体を捉える。軌道は完全にハイだが、身長差があり、ハイはミドルになってしまう。

西郷相手には打撃で勝負するしかない。しかし、問題は身長差だ。

西郷が掴み掛かろうとした瞬間、テツオは前方に飛び上がった。

西郷の顎を、頭突きが捉えた。

なおも掴み掛かる、西郷。

一か八か、ここは山嵐で勝負に出る！

西郷は一気に身体を沈めると、一本背負いの体勢に入って、そのまま容赦なく右足で相手の右足首を刈り払った。

テツオは今の山嵐を空中で一回転して着地した。

キャット空中回転、今の銀河の大王やプリンス・ネコマタの得意技だ。

西郷のオジさん、ボクには山嵐は通用しないよ。そろそろ本気を出させてもらおうよ。

全身のオーラが燃えたぎる。そして拳が輝いた。

拳に全身のオーラを込めると、いったん腰に拳を引いて、正拳突き的要領で、全身のオーラを爆発させた。

発頭だ。

すかさず、全身のオーラを今度は頭部に集中して、西郷の顎を射貫いた。

ダウンした西郷の頭部をオーラを込めた掌で、叩き付けようとするテツオ。

テツオー、もうその辺にしておけ。

ゴングが鳴る。

アルセーヌ・ポルゴ・ジュニアの完全ノックアウトによる勝利だ。

少年、いや完全に子供のポルゴ・ジュニアに、会場は呆気にとられる。

仕方ないな、とでも言いたげな、テツオ。

わかってるよね、東郷さん、それに今の銀河の大王。今、すぐに勝負しろとは言わない。
でも、やらざるをえないよね。いつでもいいよ、ボクは待ってるから。

何なら、次でもいいよ。

マリアおば、じゃなかったお姉さん、約束通り勝ったよ。パフェかアイス、ご馳走して
くれる？

いいよ。約束だからね。

こうして、アルセーヌ・ポルゴの伝説は息子へと引き継がれた。

伝説のタッグチーム、ファイヤーブラザーズが結成されたのは、あれから半年後のことだ。

ファイヤーブラザーズ

伝説のタッグチーム

あのアルセーヌ・ポルゴとザ・グレート・ポルゴの夢のタッグチーム、ファイヤーブラザーズについて語ろう。

二代目アルセーヌ・ポルゴと初代アルセーヌ・ポルゴ（ザ・グレート・ポルゴ）の夢のタッグチームは東郷源九郎&西郷詩郎チーム、マリア・ハロルド&ライアン・ヤマモトチーム、銀河帝国チームなど、あらゆるタッグチームを連破し、破竹の20連勝を挙げている。

そして、今日もまたファイヤーブラザーズとジョー・ヨージ12世&ジュン・バードのゴールデンシューターズとの試合が開催された。

赤コーナーよりファイヤーブラザーズの入場です。本日のメインイベント、ファイヤーブラザーズ対ゴールデンシューターズの試合を始めます！！

会場のボルテージが限界まで高まった。

ジュンと二代目ポルゴがリングインする。

ジュンは全身のオーラを第八段階まで高めて爆発させた。

そのままファーストコンタクトだ。

ジュンはメキシコ流カラテ仕込みのローキックだ。

二代目はバックステップで躲すと、右の脚払いを放った。

いまの脚払いをジュンは躲すと、そのままカカト落としに切り返した。

フロントステップでカカト落としを躲すと、得意の頭突きでジュンの顎を射貫く二代目。

迷わずノータッチでリングインするヨージ。ストンピングで二代目を蹴りつけると、すかさずコーナー初代にドロップキックを当てるヨージ。

ワタシは、初代と勝負がしたいデース。パープル・パンサーの正体と決着を着けたい。そして、ワタシがUスタイル最強と証明してみせマース。

会場の誰もが呆気にとられる。会場の観客はまだ、パンサーの正体、秘密について気付

いていなかった。

ジュニア、タッチだ。

初代がリングインする。

一方の相手はジョー・ヨージ。

右ミドルから入る初代。すかさず左のソバットだ。

ヨージは、今のソバットをフライングニールキックで合わせた。

初代がすかさず右のハイを放つと、キャッチしたヨージはキャプチュードで反撃だ。

そのままチキンウィングで優位に立つヨージ。

これでもボクは蛇の穴の会長デース。

すかさずノータッチで二代目がストンピングだ。

コーナーのジュンにもストーンピングをして跳ね退けると、トップロープに昇る二代目。そのままムーンサルトフットスタンプをヨージに浴びせる。ダウンしたヨージを肩車に捉える初代。

コーナーから再び二代目が飛び立った。今度はムーンサルトからの飛びつきフランケンシュタイナーだ。

ファイヤーフランケンシュタイナーホールド、勝者ファイヤーブラザーズ。

迷わず、試合終了のゴングが鳴る同時にと乱入する2人の男達。

プロフェッサー・ナガヤとエリック・ニシザキのチーム、ザ・グレート・ジーニアスだ。

誰がファイヤーブラザーズを止めるか、今の時点では白紙だった。もちろん、ザ・グレート・ジーニアスにもそのチャンスはある。

これだから、キングオヴギャラクシーは、タッグ総合格闘技は、やめられない。

愛と友情、全てが詰まった勝負が繰り広げられることだろう。

親子愛、師弟愛、そして友情。クリーンファイトは、終らない。

最後の意地

しかし、あのアルセーヌ・ポルゴも親子でプロレスラーまがいの行為をしている。

そう思ったのは、かつて銀河最強を謳われたあの男、三代目の銀河の大王であった。

三代目の大王は、さっそく西郷師範に連絡を取ると、最後の戦いの準備を依頼した。

そうですね、準備期間は半年、あのポルゴ親子のショービジネスにもそろそろ飽きてきたところです。私は最近ジバングの古武術の研究にこっています。大王と組めば、もしかしたら、あのポルゴ親子を倒し、正しい道に目覚めされることが出来るかもしれない。共闘しましょう。

三代目の大王は、ジバングで西郷師範と共に剣術の修行をしていた。本来、総合格闘技のキングオブギャラクシーのルールでは武器は例外を除いて使用できない。オーラを具現化して攻撃する気を除けばだ。そこで大王と西郷詩郎が考えたのが、気を具現化して剣のように扱い攻撃する術だ。もちろん、西郷は柔の道に生きている。全身の装甲が重く、まるで戦国時代の武将のようなワニ面の男、三代目の大王に、剣術の奥義を授けると、何のためらいもなく、西郷はこう誓った。

私は、素手で戦います。気にも頼りません。大王もポルゴと決着を着ける時以外は、我々の剣術の成果を使わないで頂きたい。

もともと古武術は剣術と柔術から構成されていた。ただ、素手の強さを目指して柔術の修行を行うにしても、動きや術理など、剣術の修行も必要不可欠であった。

その両輪を極めた2人が、ショービジネスの使い手と化したポルゴ親子に挑戦状を叩き付けた。

あれから、半年後。アルセーヌ・ポルゴ親子と西郷、大王組の試合が組まれた。ワンマッチのユニバーサルルールだ。

もともと総合格闘技の世界にタッグマッチがあること自体、おかしいと言えばおかしかった。しかし、真剣勝負の総合格闘技のタッグマッチ、それがキングオヴギャラクシーの本質だ。

会場総立ちのもと、ムーンアリーナという曰く付きの会場で、銀河帝国の国歌が斉唱される。西郷は柔道着に黒帯、袴、銀河の大王は黒の軍服で入場する。一方、ポルゴ親子はキックトランクスだけだ。相手に掴まれてもいいよう、全身にオイルをぬっている。

セコンドには、ポルゴ親子はライアン、銀河帝国チームはなし、という異例の構成だ。そして特別立会人として四代目の大王が座っていた。

ゴングが鳴る。

まず、リングインしたのは西郷詩郎とポルゴ・ジュニアだ。

ジュニアはステップからジャブ、ストレート、そして頭突きを放つ。

バックステップで躲す西郷。すかさず右の足払いで牽制する。

西郷の得意技、山嵐は背の低い人間が、背の高い人間を担ぐ技であった。

西郷は、恐ろしい作戦を取った。

わざと、ゆっくりワンツーを打った。

二打目のストレートをゆっくり打つと、ジュニアがカウンターで右の手首を極めて、そのまま一本背負いの体勢に入った。右足で右足を刈り払った。

掟破りの一本背負い崩れの山嵐だ。

西郷はわざとギリギリまで山嵐を受けると、カウンターのバックドロップを放った。

豪快に同体となって、両者は頭からマットに突き刺さった。

相手が小柄で、オイルをぬって掴ませないという作戦を取っている以上、ギリギリまで接近してバックドロップを放つ必要があった。

ポルゴと大王がリングインする。

大王は一気に第八段階まで気を具現化していた。第八段階の気は可視できない。

ポルゴはアップライトに構えていた。ワンツからサイドキック（シャッセ）で攻めるポルゴ。

ワシはこの刻、この勝負を待っていた。はじめて拳を交えたときは、まだ気の奥深さにも気付いていなかった。そして、ただ強ければいいと思っていた。

昔は大王だった。今はネコ族に政権交替され、ただの元大王。すべての雪辱を果たすときが、来た。

大王は無我夢中でパンチを放っていた。ジャブ、ストレート、フック。一見、無手勝流に見えて、全て練習した型通りの動きだ。

ポルゴはカウンターのローリングソバットを放った。大王は裏拳で応戦した。

背後を見せた瞬間、ポルゴは龍虎 SH の体勢に入った。大王はクラッチに行く、一瞬の間を見逃さなかった。右の肘に全身のオーラを込めると、肘打と共に全身のオーラを爆発させた。

発頸だ。

ポルゴが戸惑った瞬間、大王は全身のオーラを具現化して、斜めにバサリとポルゴを袈裟切りした。

秘奥義、壺之太刀

あまりにあっけない幕切れだった。

大王はマイクを取るところ宣言した。

ワシは一銀河市民として訴える。皆がこのようなショービジネスに浮かれている一方で、この世界から悪政、貧困、食糧不足は消えることがない。もう一度見つめてほしい、現実を。そして、もう一度、ワシ、いや私（わたくし）に力を貸していただきたい。この銀河は最初から一つだったはずじゃ。そして、もう一度だけワシにチャンスを与えていただきたい。

リング正面であっけにとられるシャノワールこと四代目の大王。

...ただ強いだけではない。為政者には優しさや、人の弱さを理解することも大切だ。そして、銀河帝国の法と市民の守護者として、議長の権限を、もう一度だけ、ワシに戻してほしい。もちろん、正当な手段で、私も一市民として議長選挙に立候補する！ そしてもう一度だけ、銀河帝国に繁栄と平和を復活させたいのじゃ、このワシの手で。

ただシャノワールはこう答えるしかなかった。

...我が輩もネコ族である。正当な選挙のもとでもう一度戦い、銀河市民に信を問おう。しかし、次の選挙の争点では、銀河法典の改正を含めさせていただく。

銀河法典、それは銀河帝国のルールを決定する最高法規であった。惑星間戦争と調停のルールまでを含んだ、いわば銀河の惑星間法、国際ルールと憲法をミックスしたものだ。

今まで銀河帝国は民主帝国主義を取っていた。そして帝国議会の代表は議長が務めてい

た。議長は、大王と呼ばれ、政治的な代表権と軍事的な統括権を独占していた。

現役の大王自らが、銀河法典の改正を口に出した瞬間だ。

この銀河にはモンキー族だけではなく、龍族、ネコ族、トビウオ族など、様々な進化の過程を経た人類が生息していた。その全ての命運を賭けて、5代目の銀河の大王の座が争われることになった。銀河の歴史を決める投票日まで、あと半年である。

鳴猫拳の真実！

ソレイユ・シャノワールこと4代目の銀河の大王は公務を副首相に委任すると、師、プリンス・ネコマタに謁見していた。

「御主、何か考えがあって来たな？ まあ、ワシはネコマタだ。伊達に尻尾が四本に分かれるまで生きておらんで。だいたい、御主の考えていることはわかる？」

「さすがネコマタの君ですニャ。実は鳴猫拳（ニャンケン）の真実を教えて頂きたくて、ご挨拶に伺いましたニャ。」

「鳴猫拳（ニャンケン）か。あれは我々ネコ族にとって、最大の禁じ手。地球圏にいる我が親愛なる同士、ネコ様の動き、ファイトスタイルを模した最強の拳法だ。ネコ様は、一般には地球圏では人間のペットのように過ごしているが、地球圏で唯一人間に食われることもなく、ただ覇権を握っている伝説の生物だ。イヌは場合によっては、人間にウナギのように食べられてしまうこともある。ただ、ネコ様は三味線の犠牲になることを除けば、人間のエサにされることはない。実は地球圏で覇権を握っているのは、モンキー族ではなくネコ様であるという説まであるのだ。ネコ様は集団戦争をしないという点でも優れている。ネコ様がハンティングをなさる時の、パンチの動き、頭を搔く時の柔軟な動き、ダッシュ、かみ付き、ツメの動き。しかし、鳴猫拳（ニャンケン）に頼らなくても、今の御主であれば、充分戦えるのでは？」

「私も以前はそう思っていましたニャ。しかし、ポルゴを斬った先代の大王の動きを見て、考えを改めました。奥の手を出さないと、勝てないと。もしや西郷師範には、我々銀河帝国にはない格闘技の奥義を究めているのではないか？ 同じ地球圏、そしてジバングの格闘家に伝わる奥義を切り返すには、あの地球に多数生息していらっしゃるというネコ様の技を模すしかないかと。」

「よろしい。鳴猫拳（ニャンケン）をマスターするには、ネコ様になりきるしかない？ キャットパンチの極意はわかるか？」

「若干、ネコ手に拳を構えて、ニャンと一発。いや二発。」

「キャットパンチの極意はナ、相手の脳を揺らす程度に軽く放つことだ。カラテとは違う。発頸に近い。」

「キャットキックは出来るだろうな？」

「尻尾と軸足でバランスを取って、自分の顔を蹴るかのような軌道でハイキックですニャ。」

「キャットダッシュはいいか。相手の急所を狙って、一目散にダッシュしてタックルだ。」

「かみ付きとツメ攻撃は、反則を取られる可能性もある。最後の手段だ。相手の急所めがけてガブリだ。」

「いわゆる、遊びは終わりニャ。ですね。ツメで相手を数発攻撃して、トドメにガブリと。」

「済みませんニャ。ニャン拳の他にもお願いしたいことがありますニャ。」

「タッグパートナーの件か。ワシはもう老人だ。源九郎君では、ダメか。」

「ダメではないですニャ。ただ、出来れば銀河帝国の生粋の人間に。」

「東郷源九郎は確かにジパング人の血を引いているが、出身は我が銀河帝国だ。」

「わかりましたニャ。他にも気になることが。」

「潜在的なライバルがまだいると？ レッド大佐のことか。奴は火星帝国のドロップアウト出身で、今銀河帝国を荒し回っている凄腕の軍人だ。」

「いや、他にも。何か、銀河帝国に関わる中枢から、本源的なオーラを感じますニャ。それも強烈な。」

「わかっておる。しかし、源九郎と組めば、敵などいない、だろう。」

「そうあって欲しいですニャ。」

「あとは何か？ 御主、銀河法典の改正を提案したようじゃな？」

「恒久平和のための戦争の放棄。市民平等。民主帝国主義から、市民主権惑星主義への移行を提案する予定ですニャ。」

「確かに我が銀河帝国は、戦争の存在や、カーストの存在をひた隠しにして、大王が強大な権限を握って、統治しているという欠点がある。しかし、どこの社会でも戦争や不平等はなくなるものではないか？ 貴君、この世界の歴史を知っているか？」

「確かに戦争や不平等、貧困や飢餓、悪政はいつ、どの時代でもなくなりません。しかし、それを減らしたり、制度的に制約することは可能かと思います。それをやるために、私は大王になりました。」

「若いな。しかし、ワシは御主の実力とその信念を買っている。好きにしまえ。」

「ありがとうございますニャ。」

こうしてソレイユ・シャノワールは鳴猫拳の奥義を伝授された。

登場！ レッド大佐。

火星移民から初期にドロップアウトした一族の子孫、今は銀河帝国で軍人をやっているレッド大佐は、部下から銀河帝国の内乱を鎮圧したという報告を受けると、こう呟いた。

「上が無能だと、戦争は終らんよ。この世界、一つ覇権を賭けて勝負してみるか？」

火星人のクォーターであるレッド大佐は、地球人類が宇宙に出て行ってから持ち始めた第六感を強く持っていた。かつて月世界の法王は、人の心を読み、操ることまで出来た。レッド大佐は、何となく人の意識の集合としての未来像が、読めるのであった。これまで、微妙な第六感に頼ることで、相手の戦術を予測して、最小限の犠牲で戦争に勝利して来た。しかし、レッド大佐に言わせれば、社会の秩序を維持するために犠牲が必要という考えが問題で、自分は社会を守るために存在していた。

レッド大佐の指揮下の舞台は、征服ではなく、防衛を旨としていた。

しかしいずれにせよ、現大王と先代の大王が選挙という名を借りて、覇権を争っているようでは、安定した統治は望めなかった。

最近、また惑星狩りをしている銀河異生物がいるとの情報も入っていた。

銀河異生物、それは GEM と呼ばれていた。Z 型 DNA 構造という、地球圏や銀河帝国の生物種の螺旋状 DNA とは別構造の DNA を持って、他の生物種に遺伝子レベルで寄生する恐ろしい生物だ。GEM に感染すると、コアと呼ばれる親玉の異生物のコントロール化におかれ、惑星レベルで新しい種を生み出し、惑星を支配してしまう。進化を加速し、惑星の生態系を変え、最終的に全ての既存生物種を滅ぼしてしまう。

もちろんそれで新しい生物種が生まれるのなら、銀河帝国としては歓迎すべきかもしれないが、Z 型 DNA 構造の種は、排他的に他の生物種に寄生して、増殖していく、ガン細胞とウィルスの混合体のような存在であった。さらに、GEM はコアが意思を持っているという点でも恐ろしい種であった。

従来の銀河生物種は、広がっていくという銀河世界の中で、若干抗うといった程度の存

在に過ぎなかった。だが、GEMは惑星レベルで種を広げ、自分たちの「系」としての意思を持って、進化を加速していた。

いつか銀河帝国全てが、GEMに飲まれ、全く違う生物種の支配する世界になりかねなかった。

「ワタシに出来ることは、早く銀河帝国を再統一して、GEMを滅ぼすか、隔離することだけだ。」

「レッド大佐、次回の大王を決める、キングオブギャラクシータッグトーナメントの予定が発表されました。」

「そうか、ワタシも参加しよう。火星圏、そして銀河帝国、どちらもまだ終らんよ。」

太陽の黒猫

ソレイユ・シャノワール。現在の銀河帝国議会議長の名前は、太陽の黒猫という意味である。先代の議長が生まれながらにその地位を約束された男であり、名前はギャラクティカ・マグナ、つまりそのまま銀河の大王であった。先代の議長は、自らその地位を引き換えに、息子のギャラクティカ・ジュニアに政権を譲り、院政をしようとした。その時、民主帝国主義を取る銀河帝国とその憲法にあたる銀河法典に異議を唱え、銀河法典の改正を唱えたのがソレイユ・シャノワールであった。

いつになってもこの世界から貧困や戦争はなくなり、社会は本当の意味では成長しない。どんなに文明や科学が発達しても、人類という種自体は、そう簡単に根本的に進化したりはしない。もちろんこの世界はホモ・サピエンスだけではなく、龍族やネコ族など、多くの人類種を抱えていた。地球人類が宇宙に進出してわかったことは、同じレベル、いやそれ以上の科学力を持った人間は、地球人の他にもいくらかでも存在していることだ。しかし、その文明のるつぼである銀河帝国ですら、貧困や疫病、戦争といった問題を解消できずにいた。

銀河帝国の最大の利点、それは発達した科学力ではなく、長年培ってきた統治システムであった。しかし、それも時代遅れとなりつつある。銀河法典の最大の守護者としての龍族、銀河帝国議会議長に NO を突きつけたのがシャノワール、その人であった。

あとの歴史家は、こう言うだろう。太陽の黒猫の改革と。

あまりに先代の大王は権力や軍事的パフォーマンスに力を入れすぎた。

その代表が、銀河最強を決める格闘大会キングオヴギャラクシーの開催だ。

純粹に戦闘力ナンバーワンが、銀河ナンバーワンである。そのような短絡的思考が、銀河帝国を誤った方向に導いてきた。

弱い立場の人間もいる。いくらそこから抜け出そうと思っても、抜け出せない弱者がいる。

そこに手を差し伸べられるのは、少数民族ネコ族出身のシャノワールだけであった。

どんなに文明が発達しても、新しい兵器、情報兵器や情報戦争が始まるだけだ。でも、人間はただ悲観的に生きているわけではない。たとえどんな危機や困難が来ようとも、協力して乗り越えることが出来る。そして、いつかは、人類も進化するだろう。その新しい人類は、もはや人類と言える存在ではないのかもしれない。

しかし、神でもなく、獣でもなく、その中間でまるで煉獄にいるかのように抗う種。それが人類でもいいのではないか？

後戻りは出来ない。第五代、銀河帝国議会議員長の選挙はあと数ヶ月後であった。

キングオヴギャラクシー

最終決戦！

第五代銀河の大王選挙を兼ねたキングオブギャラクシータッグトーナメントの概要が発表された。

龍族チーム

ギャラクティカ・マグナ（三代目の大王）

ギャラクティカ・ジュニア（もと皇太子、今の首相）

ネコ族チーム

ソレイユ・シャノワール（四代目の大王）

東郷源九郎

ポルゴチーム

アルセーヌ・ポルゴ

西郷詩郎

レッド大佐チーム

レッド大佐

リアル・パンサー

ジパングチーム

ライアン・ヤマモト

マリア・ハロルド

チームダブルエックス

G'

グレート・アジア

総合野郎 B チーム

ジョー・ヨージ

ジュン・バード

グレート・ブシドーチーム

ザ・グレート・ブシドー

プロフェッサー・ナガヤ

このトーナメントでの勝者と銀河帝国市民の投票による代表チームのリーダー同士が最終決戦を行い、第五代目の銀河の大王が決まる。

ナンバーワンはただ一人で、いい。

チームダブルエックス

あいつら、確かにタイムマシンを渡して、この時代から飛ばしたはずなのに...

銀河帝国の混乱期に猛烈な勢力で惑星狩りをやっているチームダブルエックス。手当たり次第、惑星の支配権を賭けた闘いを銀河帝国の地方惑星の元首に持ちかけては、勝利して、惑星を支配下に置いていた。

もちろん、そんなことが可能なのは、銀河の掃除人、最強の強化人間こと G' (ジー・ダッシュ) とリングの女王ことグレート・アジア 13 世のチームダブルエックスだった。

確かに彼らはマリア・ハロルドから量子時空移動船を受け取っていた。しかし、フル充填したエネルギーでタイムトリップを未来に向けて行ったところ、時間軸方向ではなく、銀河の辺境方向に飛ばされてしまった。

いつか地球圏に戻る燃料費を稼ぐために、惑星狩りを行っていたところ、またもキングオヴギャラクシーが開かれることを知った G' はこう言った。

俺が一番嫌いなのは、キングオヴギャラクシーだ。その歴史、今回限りにして見せる。

G' はマリア・ハロルドの先祖である G・ハロルドのクローンに初代の銀河の大王の龍族の遺伝子を注入された強化人間だ。おそらく血統レベルで言えば、最強に属する。

そして、同じく血統レベルで言えば、グレート・アジア族の遺伝子を直系で引き継いでいる 13 世がパートナーだ。

このチームに死角はない。

断言できる。

惑星狩りの経験で、グレート・アジアは完全にショーレスリングからユニバーサルレスリングの使い手に変貌していた。

G' は惑星狩りの激闘で、気を完全にコントロール出来るように成長した。

マリア・ハロルドがライアン・ヤマモトと組んでギャラクシーに参加すると聞いた G' はこう答えた。

あのアマ、生意気だ。ゴミとクズは銀河からスィープするに限る！

圧倒的な自信を見せるチームダブルエックスだ。

総合野郎 B チーム

しかし、生きていくことは大変だ。

そう思ったのは、今は蛇の穴の経営者、ジョー・ヨージだ。

ジョー・ヨージは、ユニバーサルレスリング、総合格闘技のジムを経営していた。

確かに火星帝国の野望に振り回されたり、パープル・パンサーに敗北したり、ヨージの人生には苦勞が付きものだ。

でも、今は信頼できる友人を激闘の末、手に入れていた。

ジュン・バードだ。

次のギャラクシーに、ジムの経営基盤を強化し、総合格闘技の振興にも一役買いたいと思ったヨージ。

ジュンさんの名前の頭文字を取って、総合野郎 B チームはどうですかー？

私は、A チームのつもりでエントリーしようと思っていました。

それは、ジュンさんはメキシコ流カラテの継承者で、どこから見ても A クラス。いや S クラスです。

でも、ワタシのように、レスラーとしては B クラス、シューターとしても B クラス、でも総合格闘家としては、一流を目指す人間もいます。つまり、基本的な素養が B クラスであっても、経験と打・投・極が上手く廻れば、一流の総合格闘家と渡り合える。そんな努力の可能性から、ワタシは、総合野郎 B チームをジュンさんと結成したいです。

いずれ B チームには、地球圏の若手格闘家をスカウトしたいと思います。各種競技で B クラスの実力でも、鍛え上げて、一流の総合格闘家に仕上げる。それが蛇の穴のポリシーです。

特別コーチに、トシアキ・フジワラさんをお迎えしています。

実力的には、いぶし銀のチームだ。ねちっこいレスリングベースのヨージと華のあるストライカー、ジュンのチーム。

総合野郎 B チームは、経験と打・投・極の流れを上手く利用した有力チームだ。

グレートブシドーチーム

永谷教授、はじめまして、ワタクシ、ザ・グレート・ブシドーと申します。

いきなりジパング大学大学院の研究室に、とびきりの大男が訪問した。

あ。あなたは、あの東郷師範の友人、ザ・グレート・ブシドーさんですね。

話がハヤイ。ワタクシが見込んだだけのことはある。アナタはサバットとブラジリアン柔術を極めていて、しかもジパング大学の教授だ。ワタクシのパートナーになって頂きたい。

ワタクシのような、貧相な研究者でもいいのですか？

何をおっしゃる？ 東郷師範も生態学の研究者だ。そして、あなたは今の東郷源九郎にはない、大切なものを持っている？

それは何？

ハートだ。植物学者、そして武道を究めたあなただけが持っている優しい心だ。人間、どんなに修羅場を潜り、経験を積んでも、そして武道を極めても、優しい心がなければ、人を正しい方向に導くことは出来ない。

確かに、あなたはパワー不足かもしれない。

でも、パワーと体重、体格はオレが提供する。真に人の上に立つ、いや人を正しい方向に導くのは、永谷教授、あなたのような人間だ。オレは、確かに闇側の人間かもしれない。でも、正しい心、光を持った人間を見分けることは出来る。今回のキングオヴギャラクシーと一緒に時代を正しい方向に導いてほしい。

確かに今までのギャラクシーの参戦者の中で、プロフェッサー・ナガヤほど、正しい心や優しさと強さを持った人間はいなかった。

東郷源九郎は手段を選ばない人間だ。G' は非道でクールだ。ポルゴは時に、非情な男とも言えた。三代目の大王も、シャノワールも、時に銀河の守護者として、非情になることがあった。

実験用のネズミー匹殺すのが、辛く、植物学者の道を選んだナガヤ教授。そして、激動の銀河帝国の中を時に非情に生き抜いてきたザ・グレート・ブシドー。

ある意味、最強のタッグチームである。

レッド大佐チーム

火星、銀河帝国、まだ終らんよ。

そう言ったのはレッド大佐だった。

惑星狩りをやっている銀河異生物の正体が、チームダブルエックス、つまり強化人間 G' とグレート・アジアの2人だとわかると、レッド大佐は、独自のセンスでパートナーを選び出した。

強化人間 G' は過去の遺物だ。今の科学の最先端が生み出したのが、最強のキマイラ。つまり、リアル・パンサーだ。

もともと G' は過去の格闘家 G・ハロルドのクローンに、初代の大王の遺伝子を注入した強化人間だ。

それに勝てる唯一の存在。もちろん現代の格闘家アルセーヌ・ポルゴに、金星ヒョウの遺伝子を注入しデザインしたリアル・パンサーだ。

君は、唯一無二の存在だ。この世界の覇権、秩序、私と取り戻してみないか？

自分は、半端者だ。そう思い込んでいたリアル・パンサーを、唯一無二の存在と讃えるレッド大佐。

わかった。オレはお前を信じる。

こうして、火星圏出身のレッド大佐と、金星ヒョウの遺伝子を持つリアル・パンサーの異色のチームが生まれた。

ジパングチーム

マリア・ハロルドは最近、いつも同じ夢を見ていた。

ヤマモト先輩、私、ずっと前から、先輩のことが...

せっかく夢の中でライアン・ヤマモトに告白しようと思うと、いつも母親使う洗濯機の音で目が覚めた。

母さん、もうちょっと静かに出来ないの？ 今、いいところだったのに。

何言ってるの、この子は？ 大学生にもなって、家事一つ手伝わないで、格闘技の練習ばかり。格闘技もいいけど、たまには勉強したら？

勉強？ 受験勉強で燃え尽きたわ。でも、大学の同じコースにヤマモト先輩がいるから、勉強は大丈夫。

マリア。お前、ヤマモト先輩に惚れてるんじゃないの？

何言ってるの？ 案外、そうかもしれないわね。でも、現実は厳しいわ。

ライアンは理想の男だったが、そのストレートな性格は研究と格闘技にだけ向けられ、身の回りの女性には見向きもしなかった。いや、ライアンは内心誰かを愛しているようではあったが、その相手が誰かまでは、確信が持てなかった。

ヤマモト先輩、お願いがあります。

今度のキングオブギャラクシー、一緒に出てくれませんか？ そして、もし私たちが優勝したら...

ここまでの相談は上手く行った。

後は、夢の続きを現実にすることだ。

ポルゴチーム

そうか、あの G' の野郎。まだ生きていやがったのか。それに、グレート・アジアまで。

ポルゴは思った。最強は一人で、いいと。

しかし、世界には上には上がいた。自分より確実に強い人間。そして自分をライバル視している人間。

西郷詩郎か。

西郷詩郎は、G' とグレート・アジアの生存情報を聞くと、こう答えた。

一度手合わせしたいと思っていた人たちです。流派や恩讐を越えて、共闘しましょう。

しかし、トーナメントの決着が着いた後は、私たちは...

敵同士か。それも、そうだな。

最強のライバル同士がタッグを組み、キングオヴギャラクシーの歴史に終止符を打つべく、最後の闘いに挑もうとしていた。

龍族チーム

G'、グレート・アジア、それにポルゴと西郷師範。かつての最強のライバル達が、キングオヴギャラクシーにエントリーしていた。三代目の大王は、こう思った。

ワシの爺様の血、能力を継いだG'か。そして、新世紀最初のギャラクシーで闘ったポルゴやグレート・アジア。そして、あの西郷師範までもが敵か。さらにあの生意気なシャノワール。全ての闘いに終止符を打ち、ジュニアを五代目の大王にするには、ワシが直々にパートナーを引き受けないといかん。

銀河帝国首相を務めるギャラクティカ・ジュニアはこう思った。

ボクは、今まで銀河帝国の皇太子として周囲に甘えてばかりだった。そして、今ある地位が銀河帝国の万年ナンバーツーだ。今度こそ、自分の力で、龍族が、そしてボクこそが銀河の大王にふさわしいことを見せてみせる。

三代目の大王は、銀河帝国の中で、保守勢力を代表していた。民主帝国主義以外に、惑星間の利益を調停するシステムはあり得なかった。銀河帝国が、銀河帝国たりうるのは、民主主義と帝国主義を合わせた、独自の政治システムの上であった。銀河の平和を維持するために、若干の犠牲には目を瞑ってきた。矛盾を受け入れる度量こそが、大王の器であった。

改革は、許さない。

そして、今の銀河法典こそが、惑星間恒久和平を維持するシステムだという持論があった。

銀河法典は、惑星間恒久和平を訴える一方で、紛争解決の手段として、暗黙の内に軍事力を認めていた。それ故の、銀河帝国であった。大王であった。

確かに、ワシは自分の力を誇示すること、優れた龍族が、力でもって惑星を統治することに力点を置きすぎたかもしれない。

もっとも優れたものが、銀河のボス、つまり大王になればいい。そして、今はその力をジュニアに託したい。そう考えた三代目の大王だ。

ネコ族チーム

シャノワールは思った。

今、銀河の信頼が揺らいでいるニャ。この世界からはいつになっても戦争や貧困、食糧難の問題は解決されない。この背景には政治・経済システムを根本的に改革する必要がある。銀河法典を変えて、民主帝国主義から、市民主権主義に変更するニャ。銀河帝国も、銀河市民連合に改正するニャン。銀河の大王は、地位はそのまま、銀河帝国議長から、銀河市民議会議長に変更するニャン。

パートナーは東郷源九郎だ。

俺は、父、東郷源一郎の遺伝子を引き継いでいる。この世界にはポルゴをはじめ、邪魔な奴らがいる。G'の野郎も、存在が気に食わない。今はシャノワールと組むが、トーナメントがおわったら、始末してもいい。最強は、一人でいいのだから。俺はネコ族ではないが、ネコ族の血を引く子供を授かろうとしている。妻の紀子も、俺がキングオヴギャラクシーに出ることを了承している。

確かに源九郎は唯我独尊を行くプライド高き男で、そのパートナーを引き受けるのは、妻のマダム・アワヤかポルゴ、シャノワールくらいであった。今は妻は妊娠中であり、かつの闘いでポルゴを敵に回した以上、あとは、現大王と組むしかなかった。

それはボクもブシドーちゃんみたいに、ファイティング・プロフェッサーと組むことも、シミュレーションしてみたニャ。でも、ナガヤ教授は、線が細いニャ。ハートは優しい人格者だが、格闘家としては、ちょっともったいないニャ。その点、源九郎は鬼だが、ガツガツした格闘家としての天性のセンスを持っていた。

人間としては荒削りで完成しておらず、パートナーとしても若い面が否めなかったが、それをカバーしきれるのが真のリーダーであろう。

シャノワールは思った。銀河法典を改正して見せると。そして、銀河の全ての問題の原因に終止符を打つ。今まで大きな戦争は現行の銀河法典のもとでは起らなかった。でも、それは見せかけの平和だ。常に地方ではクーデターや紛争、言葉で形容し難い犯罪が行われていたが、報道管制によって、そして世間のエゴによって、目を瞑ってきた。自分さえ良ければ、そして首都惑星や近隣惑星のみ平和であれば、それでよい。そんな考え方が銀河を悪い方向に導いてきた。

民主帝国主義に終止符を打つ。市民主権主義に変更を行う。それが出来るのは、ただ一人。

少数民族出身の若き大王、ソレイユ・シャノワールのみであった。

傷だらけのライアン

キングオヴギャラクシートーナメント第一試合は、チームダブルエックス VS ジパングチームだ。

逆立った銀髪が特徴の強化人間 G' とプロレス界の至宝、グレート・アジア 13 世のチームダブルエックス。一方、ジパングチームはジパング大学大学院のライアン・ヤマモトとその後輩ジパング大学の女子大生マリア・ハロルドのチームだ。

この試合が事実上の決勝戦とも言えた。

地獄からの使者のテーマでダブルエックスが入場する。一方、ジパングチームは地球の名曲 GLORIA で入場した。

臨戦態勢になる両チーム。まずは、グレート・アジアとライアン・ヤマモトがリングインした。

アジアが上段気味に構えると、ライアンは低空タックルを仕掛けた。

ゴングが鳴る。

タックルを潰すアジア。

したからライアンは絡み付き、逆十字を狙う。

すかさず、G' がリングインしてカットに入る。

タッグマッチで関節技を決めるのは難しい。

グレート・アジアは一端ニュートラルコーナーまで身体を引いた。そこから全速力のアックスボンバーを仕掛ける。

ライアンは脇固めで切り返した。

すかさず、G' がカットに入る。

関節技が通用しない。さらに、アジアは全身の気を第八段階まで高めていた。

ライアン先輩、タッチをお願いします。

いいとこなしで、引けるかよ。

ライアンは打撃の構えを取った。

シャッセバーからのワンツーで踏み込んだ。

アジアは今の打撃戦をオープンハンドで、掌底のように受け止めた。

ライアンがミドルに行ったところを、アジアはドラゴンスクリューに切り返した。

今のコンタクトの瞬間、アジアは全身の気を具現化して、ライアンに雷撃を与えた。

クっ、シビれるな。

すかさずノータッチで MARIA がリングインする。

アジアは冷静に G' とタッチを成功した。

ノーモーションで G' は両手を一気に引くと、タメを作って、ギャラクシーウェーブの体勢に入った。

MARIA は今の攻撃を読んで、気をフィールドとして利用して、G' のバックに瞬間移動した。そのままスリーパーに入る MARIA。

もらったわ。

そうかな？

G' は首を絞められたまま、何のためらいもなく、目の前にギャラクシーウェーブを放った。

そこにはダウンしたライオンがいた。

しまった。

スリーパーを解除したマリアの背後からグレート・アジアが体当たりを仕掛けた。

G'はすかさずトラースキックで援護した。

グレート・アジアは全身のオーラを具現化して、雷撃のようにラリアットを放つ。

マリアは今の一撃でダウンした。

ジパングチーム、両者ダウン。カウント、5、6、7、8...

カウント9でライアンが立ち上がった。

このまま、終わるかよ。

強烈な右ストレートをG'に放った。

アジアはコーナーで見物中だ。

もう一回、そのストレートを受けてみたいな。

G' が挑発した。

ライアンがもう一度、右を放った瞬間、G' は全身を沈めてカウンターの本一本背負いに行った。

すかさず、コーナーのアジアが宙返りをして、セントーンプレスを仕掛ける。

アジアはライアンの首元を踏みつけると、G' がマリアを牽制して、ダウンカウントを要請した。

チームダブルエックスの両者ノックアウト勝ち、つまり完勝だ。

ブシドーの誤算

ザグレートブシドーチームと総合野郎 B チームの試合がはじまった。

正直かなりの格闘マニア以外、注目しないカードだ。

永谷教授とジョー・ヨージがリングインして、ゴング。

古典的な腕の取り合いから、力比べ、まるでストロングスタイルの試合だ。

永谷教授がシャッセを放ち牽制すると、ヨージもフェットメディアン（ミドル）で応戦した。

会場が一気に盛り上がる。

ブンドーの誤算。それは、永谷教授が真のファイターだということだ。

人間性だけで、永谷教授をスカウトしたが、実力もいぶし銀だ。

永谷教授が強烈な右ストレートを放つと、カウンターのタックルに移行するヨージ。ガードポジションから、逆十字を狙う永谷教授。

ヨージはわざと逆十字を誘った。

両手のクラッチを放さないまま、抱きついた永谷教授を持ち上げると、一気にパワーボム！

そのまま押さえ込むヨージ。

さらに、再度持ち上げ、永谷教授を投げっぱなしのパワーボムでKOした。

すかさず、ブシドーがリングインする。

ヨージはクールに、ジュンとタッチをする。

メキシコ流カラテの継承者、ジュン・バード殿、お相手いたす。

ジュンはテコンドーのように打点の高い蹴りの連打を放つ。

もちろん全ての蹴りはコンタクトの瞬間、具現化したオーラが雷撃のようにガードの上からブシドーを痛めつけていた。

ぬう。

ブシドーはスーパーヘビー級のショルダータックル一発で、ジュンをふっとばした。

コーナーのヨージは動かない。完全にジュンを信頼している。

ダウンしたジュンを上からブシドーが睨みつけると、下からの反動を利用した低空ドロップキックで、ジュンが襲いかかる。ブシドーは今の一撃をよけきれず、膝に直撃した。

ジュンはスタンドに移行した。

ブシドーの動きが鈍る。

ヨージはゴーサインを出した。

ジュンは左のフロントキックから、右のバックキックにつないだ。

右のバックキックの瞬間、全身のオーラを燃焼して、炎のように使った。

ブシドーは直立したまま、気絶していた。

ジュンが足払いで、申し訳程度にブシドーを倒すと、そのまま総合野郎 B チームの勝利が決定した。

パンサーの涙

レッド大佐チーム対、ポルゴチームがはじまった。

先鋒は、レッド大佐と西郷詩郎だ。

レッド大佐は、プレッシャーを掛けつつ、西郷と組んだ。

一閃、西郷の山嵐だ。

レッド大佐は下から冷静に逆十字を狙っていた。

西郷は、パワーボムで切り返した。

すかさず乱入したリアル・パンサーがストンピングで妨害する。

リアル・パンサーは上段に構えていた。

西郷は下段気味だ。

パンサーが蹴る。

西郷はキャッチすると、冷静に間合いを詰めた。

そのまま大内刈りだ。

すかさずレッド大佐がストーンピングでフォローに入る。

火星圏、まだ終らんよ。

いい終えた瞬間、西郷とポルゴがタッチを成功する。

ポルゴ対レッド大佐だ。

レッド大佐は強烈なオーラをポルゴに向ける。

ポルゴは冷静にオーラを見切ると、左ジャブから右のミドルだ。

左手で右ミドルを受けたレッド大佐。

やるな、これが地球圏最高の実力者と謳われるキックか。

レッド大佐は、彗星拳という技術を使った。

自分の体力の半分以上と引き換えに、倍以上の速度で動く技術だ。

ポルゴの体現できる速度を越えて、攻撃した。

強烈なレッド大佐のキャプチュードスープレックスが決まった。

ポルゴはダウンした。

すかさず西郷がストンピングでレッド大佐に、攻撃を加えた。

絶対に行けるとレッド大佐チームが思った瞬間、西郷は、本気を出した。

立ち上がったレッド大佐に強烈な山嵐を見舞った。

レッド大佐はダウンした。

乱入したパンサーを出足払いで倒すと、西郷はポルゴとタッチした。

どちらが最強のパンサーか、決めよう。

どちらともなく、その発言が出た。

組んだ瞬間、ポルゴがフロントタイガードラゴンスープレックスに行った。

ダウンしたパンサーをストーンピングでフォローする西郷。

勝負は決まった。

西郷、ポルゴチームに死角なし。

ただ、リアル・パンサーは涙するしかなかった。

本物は一人で、いい。

最強も一人で、いい。

もともとリアル・パンサーは最強・本物と言える実力を手にしていたが、相手が悪かった。西郷・ポルゴチームに楽勝できるほど、世の中は甘くなかった。

大王決定戦

龍族チーム対ネコ族チームがはじまろうとしていた。

龍族は、三代目の大王と王子。ネコ族は4代目の大王と、東郷源九郎だ。

三代目の大王のマイクアピールを東郷が遮った。

誰が一番強いのか、決めたらいいんや。

ゴングがなる。

三代目の大王と東郷の殴り合いだ。

オーラ、ギャラクシーウェーブ、関係ない。

ただひたすらに殴り合っていた。

ある程度打ち合いが終わると、東郷はサイドキック。三代目の大王は離れ際に、ミドルキックを放った。

相打ちだ。

若干、東郷のサイドキックが三代目の大王を押していた。

東郷と四代目の大王がタッチすると、三代目の大王も王子とタッチを成功した。

四代目の大王は、躊躇せずグローブを放り捨てると、爪で勝負を決めに行った。

王子が怯んだ瞬間、四代目の大王は王子に噛み付いた。

王子が右ストレートで噛み付いたシャノワールを振り払った瞬間、東郷源九郎がフルパワーのギャラクシーウェーブを放つ。

会場が暗転する。

次の瞬間、リングに立っていたのは、三代目の大王と東郷だ。

シャノワールは今のギャラクシーウェーブを、王子と同体になってわざと直撃していた。

三代目の大王は伝家の宝刀を抜いた。

具現化した気を剣の形に変化して、東郷を攻撃した。

一撃、一撃をストレスで躲す東郷。

やるな、でも、遊びは終わりだ。

東郷は全身のオーラを第八段階まで高めると、右腕を腰の高さまで引いた。

そのまま状態を沈めて、右の強烈なアッパーだ。

三代目の大王の顎を射貫いた。

掟破りの真・龍拳が決まった。

シャノワール・東郷源九郎組が龍族チームに完勝した瞬間だ。

テクニック

総合野郎 B チーム対チームダブルエックスの準決勝第一試合、そしてその直後には、ネコ族チーム対ボルゴチームの準決勝第二試合がはじまろうとしていた。

総合野郎 B チームがリングインする。ジョー・ヨーシとジュン・バードの 2 人組だ。今回セコンドにトシアキ・フジワラが陣取っている。

一方、チームダブルエックスは、G' とグレート・アジアがリングインする。セコンドには、久しぶりにエリカがついていた。

まずはジョーとアジアの 2 人が勝負する。レスラー対決だ。

ゴングが鳴る前、フジワラはこう囁いた。

ヨーシ、打・投・極を回すんだ。そして最後はお前が極めろ。力、有効利用だ。

ゴングがなる。

ジョーはいきなりの掌底でアジアをコーナーまで追い込んだ。

アジアはバックステップでロープの反動を利用すると、ラリアットを出した。

すかさずワキ固めで切り返すヨージ。

カットに入る G、すかさずジュンが牽制して、乱入をさせない。

一瞬、場が乱れたかに見えたが、アジアは冷静にバランスを取って今の技を外した。

ヨージはワンツースからの右ハイでアジアを強襲した。

アジアは鍛えた首で今のハイをキャッチすると、そのまま後方に反り返りキャプチャー
ドスープレックスだ。

しかしダウンした後も、サイドすら許さないヨージ。

上手く動いて間合いを取る。

キックを放つと見せかけて、立ち上がる。

今のハイはちょっと勝負を焦ったな。

今度は、左のローから右の音速のミドルを放つヨージ。

キャッチはさせない。

カウンター気味にアジアがオープンハンドで襲いかかる。

一瞬、アジアの視界からヨージが消えた。

低空タックルだ。

ダウンしたアジアに、ガードポジションから構わず上から殴るヨージ。

ノータッチでカットに入ろうとする G' をジュンが右のハイで牽制する。

冷静にアジアが下から逆十字を狙った。

ヨージはハイアングルのパワーボムで切り返す。

全てが終わったかに思えた瞬間、上になっていたのはアジアだ。

今のパワーボムをフランケンシュタイナーで切り返したアジア。

すかさず回転エビ固めで切り返すヨージ。

プロレスであれば、今の切り返しの回転エビ固めでスリーカウントは入っただろう。

しかし、これはキングオヴギャラクシーだ。今のエビ固めをカットに入ろうとした G' と、牽制したジュンの間で睨み合いになる。

冷静にヨージはジュンとタッチして、アジアも G' とタッチを成功する。

この勝負、見えなくなった。

先にツープラトンを決めた方が、圧倒的に有利だ。

コーナーに戻ったヨージにセコンドのフジワラが話し掛ける。

ヨー、会長、今だったら、アンタもプロレス王者狙えるぜ。

ジュンは全身のオーラを第八段階に高めて、見えない気を完全燃焼していた。

まずはジャブ気味の左シャッセから右のフェッテ（ミドル）を二連発。

G' は怯まず前に出てカウンター気味の右ストレート。

ジュンは冷静に今の右ストレートを見切ると、左のフロントルで間合いを取り、さらに右のフロントルで追い込んだ。

左足に全身のオーラを込めて、左の上段後ろ回し蹴りを放つジュン。

G' は今の攻撃を両手でブロックした。

G' の目つきがより好戦的に変わった。

両手にオーラを込めると、一気に腰まで掌を引いた。

セコンドのフジワラがヨージに指示を送る。

G' が会場ごと吹き飛ばすような強力なギャラクシウェーブを放たんとした瞬間、ジュンは強烈な右のフロントルを G' のアゴにヒットさせた。

すかさずヨージは敵コーナーのアジアに低空ドロップキックで牽制した。

さらにジュンは右のボディで G' の意識を断つと、ヨージが G' のバックを取って、芸術的なジャーマンに捉えた。空中に飛び上がったジュンはそのまま両足を開いて、ギロチンボンバーで G' の首を直撃した。

すかさず連携して、ヨージは G' をチキンウイングスリーパーホールドに捉える。

何とかリングインしようとしたアジアをジュンが全身のオーラを具現化した右ミドルで、雷撃のように蹴り付けた。そのままシビれて動けなくなるアジア。

総合野郎 B チームが金星を奪い、キングオヴギャラクシー決勝まで進んだ瞬間だ。

決着！

ポルゴ&西郷チーム対ネコ族チームの準決勝第二試合がコールされた。

ポルゴと西郷は、名曲津軽三味線冬景色で入場する。

シャノワールと東郷源九郎は、銀河帝国の国歌、ザ・フロンティアで入場だ。

ショービジネスの色彩を帯びたキングオヴギャラクシー。

西郷と東郷の因縁の闘いが幕を切って落とされた。

東郷はジャブからさらにジャブ、ストレート、右のミドルと追い込む。

西郷はバックステップから今のミドルをガードした。

柔道+合気柔術の西郷を攻略するための鉄則、それは打撃に専念して掴ませないことだ。

一瞬でも油断したら、当て身投げや各種投げ技、奥義、一本背負い崩れの山嵐が待っている。

ここで東郷は危険な賭けに出た。

わざと右ストレートをゆっくりと放った。

西郷は東郷の右手首の辺りを掴み、手首の関節を決めると、そのまま右腕で東郷の腕を抱え込み、東郷を担ぐと、右足で、東郷の右足を刈り払った。

山嵐だ。

しかし、東郷は全身のオーラを解放して、自護体で身体を沈め、そのまま豪快に西郷をバックドロップで切り返した。

シャノワールがノータッチでリングインすると、ポルゴもリングに入った。

シャノワールはキャットダッシュからのタックルに行った。そのままダウンしたポルゴを殴りつけると、マウントを狙っているかを見せて、油断させた。ポルゴがエビとブリッジでマウントを跳ね抜けようとした時、シャノワールの尻尾がポルゴの首に絡み付いていた。

危うし、ポルゴ。

西郷がバックドロップの時の脳震盪から復活して、カットに入ろうとした瞬間、東郷は全身のオーラを第八段階まで高めて、ギャラクシーウェーブを放った。

西郷ダウン。なおも、ポルゴはシャノワールに尻尾で首を絞められていた。

キタねーな、ネコ族は。

誰も、尻尾を使うことは反則だなんて、決めてないニャン。

ポルゴは両腕で尻尾を外すと、そのまま尻尾に噛み付いた。

ナメんなよ、人間様を、そして地球人を。

シャノワールは尻尾を引いた。

何とかポルゴが立ち上がった。西郷はなおもダウン。

2対1か、こんな時ミスター東郷だったら、なんて言うだろうな？

もちろん、2人まとめて相手にしろ！ だよな。

ポルゴは全身のオーラを具現化して、そのままシャノワールに右ハイ、返す刀で、源九郎に左のトラスキックをお見舞いした。

逆上したシャノワールがグローブを外した。爪で襲いかかるつもりだ。

源九郎は両腕にオーラを込めていた。

シャノワールがポルゴめがけて右のツメ、源九郎が右の腰に掌を畳み込みオーラを溜めた瞬間、ポルゴは一か八かの賭けに出た。

全身のオーラを使って、空中に飛び上がった。

シャノワールがツメで攻撃し、源九郎がギャラクシーウェーブを放った瞬間、ポルゴは空中で今の攻撃をかわした。そのまま着地際にソバットで源九郎を倒した。

シャノワールは味方のギャラクシーウェーブをもろに食らって気絶していた。

ネコ絶拳も間に合わなかった。

ポルゴチームの逆転勝ちだ。

ユニバーサルスタイル

キングオブギャラクシー決勝が始まろうとしていた。一方のコーナーにはジョー・ヨージとジュン・バード。一方のコーナーにはポルゴ、西郷組が立っていた。

ジョー・ヨージ、そしてポルゴ共に、ファイトスタイルはユニバーサルスタイルだ。プロレスからショーの要素を取り除き、総合用にアレンジしたUスタイル。さらにジュン・バードはメキシコ流カラテ、西郷詩郎は柔道+合気柔術だ。

もうこのレベルの試合では、流派がどうか、技術がどうかというレベルではなかった。競り合いで一步を攻め込むスタミナや度胸、ハートが問われていた。銀河最強タッグを決めるキングオブギャラクシーの決勝に残っている時点で、技術面や体力面では完全に合格点、超一流だ。あとは、僅差を決める勝負勘、経験、総合的な要素が影響する。

ジョー・ヨージとポルゴがリングインする。

ゴングが鳴る。

左フック気味の掌底から、ヨージが掌底の嵐を放つ。

ポルゴはブロックしつつ、タックルに行く。

タックルを潰したヨージはダブルハンマーから、一瞬の隙をついてバックを取る。そのままグラウンドに引きづり込む。ステップオーバートゥホールドからチキンウィングスリーパーを狙うヨージ。

ボクは気を使った攻撃は一切出来ませーん。でもレスリングだったら、誰にも負けませーん。

ポルゴは今のスリーパーを外すと、身体を捻って足関を外した。

何のために闘ってるんだろーな。俺。

疑問がよぎる。

一応、蹴りに行くと思せかけてスタンドに移行する。

テツオとユメミの声が聞こえる。

パパー、頑張っ。賞金！！

ダメダメだな、俺。

ヨージの掌底フックからの右のミドル、左ハイの猛攻が決まる。

ハイをくぐって、間合いを詰める。

そのまま門に決めると、フロントタイガードラゴンスープレックスでヨージを後方に投げ放った。

受け身のとれない危険な技だ。

ヨージは何とか今の技を切り返した。

ボクは負けまシェーン。

冗談キツイぜ、FTDSH を真面に受けて、切り返すなんて。

並のトレーニングじゃないはず、だ。

まだコーナーの西郷、反対コーナーのジュン共に微動だにしない。

両者共にパートナーを信頼していた。

ヨージは一瞬、バックステップをすると、クローズライン気味のラリアットを放った。

ポルゴはラリアットをかわした。

その瞬間、ヨージはポルゴの背面を押さえていた。

チキンウィングスリーパーを決めたヨージ。まさか、このまま。

スタンドの体勢からヨージは後方に反り返った。チキンウィングスリーパーを決めたまま、そのままスープレックスに移行した。

完全にホールドしてポルゴの動きが止まった。

すかさず西郷がリングインする。

グラップリングベースの西郷が総合野郎 B チーム 2 人を同時に相手にするという、あり得ない状況だ。

冷静にヨージはジュンとタッチするが、二対一であることは変わらない。関節技に行けば、迷わずカットされるだろう。

ジュンは鬼神のような打撃で攻めてきた。ほとんどガードを下げ、蹴りだけで、まるで鳳凰がダンスするかのように襲いかかってきた。

掴むチャンスは、なかった。

相打ち覚悟で、西郷は足払いで、ジュンの軸足を攻撃した。

ジュンは燕返しの要領で、今の足払いを躲すと、そのままハイキックを放った。

西郷は今のハイキックの直撃を受けた。

相当なダメージだ。パートナーのポルゴは既にノックアウトしている。

奥の手で勝負するしかなかった。

もう一度だけジュンの間合いに入り込むと、わざとパンチの打ち合いに付き合った。ジュンがジャブを放った瞬間、ジュンの左手の関節をもろに決めたまま、逆一本背負いの体勢で、そのままジュンの足を刈り払った。

山嵐改巻込だ。

強引な技だが、これでジュンの左腕の関節を折ったはずだ。

たまらずヨージがノータッチでリングインしようとする、ジュンはこう言ってヨージを押さえた。

ここはワタシの勝負です。まだ諦めていません。メキシコ流カラテの真髄、お見せします。

全身のオーラを左足先に集中すると、ジュンは左のトラースキックを放って、西郷の鳩尾を射貫いた。

オーラは雷撃のように具現化され、西郷の動きを完全に封じた。

地球圏出身の意外なチーム、総合野郎 B チームがキングオヴギャラクシーで優勝した瞬間であった。

決定！ 第五代大王

キングオヴギャラクシーのトーナメント優勝チーム、総合野郎 B チームの代表ジョー・ヨージと、銀河帝国の人気投票の結果ネコ族チームの代表、ソレイユ・シャノワールとの間で、第五代の大王の座が争われることになった。

ゴングが鳴る。

音速のタックルからパウンドの嵐に移行するヨージ。

シャノワールは下からの不利な体勢でパンチを放つと、そのまま両者打ち合いの展開になった。

ヨージ有利かと思えた瞬間、シャノワールは尻尾を使って下から三角締めに移行した。

迷わず立ち上がるヨージは、そのまま垂直落下式パイルドライバーで、シャノワールを叩き付けた。

ダウンしたシャノワールをサッカーボールキックで蹴り突けるヨージ。

シャノワールの心が折れそうになる。しかし、シャノワールは負ける訳には行かなかった。

不屈の闘志で立ち上がると、グローブを外した。

プリンス・ネコマタ直伝の鳴猫拳を使うときに、来た。

まずは尻尾を軸にした強烈なキャットハイキックを放つ。そのまま爪を使ってヨージの顔面を引っ掻くと、キャットタックルに行った。ダウンしたヨージの喉元に噛み付こうとしたシャノワールだが、この試合が銀河市民に生中継されていることを思い出すと、尻尾を使ったキャットスリーパーで一本取った。

第四代大王ソレイユ・シャノワールが、第五代大王の座を約束された瞬間だ。

議会解散！

五代目の大王に就任したソレイユ・シャノワールは、銀河帝国議会を招集すると、多数決で銀河法典の改正案を可決した。

内容は、民主帝国主義から惑星市民主権主義への移行だ。

銀河法典の改正案が通ると、次の大王に首相であるギャラクティカ・ジュニア氏を指名した。

第六代目の大王が誕生した瞬間だ。

プリンス・ネコマタはシャノワールに問うた。

御主、潔いな。しかし、それで良かったのかな？

権力は時と共に腐敗しますニャ。最初は改革のために生まれた政権も、継続すると独裁者を生み出してしまう。そんな歴史から、私は学びましたニャ。目標は改革であって、権力・権勢ではない。

せめて、私を支持してくれた銀河市民への恩返しですニャ。

まだ御主は若い。時が、御主を必要とする時もあるだろう。今までの働き、実に見事であった。

ありがとうございますニャ。すべては恩師と、鳴猫拳のお陰ですニャ。

これでソレイユ・シャノワールは銀河市民の歴史に、名誉ある名前を刻むことになる。

ギャラクティカ・ジュニア氏も、十分な経験を積んで、今は一人前の大王として通用する風格を身につけている。

もともと旧銀河帝国は銀河法典によって守られてきた面があった。それは同時に、外部への侵略の歴史でもあった。内部は安定したシステムに見えていても、所詮は、民主帝国主義であった。

もちろん法律や統治システムだけで、平和が保たれているわけではない。それに、パンとサーカスだけが、政治ではない。

銀河の大王を中心としたコアシステム型の統治システムから、惑星間主権を取り入れた、分権型の統治システムに移行するべき時が来たのかもしれない。

前回の最大のキングオブギャラクシーにおいて、純粹のジパング人、ジョー・ヨーシ 12 世がパートナーのジュン・バードと共に優勝し、あと一步で、5 代目の大王の座にまで手を伸ばすところだった。

ジョー・ヨーシはただユニバーサル・スタイルの使い手ではなく、惑星間法を専攻してジパング大学法学部を主席で卒業したという経歴の持ち主だ。

彼に首相就任の要請が来た時、彼はこう言った。

私は総合野郎 B チームです。どんなことをやっても所詮は B クラスですが、個人の持つすべての要素を活用して実践すると不思議と A クラスの人間と戦える。しかし、世の中には、何をやっても A クラスの人間もいる。時に、B チームは B チームなりの良さがあり、それを証明できただけで十分です。何もいない。ただ残っているのはパートナーのジュン・バードさんや恩師のフジワラさんとの信頼関係です。でも、信頼関係っ

て、一番大事だと思いませんか？

ワタシは永久に総合野郎 B チームのジョー・ヨージデース。それ以上でも、それ以下でもありませぬ。

こうして銀河最大の祭典は幕を閉じた。

ジョー・ヨージ 12 世のキングオヴギャラクシーの最大の勝因は、信頼関係だった。

確かにポルゴ・西郷組やシャノワール・東郷組など、反則的に強いメンバーの組み合わせもあった。それにライアン・マリア組や、G'・アジア組など圧倒的なキャリアのチームもいた。でも、パートナーの信頼関係を重視するという点では、ヨージ・ジュン組が最強無二であった。

最強のライバル同士をただ組み合わせただけでは、勝てない。強いヤツだけ集まっても勝てない。それがキングオヴギャラクシーの最高に面白い点だ。

たとえどんなに相手が強くとも、打・投・極を上手く回して、最後はツープラトンのコンビネーションで決める。

惑星を吹き飛ばすような強力な光線技があっても、誤爆したら、意味がない。

それは気の技術を第八段階まで使えて、さらに具現化して雷撃のように使えば有利だが、基本は打・投・極のみ。ユニバーサル・スタイルを極め、その一歩先を越えない限り、次の山は見えて来ない。

そんなことがわかった今回のギャラクシーであった。

許せない男

許せない男

その女はポルゴだけは許せないと思った。

女の名前は東條香織。

在りし日のポルゴの親友、ワカマツの恋人だ。

それはあの戦争で、ワカマツがポルゴをかばって殺されたのは、よくわかっている。

場合によっては、友人をかばって死ぬのはポルゴの方だったかもしれない。

神様が籤を引いたのだ。

でも、それでも。

この世の不条理が許せなかった。

こちらは独身を貫き、一方でポルゴはワカマツの妹と結婚して、子供までいた。

ワカマツの妹とは会ったことはなかった。

思い出は心の中にしまっておけば、いい。

そう思いつつも、あの時、ポルゴがヘマをしなければ、ワカマツは死ななかつたはずだ。

火星人も憎かったが、旧火星帝国が崩壊した後、怒りの矛先は、ポルゴにだけ向いていた。

かつてあらゆる立場の人間がポルゴの社会的死を狙って勝負を挑んだ。

全てを跳ね退けた、アルセーヌ・ポルゴ。

しかし、一回だけでもいいから、ポルゴに恥をかかせたい。

そう思った東條香織だ。

今のポルゴに勝てる人間は、そうはいまい。

西郷詩郎、ジョー・ヨーシ、プリンス・ネコマタ、くらいなものだろう。

プリンス・ネコマタが引退はしたものの、超一流の暗殺者だったことを思い出した東條香織は、ネコマタにコンタクトした。

貴方がかの有名なプリンス・ネコマタさんですね？

ワシがジパングの若い女に弱いことは、有名である。それにワシはネコマタ、伊達に尻尾が4本に別れるまで生きておらんで。貴女の事情は察した。しかし、復讐か。事情はわかるが、その後は結局空虚だ。何も残らんよ。

でも、今のポルゴの幸せが、なんて言うか、許せないの。わかる？ この気持ち。

わかる。では、貴女の依頼を受けよう。ワンマッチでポルゴと勝負し、ヤツの面子を潰せばいいのじゃな？

レフリーはそうだな、西郷詩郎に頼んでみるか。

こうして後樂園アリーナでアルセーヌ・ポルゴとプリンス・ネコマタのワンマッチが開かれることになった。

プリンス・ネコマタはヘビー級の動けるネコ族だ。試合経験、実戦経験も伊達じゃない。

ポルゴはリングに入場すると、ネコマタのセコンドに東條香織を発見して、全ての事情を悟った。

セコンドにはライアン。リングサイドには妻と息子が観戦していた。

負けられねーな。この勝負。

御主も、罪な男だな。人間は皆、原罪を背負って生きておる。その十字架が御主に今日の試練を与えたのだ。覚悟はいいか？ アルセーヌ・ポルゴ。

ゴングが鳴る。

ポルゴは全身の気をマックスまで解放した。

一方、ネコマタは不穏なオーラを浮かべている。

ワシも久しぶりに禁断の暗殺拳、猫鳴拳（ニャンケン）を使ってみるか？

ネコマタはオープンフィンガーをいきなり脱ぎ捨てると、ツメをあらわにしてポルゴに襲いかかった。

間一髪、スレスレでかわすポルゴ。

アンタに恨みはないが、仕方ないな。

ポルゴはツメの嵐をかいくぐって、懐に入ると、強烈なボディを放った。

ぬくいのう。

ネコマタはベアハングならぬ、キャットハングに捉え、ポルゴを締め付けた。

ポルゴは身体を締め付けられながら、ボディに発頸パンチを丹念に入れて行った。

コーナーまで追いつめたと思った瞬間、ネコマタはキャットハングの体制で、身体を捻り強烈なスープレックスを放った。

ドラゴンキラー・スープレックスだ。

会場は一気に静まり返った。

試合、ではなく、シュート（殺し合い）の様相に、会場は興味本位から真剣勝負の観戦といった趣に変化していた。

コーナーの東條香織が、プリンス、あと一息！ と応援する。

ポルゴは不屈の闘志で立ち上がる。

相手が爪を使った攻撃をしてくる以上、間合いを取ってキック主体で攻めるか、接近して、バックをどうにかキープしてタイガードラゴンスープレックスを決めて、ホールドするしかないと思った。

ノーグローブのネコマタの拳めがけて、右のコークスクリュウハイキックを放つ。すかさず左ハイの後で、右のコークスクリュウフロンタルを放ち、ネコマタの鳩尾を貫いた。いったん、音速のタックルに行き、ネコマタからテイクダウンを奪う。

ネコマタはすかさず、下からの尻尾を使った老獪な三角を狙った。ネコマタが下から三角を狙った瞬間、ポルゴは何とか、自分の首と引き換えに、ネコマタのバックを取ることに成功した。

そのまま、ネコマタを立ち上がらせると、右腕をチキンウィング、左腕をハーフネルソンに捉えた。なおも、ネコマタは4本の尻尾でポルゴの首を絞めようとしていた。

全身のオーラを解放してクラッチに集中すると、ポルゴは必殺のタイガードラゴンスープレックスホールドに捉えた。

ワン、ツー、スリー、カウントが鳴る。ネコマタは今のスープレックスを食らいつつ、全身の力を尻尾に込めて、ポルゴの首を絞めた。

勝負は決まった。タイガードラゴンスープレックスホールドでポルゴのフォール勝ちだ。

ポルゴが勝ち名乗りを受けようと立ち上がった瞬間、膝から崩れ落ちた。

ネコマタのスリーパーの影響で気絶したのだ。

敗者のネコマタは、立ち上がると、セコンドの東條香織にウィンクをした。

その女は、もうポルゴ達の前に現れることはなかった。

新たなる野望

復活！

あの初代グレート・アジアが現世で復活した。

まことしやかに流れ出した噂は、遂にキングオヴギャラクシーの常連達にまで届いていた。

地球7本のベルトを世界で初めて統一した王者。

かつて、異界の死神という最強の殺し屋に、最愛の娘を人質に取られた。

剣で斬られそうになった娘を庇い、死に至った。

そう伝えられていた。

しかし、史実にはこう付け加えられた。

実は致命傷を追った初代グレート・アジアは、当時の医学では助からなかった。

そのため、冷凍保存されスリープしていた。

現代の科学力は遂に、初代グレート・アジアを復活させるに至った。

もちろん、細胞再生技術の進歩が背景にある。

現代に蘇ったグレート・アジアはこう言った。

まだキングオヴギャラクシーなんてお遊びが開かれているのね。

本当のプロ格闘技、最強の格闘技はプロレスだけよ。

タッグ総合格闘技、潰してみせる。

あの、G'（ジー・ダッシュ）の野郎までまだノサバっているのね。

理由はわからないけど。ブチのめす。

現代が彼女の本来の時代から数百年経過していることを聞いた初代グレート・アジアは、彼女の子孫が13代目まで繁栄していることを聞くと、安心した。

しかし、次に、彼女の直系の子孫であるグレート・アジア13世が、宿敵G'（ジー・ダッシュ）と組んでいることを知ると、激怒した。

使えるタッグパートナーを見つけて、この時代でも、今こそG'（ジー・ダッシュ）に雪辱してみせる。

プロレスのみが、最高のプロ格闘技よ。

彼女の時代の主要な登場人物の子孫を探すと、一人だけ使いそうな相方が見つかった。

ふーん、まだ銀河の大王の子孫や、ジュン・ハーンやキラー・Lの子孫、それにジョー・ヨージの子孫が活躍しているのね。

でも、私の一番弟子、ジャック・ハロルドの子孫、マリア・ハロルドちゃんが使いそうね。

一方、マリア・ハロルドは、遂に念願の片思いの相手、ライアン・ヤマモト先輩とデートに成功していた。

一緒に映画を見た後、喫茶店にライアンを誘うと、マリアはライアンに告白した。

ヤマモト先輩、ずっと私、先輩のことが...

ゴメン。マリア。俺は年上にしか興味がなくて。マリアは、俺には昔から知っていて、まるで妹みたいに思っている。妹に恋をするのは、俺にはヘンタイにしか思えないんだ。

そんな、ワタシだって、大人の魅力が...

だから、そうだな。例を上げると、マダム・アワヤか、もうちょっと年上くらいじゃないと、俺は興味がないんだ。

わ、わかりました。

恥をかいて喫茶店を一人後にしたマリア・ハロルド。

彼女ほどの達人であっても、マダム・アワヤに嫉妬せざるを得なかった。

先輩の好みのタイプがあんな年増なんて、それに子供だっているのよ。

許せない。

寂しく、一人帰路についたマリアの前に、いかにもなペイントをした女が山のように立ちだかった。

あなたが、マリア・ハロルドさんね。

思わず構えたマリア・ハロルド。

あなたは、もしかして、あのグレート・アジア13世の知り合いのひと？

そうね。まあ、知り合いといってもいいかしら。

私は初代のグレート・アジアよ。

あなたの先祖、ジャック・ハロルドに格闘技を教えた師匠よ。

どうして、今の時代に。

よくは、わからないわ。私もあの時、一度は死んだと思ったけど。

死ぬ前に、冷凍保存されてスリープしていたの。そして、現代の再生医療の力で、完全復活した。

私の宿敵 G'（ジー・ダッシュ）がまだこの時代にノサバっていることが、許せない。

マリア・ハロルド。私と共闘して、キングオヴギャラクシーと一緒に戦わない？

私はプロレスラー、そして強過ぎて私の時代からレスラーの友達は一人もいなかった。

夫と組んでもギャラクシーでは勝てなかった。最後に出した結論。それはジャック・ハロルドという逸材を育ててタッグを組んで、ギャラクシーで雪辱。

でも、当時の世界7冠を統一した私でも、ギャラクシーで優勝はできなかった。

でも、今は違う。もう、目覚めたから。本当の刻を越えた強さを、マリア・ハロルド。あなたにも伝授して上げる。

マリア・ハロルドは、こう思った。

一突然ね。私、今ムシャクシャしているから、とりあえず、この初代グレート・アジアの強さを試そう。ストレス解消の相手になってもらおう。

わかったわ、初代グレート・アジアさん。

あなたの強さ、私が試してあげる。

そう言うとマリアは一気に第八段階まで気を高め、右手を弧を描くと、一気に気弾を放った。

強烈な激風拳が決まったはずだ。

初代グレート・アジアは右手で今の気弾を握りつぶした。

今の気感じは、ムシャクシャしているのね。マリアちゃん、失恋でもしたのかしら？

オバさんについてくれば、男の口説き方くらい教えてあげるわよ。

それが交換条件。

ダテに、オバさんは子供2人産んで、育てているだけあって、男の口説き方くらいであれば、経験者は語るわよ。好きな男の一人や二人くらい、オバさんが攻略法伝授してアゲル。

凶星だった。そして、激風拳を片手で握りつぶしたというこのプロレスラーの女王にマリアはついていくこと決めた。

あの初代グレート・アジアがマリア・ハロルドと共闘を決めた瞬間だ。

歴史の針は大きく動き出した。

素振り

ウェヌスジムを支配下においた初代グレート・アジアは、さっそくマリア・ハロルドと強化練習をはじめた。

いつもスクワットと木製バッドの素振りの練習が、最低一二時間は続いた。

オバさん、じゃなかった、グレート・アジア。野球じゃないんだから、素振りの練習は嫌だわ。

マリアちゃん、プロレスは、格闘技は基礎体力よ。それにバッドは有刺鉄線巻いて、ファイヤーつけて振り回せば、並のレスラーだったら、イチコロよ。デスマッチのルールの時しか、使えないけど。

初代グレート・アジアのレスリング技術は超一流だった。

あのユニバーサルレスリングの代表選手、初代パンサーを倒した実力はある。

マリアちゃん、キック、サブミッションの次は？

スープレックス、かな？

はい、ではブリッジの練習。

いつまでも基本の反復練習のみで、ツープラトンや危険な投げ技の練習をまだ初代アジアは導入しなかった。

アジアおばさん、いつも基本しかやらないけど、いいの？

人間、9割は基本と基礎体力よ。

ダテに7冠統一したわけじゃ、ないわよ。

あと、おばさんは、やめてね。

チャンピオンと呼んでくれても、いいわ。

わかったわ。アジアさん。

ところで、アジアさん、例の話だけど...

ああ、ライアン先輩の攻略法ね。まあ、ないこともないわ。

でも、マリアちゃん、覚悟ある？ この方法は、必ず相手を落とせるけど...

でも、落とすってことは、確実に結婚までいっちゃうけど、いいの？

まだ恋愛とか楽しみたい年頃じゃない？

初代グレート・アジアの男性攻略法は単純だった。テキトーに飲み会で気に入った男子を泥酔させてお持ち帰り。後は、同棲生活から、デキ婚に持っていくという作戦だ。こ

のスマートな作戦で、夫のタビトをあっさり落とした。

そんなことを知らないマリアは、経験を踏んでいるグレート・アジアについて行けば間違いないと確信して、今日もバットの素振りをしていた。

ユニバーサルルール

現世に完全復活した初代グレート・アジアは初戦の相手に、トシアキ・フジワラを選んだ。地獄の坊主頭と呼ばれる、ユニバーサルルール最強の使い手だ。弟子は、前回のギャラクシーの覇者、ジョー・ヨージ12世がいる。

最初、ジョー・ヨージ12世との戦いをセッティングされた初代アジアは、こう答えた。

確かに誰の挑戦でも受けるわ。でも、あのヨージの子孫でしょ。私の時代のヨージは、クレイジー柔道に敗れたA級戦犯よ。それよりは、彼の師匠。そう、あの伝説のムエタイチャンプと関節技の鬼の血を引いているトシアキ・フジワラの方がいいわ。

アジアさん、相変わらず練習のときはスクワットと素振りが中心だけど、本当にこんな練習だけで、あのテクニックを持ったフジワラさんに勝てるの？

マリアちゃん。別におばさんは、ただ野球が好きでバットを振っている訳じゃないわ。基礎体力を十分に鍛え、体幹を引き締めるために、練習をしているの。そろそろ、試合前のメニューに移るわよ。じゃあ、とりあえず関節技のスパーク5ラウンドから行きましょう。

初代グレート・アジアはマリア・ハロルドとの関節技のスパークで、一本も取られなかった。しかも、毎回極め技を確実に変えてきた。相手の30手先の動きまで読んでいるようだ。

経験がものを言うのよ。マリアちゃん、ダテにお婆さんは年をとってないわ。

ユニバーサル・ルールでの初代グレート・アジア対トシアキ・フジワラの試合が、はじまった。

フジワラはキックトランクスのみ、レガースは着用しない。

初代アジアはオープンフィンガーにレガース、それに腕にサポーターを巻いていた。

ゴングがなった。両者は向かい合う。

フジワラがムエタイベースの高い構えから、音速のジャブを放つ。

初代アジアは、バックステップでロープに身体を振ると、反動を利用して、強力なラリアットを放つ。

一発目がフジワラを捉える。さらに背後からカウンター気味の二発目のラリアットがフジワラを襲う。

二発目のラリアットをフジワラデスロック（ワキ固め）に捉えたフジワラ。

今の攻防で観客のボルテージが最大限に上昇していた。

初代アジアはワキ固めを体を回転させて切り返した。その後、エビを使って距離を取り、スタンド勝負に出る。

フジワラがしなるローキックを放つ。

初代アジアはお構いなしに、仁王立ちのまま、強烈な張り手でフジワラの顔面を打ち叩いた。

一瞬、怯んだかに見えたフジワラは、反動を利用して、初代アジアのペイント顔に、強

烈な頭突きを放った。

このような勝負がしたかった。数百年待った甲斐はある。初代アジアは実感していた。

怯むことなく掴みにいくアジア。まずは強烈な腕力を利用した、パイルドライバーで、フジワラをマットに突き刺す。

フォールには行かない。いや、ユニバーサルルールはフォールはない。決着はKO かギブアップのみだ。

明らかに初代アジアはクラシックスタイルのレスリングの可能性を確信していた。別に今のパイルドライバーを、サンダーファイヤーパワーボムを代わりに使っても良かった。しかし、派手な大技に頼らず、きっちりと一つ一つの技を決めていく。

意外にプロレスの基本に忠実なレスラーが、そこにいた。

いったんニュートラルコーナーに身を引いて、立ち上がるフジワラを待つアジア。

フジワラは今度は強烈なエルボーでアジアを攻め立てる。

アジアはエルボーをがっちり受け止めるとショルダースルーでフジワラを投げ、そこから、一瞬の間を捉えてチキンウィングフェースロックに捉えた。

会場がさらに沸き上がる。この戦いの技術レベルの高さが、観客にも完全に伝わっていた。

フジワラは、ついに脚を伸ばしてロープにタッチした。あのフジワラがロープエスケープに頼った瞬間だ。

両者スタンドで再び勝負を開始する。

ジャブから左ミドル、さらにフジワラの右ハイがアジアの首をかすめた。

アジアは今の右ハイをがっちりキャッチして受け止めると、そのままキャプチュード
スープレックスで後方にフジワラを投げ放った。

アジアは今のキャプチュードの後、サイドからチキンウィングアームロック（腕がらみ）
を決めた。フジワラは冷静にポイントをずらしつつ、ブリッジを織り交せて、今の技を
躲した。

またスタンド勝負だ。

フジワラは強烈な頭突きから、エルボーの連打に移行した。三発目で、回転してからの
エルボーを放った瞬間、初代グレート・アジアはフジワラをキャッチして、そのまま背
後に強烈なブリッジで投げ放った。

バックドロップホールドが決まる。

そのままグラウンドに移行したアジアは今のバックドロップの影響で脳震盪を起こしか
けているフジワラの喉元に膝をあてがうと、ストラングルホールドに移行した。完全に
決まった。

フジワラはプライドからギブアップをしなかった。

相手が気絶したのを確認したアジアは、フジワラの身体を抱え上げると、そのまま情け
容赦のないブレンバスターで垂直落下式に落とした。

会場にいた誰もが、アジアの殺気を感じた。

ダウン、ワン、ツー、スリー、フォー、ファイブ、、、テン。

勝者、初代グレート・アジア。

マイクを取ったグレート・アジアはこう言った。

今の勝ち名乗りだけど、「初代」はいらないわ。この世界に最強のグレート・アジアはた
だ一人で十分。私の子孫が頑張っているみたいだけど、今度のキングオヴギャラクシー

でどちらが本物のグレート・アジアか決めればいいわ。プロレスはいつだって最強のプロ格闘技よ。次のキングオブギャラクシーで、その事実を証明します。

会場のボルテージが最高潮に達した瞬間だ。

信じられない

やっぱり、アジアおぼさんが最強なんて信じられない

それは、あのフジワラさんには勝ったけど

やっぱりスタイルは古いし

おぼさんのスタイルって、やっぱり

できあいの相手に、できあいの技で決めて、みたいなスタイルじゃないの？

やばかったら、有刺鉄線バット

凶星でしょ？

それは、歴代アジアは最強のプロレスラーだったけど

それは、その時代に合わせて進化しただけ

初代アジアが最強なんてわけがないでしょ

バット振って、毎日

野球じゃないんだから

それに、どうせ、ライアン先輩を落とす方法だって

どうせ、色仕掛けで、出来婚狙いでしょ

もうついていけません、こんなオバさん

いや化石

初代アジアに、みらい、は有りません

まだ13代目のアジアの方が未来がある、そう思うわ

マリア=ハロルド

BELIEVE ME!

DEAR MARIA

マリアちゃん、別にオバさんは野球が好きでバットを振ってる訳じゃないわ

それに、プロレスが最強の格闘技、っていう信念も捨ててない

それはクレイジー柔道やサバットとか、いろいろアマチュア格闘技はあるけれど

最強のプロ格闘技はプロレスよ

信じて、私について来て

きっと、

ライアン先輩の攻略法も、教えてあげるから

人は時に何のために生きるか疑問になることがあるわ

でも、私の答えは、一つ

プロレスが最強の格闘技であることを証明する

それは、いろいろな格闘技が銀河には存在するわ

でもね、信じて

プロレスが、プロフェッショナル=レスリングが

最強のプロスポーツであることを

私は決して動じない

信念は捨てない

それは、男は時に、色仕掛けにだまされることはあるけど

プロレスはだまされない、動じない

それにクレイジー柔道にも負けない！！

信じて！

私を！ そしてあなた自身を！

最強のタッグチームが初代グレート=アジア&マリア=ハロルド組であると

私たちは、きっと証明してみせる

キングオヴギャラクシーに必ず優勝して、プロレスが最強のプロスポーツであることも

誰の挑戦でも受けるわ

オバさんを信じて

マリアちゃんも恋愛成就の夢だけは、叶えてあげるから...

オバさんはダテに子供2人育ててないから...ね

FINAL BOUT THE GREAT ASIA MUSTGO

初代グレート＝アジア、マリア＝ハロルド組と G'（ジー＝ダッシュ）、13代目グレート＝アジア組のキングオブギャラクシー特別試合が組まれたのは、月の赤いある日の午後だった。

ペイント姿のオバさん初代グレート＝アジアと若き美人格闘家マリア＝ハロルドのチームが赤コーナーに構えていた。

一方、青コーナーには G'、13代目のグレート＝アジアがチームダブルエックストしてリングインする。

マリアちゃん、今回の勝負、オバさんに全部任して、奴ら、一人で仕留めるわ。

ゴングが鳴る。

一気にダブルラリアットで両者に襲いかかる初代アジア。

G' がラリアットを受け流すと、リングインする。

左ジャブから右のコークスクリュミドルに繋ぐ G'。

初代アジアはドラゴンスクリューで切り返す。

G' は冷静に足関節勝負を見切ると、コーナーの13代目のアジアとタッチする。

アジア対アジア。

初代は冷静に間合いを詰める。

13代目は、冷静に掌底をかます。

初代アジアは一気にタックルに行くトリフトする。

そのまま、グラウンドの展開に持ち込む。

ねちっこい展開で、ガードの上からコツコツとパンチを打ち込む初代。

見かねて、G'が介入する。すかさずマリアがフォローする。

権利を持った両者がスタンド勝負に移行する。

初代は、ローアングルのブレンバスターで13代目を投げつけた。

13代目はプロレスラーだった。

相手の技を全て受けきった上で、勝負を付ける。

そういうファイトスタイルだ。

初代は違った。

必要に応じて、パンクラ（チオン）というスタイルだ。

相手の実力に応じて決めれる時は決める。

それが、総合戦における初代アジアの戦略だ。

ブレンバスターを受けた13代目アジアの動きが止まった。

初代アジアの必殺技、グラウンドコブラとドラゴンスリーパーの合わせ技、

グラウンド冬木スペシャルが決まったからだ。

G'の介入を待つまでもなく、13代目は気絶していた。

2対1だ。

マリアちゃん。G'を痛めつけて。オバさん、期待してるわよ。

タッチを成功させる初代。

マリア対 G' だ。

限界まで気を高めた勝負だ。

両者ともに髪の毛を逆立ち、一気に勝負をつける。

G' が両手の掌から気功波を放つ。

マリアは瞬間移動で気功波を避けると、G' に強烈な右のフックで振りかぶる。

G' は今のフックを受けるとそのままキャプチュードで切り返した。

ホールドに行った G' を初代アジアがノータッチで踏みつける。

そのままストンピングの嵐だ。

G' がされど、立ち上がった。

強烈なラリアットで初代が G' を貫通した。

マリアもすかさずアックスボンバーを狙う。

いいのよ、マリアちゃん。

いまのラリアットで勝負は、着いたから。

最強は、最強のグレート＝アジアは一人で、いい。

そして、キングオヴギャラクシー＝最強のプロレスラー。

全て、証明したわ。

あとは、約束ね。

マリアちゃん。

リングサイドを見て。

そこには、ライアン＝ヤマモトが応援していた。

ライアンは真顔でこう言った。

初代グレート＝アジア、あなたに惚れました。

ばかいてるんじゃないよ、青年。あなたを愛する乙女は、ここにいるわ。

マリアちゃん、今こそ、ライアン先輩にアタックよ。

ライアン先輩、私。

ライアンは何か言おうとした。無言で初代アジアは殴り掛かった。

わかったよ。あー。俺はやっぱり。マリアじゃないとダメだな。

よろしく。

こうしてマリア＝ハロルドとライアンは、ささやかな交際を始めた。

初代グレート＝アジアはキングオヴギャラクシーで宿敵 G' に復讐を果たした。

全てがおわる。そして、はじまりはこれからだ。

13 代目のアジアはこう言ったという。あの化石め、グレート＝アジアは現在進行形よ。

過去の遺物は必ず仕留めてみせる。

初代はこう言った。ダテにオバさんは、野球のバット振っている訳じゃないわ。

誰の挑戦でも受ける！ それが、たとえデスマッチでも。

こうして、初代グレート＝アジアと 13 代目のグレート＝アジアの抗争ははじまったのだ。

未来からの使者

至高の使い手

それぞれが平和な生活を満喫していた。

地球圏の経済成長率も4%を越え、まあまあであった。

そんな時、突如、西郷詩郎の前に、若き使い手が現れた。

あなたが、西郷先生ですね。私、クリス＝ヤマモトと申します。

あなたと一度、お手合わせ願いたい。

承知。

構えた西郷の目の前で、地べたを這うような超低空タックルから、得意の立ち技を封じて、寝技に引き込むクリス。

ぬう。

西郷は、クリスの腰のあたりを掴んで、グッドポジションをキープしようとした。

すかさず狙い通りの膝関節を取りに行く、クリス。

一瞬の隙を衝いて、クリスは膝十字を決めた。

サンボベースの戦い方だ。そして、高専柔道も入っている。

西郷の右膝が伸びきった。しかし、軽く西郷の膝を叩くと、クリスはクリーンブレイクをした。

(別に殺し合いに来た訳じゃない。相手のレベルがわかれば、いいんだ。)

また西郷と立ち技の間合いに入る。

またタックルか、そう思った瞬間。

クリスはオーソドックスのまま、西郷と組んだ。

まるで柔道の乱取りのようだ。クリスが右の脚払いを放った瞬間、西郷は身体を反転させ、一本背負いの体勢に入った。そのまま、担ぐ。さらに右脚でクリスの右足首を刈り払う。

山嵐だ。

冷静にクリスは腰を下ろして、バックドロップで今の壮絶な山嵐を切り返した。

脳震盪を起こした西郷が立ち上がった瞬間、両の掌に気を集中させ、強烈な気弾を放とうとするクリス。

はーっ！

西郷はガードしつつ、思った。もはや、完敗か。

西郷とクリスの周りが、今の気功波の影響で空気が歪んでいた。

爆発が起こる。そう思った瞬間、指を鳴らして、オーラをかき消すクリス。

西郷詩郎先生、私が伝え聞いていた通りの至高の使い手ですね。

安心しました。

クリス＝ヤマモトと申したな。

あなたは、あのライアン＝ヤマモトの親族か？

はい、息子です。タイムマシンを使って、18年先の未来からやって来ました。

未来の世界では、火星人の生み出した強化人間のおかげで、地球圏の人口は半減。

父のライアン＝ヤマモトは、ポルゴさんと火星に殴り込みに行きましたが、気の技術が十分に使えないせいで、志なかばで倒れました。

私の時代の西郷師範は、心臓発作で亡くなっています。

私の母の MARIA＝ヤマモト（旧姓ハロルド）は、一族に伝わるタイムマシンを私に託してくれました。

「お願い、このマシンで全盛時代の西郷さんとポルゴさんに会って、奴らの攻略法を探ってきて。」

確かにクリス＝ヤマモトはライアンの格闘技術（グラウンド＋サバット）に加え、MARIA＝ハロルドの技術（古武術＋操気術）をマスターした至高の使い手に思えた。

クリス＝ヤマモト、あなたの技術でも火星人の生み出した強化人間に勝てないのか？

そうです。例えるなら、あの G' がチームでリミッターを外して、有刺鉄線バットを持ったグレート＝アジアと暴れ回っている。そんな状態です。まだ G'、一匹ならタイマンで倒せる。しかし、あれが集団でチームを組んでいる。さらに、人類最強のプロレスラー、グレート＝アジアが有刺鉄線バットを持って、ダンスしている。そんな救いようのない状態が、強化人間の技術、応用クローニングによって完成したんです。未来では、ザコレベルの強化人間ですら、ギャラクシーウェーブが使えるのです。唯一の救いは、強化人間達に、地球を崩壊させないように、最低限のリミッターが掛けられていることです。

ポルゴの息子がいただろう。彼はどうしているのだ。未来世界では？

テツオさんですね。テツオさんは、10人の強化人間達から一斉にギャラクシーウェーブを放たれ、絶体絶命の危機に陥っていた私を、助けてくれた恩人です。

でも、あのテツオさんでも、仲間を守るのが精一杯で、防戦一方です。

ある日、父が倒れた時に、母はこう言ったのです。

昔、西郷詩郎という使い手がいて、その人がもし心臓発作で死ななかつたら、この状況を打破する方法を生み出したかもしれない。西郷師範は、あのポルゴさんよりも実力が上な時期があった。

お願いします。西郷師範、どうか私を鍛えて、あの強化人間の群れを仕留める実力を身につけさせてください。

うーむ。

今の時代には、ポルゴもライアンも健在だ。まずは彼らに師事すべきではないか？

父は、気の技術が使えません。ポルゴさんは、確かに強い。しかし、強化人間達とは互角の実力です。彼の実力では、奴らを倒すことは出来ません。

本当の柔の道を知っているのは、西郷先生だけだと思います。

こうして、西郷詩郎は未来から来た青年、クリス＝ヤマモトと修行の生活に入った。

シャノワールの恋

前銀河の大王、ソレイユ＝シャノワールは、特命を帯びて、地球圏に降下した。

地球サイズに最適化して降下していた。

つまり彼は、一般の地球人から見ると完全に黒猫であった。

今回の部下からの報告は、地球圏にポルゴでもライアンでも西郷でもない、新しい使い手が現れた。

その男の謎を明らかにすることが彼の帯びた特命であった。

ネコ様の姿を借りて、地球圏を旅することは以前もあった。

その時に、彼はサバットの技術を見よう見まねで習得していた。

うーん、困ったな。まずは、そうだな。マリア＝ハロルドの家でも訪ねて、情報を得るか。

あらかじめ、銀河帝国から地球圏に先行潜入していた部下に車でマリア＝ハロルドの家まで送らせた。

ハロルド家はそれなりの名門である。庭には、美しい白猫がいた。もちろんシャノワールの目には、その白猫が異性であることは明白であった。

は、はじめまして。ボク、ソレイユ＝シャノワールって言います。

ふーん、ワタシはハロルド家に住んでいるカテリーナっていうの。

カ、カテリーナさんですか。お会いできて光栄です。

シャノワール？ この辺では見かけない顔ね。

信じてもらえるかわからないけど、ボク、銀河帝国という異国からやってきました。できれば、この家のマリア＝ハロルドさんにご紹介していただきたいのですが？

マリアちゃんは、今、彼氏とデート中よ。あと30分くらいしたら、戻ってくると思うわ。

それまで、ワタシのシマでちょっとお散歩でも、どう？

願ってもないことです。

ソレイユ＝シャノワールは通常、一人称では、我が輩を使う。彼がボクという言葉を使うのは、気に入った相手の前でのみである。

シャノワールとカテリーナが散歩に行っている間、さらに、ハロルド家に訪問者が現れた。

ピンポーン。

す、すいませーん。マリアさんいますか？ ボク、クリス＝ヤマモトと言います。

マリアの母が現れた。

ヤマモトさん？ あのライアン君の親戚の人？

まあ、一応親戚です。はい。

厳密には家族であり、目の前の女性は、幼い時の記憶を辿れば、間違いなく、亡くなった祖母の生きている時の姿であった。しかし、自分が未来から来たという事実は、この女性はまだ理解できないだろうと思った。たとえ、若き日の母であっても、理解には苦しむだろう。

いま、マリアはライアン君とデートに行っているよ。いつも喫茶店、ブラックキャットに行ってみたら、どうだい？

はい、わかりました。

ブラックキャットか。あそこは、ジャズの名曲をかけることで有名な店だ。クリスはブラックキャットを訪ねた。

店内には仲睦まじく語り合っているカップルがいた。一瞬だけ、わざとオーラを第八段階まで高めて、マリアにサインを送った。マリアの眉が反応した。

テーブルに行くと、こう切り出した。

ライアンさんとマリアさんですね。僕、クリス＝ヤマモトと申します。はじめまして、と言うべきなのでしょうね。

好青年のライアンも、デート中にいきなり面識のない青年から話し掛けられて、若干不機嫌な表情をした。

マリア=ハロルドは、気付いた。

勘のいい彼女だ。オーラの感覚や、ヤマモトというファミリーネーム。そして、自分に将来男の子が生まれたたら、クリストファーかクリスと名付けようと思っていたことを思い出していた。

クリス君、よかったら、掛けて。

最初に話しかけたのは、やはりマリアであった。若き日の母が、色白でウェーブがかった銀髪で、想像通りの人だった。若き日の父も、写真で見た通りの男だった。

君は俺たちのことを知っているな。それに、あったこともないが、何か懐かしい感じがする。

そう言って頂けて、嬉しいです。信じてもらえるか、どうか、わからないですけど...

話してみて、クリス君。

私は、18年後の未来から来た、あなた達の息子です。

一瞬、ライアンとクリスの顔を眺めて、赤面するマリア=ハロルド。

それは、ライアンと結婚して、子供が欲しいとは思っていたが、まさかやっとな恋人同士になって、せっかくのデート中に息子が未来から訪ねてくるなんて。

そういえば、マリアの家にはタイムマシンがある、とか言っていたよね。

うん、たぶんあのポンコツを改修したのね。

ふーん、何で、わざわざ未来から過去に戻って来たの？ まだ、自分が生まれる前の世

界に？

未来は地獄でした。火星人の生み出した強化人間が暴れて、地球の人口は半減。

(まさか、俺がいるから、未来も大丈夫とまでは言い出せないライアンであった。)

一応、将来の俺たちは、どうなってるんだ？

父さんは、火星に殴り込みに行って、返り討ちにあいました。何とかポルゴさんが、頑張ったおかげで、一命を取り留めました。母さんは、タイムマシンを改修して、私を、未来世界にはいない至高の使い手がいた時代まで、タイムスリップさせてくれました。

どうにか、その使い手のもとで修行して、強化人間を倒す手段を見つけてほしいと。

その使い手って、まさか、あの西郷詩郎さんのこと？

そうです。私は、今、西郷師範のもとで修行中の身です。東北地方から、やはり若き日の両親、つまりあなた方に会ってみたいくなって、やって来たのです。

そっか。話が長くなりそうね。母さんと交渉してくるわ。クリスがトキオにいる時は、私の家に泊まれるように。

こうして三人は、マリアの家に向かって歩き出した。

一方、カテリーナと散歩デート中のシャノワールは、一瞬、喫茶店ブラックキャットの方向から、強烈なオーラが発生したのを感じ取った。

どうしたの？ シャノワール？

いま、一瞬、非常に強い気配を感じましたニャ。

そんなこともわかるんだ。凄いね。

しばらくして、ライアン達がマリアの家に向かって歩いて来た。

カテリーナさん、マリアさんにサインを送ってほしいニャ。

白猫のカテリーナがマリア=ハロルドの足下にすり寄っていった。

一瞬、カテリーナをなでるために、マリアはしゃがんだ。

しゃがんだマリアとシャノワールの目が合った。

すかさず、シャノワールは直立して、こう話しかけた。

ライアン、マリア、お久しぶりニャ。我が輩はソレイユ=シャノワールである。

マリアはこの黒猫が、元銀河帝国議長を務めたネコ族の男であること理解したが、サイズが黒猫と変わらないため、わざとこう話しかけた。

めずらしい、しゃべる黒猫。カテリーナの彼氏にしちゃおうかしら？

一瞬、照れてしっぽも直立したシャノワール。

ライアン、その青年は誰であるか？

ああ、元大王。彼はクリス=ヤマモト。未来から来た、俺たちの息子。

一瞬、照れるマリア=ハロルド。

一体、どういうことニャ？

こうしてシャノワールは特命の相手とコンタクトすることに成功した。

貴方では勝てない...

ライアン、マリアとクリス達にシャノワールは合流した。

ふーん、未来の地球圏にはそんな敵が湧いたんだ。

だったら、我が輩と一緒にタイムマシンで行って、鳴猫拳（ニャン拳）で始末しても、いいニャ。

貴方では勝てないと思います。

クリス＝ヤマモトは言った。

君はまだ元銀河帝国議長の実力を知らないニャ。それに、今は地球のネコ様の姿をしているけど、我が輩、本来は君よりも上背はあるニャ。猫背だけど。

一瞬、またクリスが全身のオーラを解放した。

第八段階を越えた、可視できないオーラだ。

昔、パープルパンサーという使い手がいたと聞いています。彼もせいぜい第八段階、つまり紫色のオーラのレベルだったんでしょう。その上が、可視できないオーラ。さらにその上は、オーラを練って、雷撃や火炎のように具現化すると同時に特殊効果を混ぜる。

でも、それくらいだったら、火星の生み出した強化人間。彼らだってできますよ。それに、奴ら人数が一万以上いる。地球人とわかったら、惑星を消さない程度に気を使った攻撃を仕掛けてくる。

それはネコ、いやネコ族の貴方が、一人ではなく、まあ 1000 人もいれば、話は別でしょうが。

毒を制するには、毒をもって、という諺もあるよね。

強化人間の G' とグレート＝アジア 13 世のチームを未来に送り込んで、火星の強化人間を始末させたら？

いや、それも無理です。

火星人の生み出した強化人間は、G'のクローンを大量に生み出して、さらに強化して、リミッターを開放しています。オリジナルのG'やグレート=アジアでも、彼らには敵わないでしょう。

結局、私だけでどうにかなる問題でもないのですが、それでこの時代の至高の使い手、西郷師範に教えを乞うことにしたのです。

そういえば、以前三代目の大王が西郷師範と修行をして、具現化した秘太刀で相手を斬っていたニャ。あれだったら、ギャラクシーウェーブを相手が出す前に、速攻で居合いをかければ、何とかなるかもニャ。

私も以前母、つまり将来のマリアさんから、二代目パープルパンサーが使ったという冥王拳の型を習いました。あの拳法は自分の体力、生命エネルギーと引き換えに、相手を倒す拳でしたが、もし、自分の体力・オーラを第八段階以上の可視できない状態に保ち、かつ日本刀のようにオーラを具現化して攻撃できれば、そして冥王拳とは違って、潜在能力以上の力を引き出しつつ、なおかつリスクなしで戦えたら、話は違うと思います。

そんな戦法があるのかニャ。我が輩だったら、銀河系の全殺し屋に現金積んで、火星の強化人間の撲滅を依頼するニャ。その方が手っ取り早いニャ。

強化人間たちは、特殊なジャケットを着ていて、武器を使った攻撃はほとんど通用しないのです。それに、気を使った攻撃は相手の方が上手な上に、多勢。殺し屋に頼んでも、返り討ちに会うのがオチだと思います。

一体、クリス=ヤマモト、君は西郷師範のところで修行して、未来に戻って火星の強化人間を追い返すことができると思っているのか？

それは、1割くらいは。秘策はあります。やはり、この時代で修行した上で、単身、火星に、奴らを生み出した元凶に殴り込みに行きます。

クリス＝ヤマモトの決意は固かった。

シャノワールはネコマタ、源九郎といった使い手を思い浮かべていた。

この時代には、プリンス＝ネコマタや東郷源九郎といった使い手もいるニャ。

ネコマタさんは、私たちの時代には老衰で物故しています。東郷源九郎は娘さんを庇って、火星の強化人間のギャラクシーウェーブをまともに食らって、瀕死の重傷を負いました。

それに、まだこの時代には、地球圏には、最後の希望があるニャ。

アルセーヌ・ポルゴさんのことですか？

彼は、火星の強化人間とは互角です。彼のクローンが 10000 人いれば、あるいは戦局は変わってくるかもしれません。

青年。クローンや強化人間は邪道だニャ。我が輩ももと銀河帝国議長として協力するニャ。人間は人間として、尊厳を維持して戦うべきニャ。結果は、きっと必ずついてくるはずニャ。

貴方では勝てないと全否定したクリスを、励ます器量を見せるシャノワール。

クリス＝ヤマモトは未来世界を救う救世主となりうるのか？

新しい時代に希望を再び甦らせるべく、クリス＝ヤマモトは西郷師範との修行に全てを賭ける決意をして、マリア達の住むトキオを後にした。

秘策

西郷詩郎とクリス＝ヤマモトは火星の強化人間を倒すための修行をはじめた。

西郷師範は、柔道と合気柔術を極めた使い手だ。

彼は気を技に取り込むことは行うが、気自体を具現化して闘うことは好まない。

掴みに特化した戦いをする。そして、専守防衛で相手の力を利用して、時に腕を極め、

投げる。それが武道のあるべき姿だという。

しかし、火星人の用意した強化人間は、先手必勝タイプの戦いをする。

そして、気を具現化して、放出する。さらに、気を変化させ、雷撃のように、火炎のように自由に練って用いる。

クリス＝ヤマモトは思った。

かつて西郷とタッグを組んだ母が勧めてくれた西郷師範との修行。

どこに、解があるのか？

もし修行で、G' と 13 代目グレート＝アジアのチームダブルエックスを秒殺できるレベルにまで到達すれば、あるいは？ リミッターを外した強化人間のチームをも仕留めることができるかもしれない。

西郷師範は、古式柔術の型だけではなく、古式剣術の型も授けてくれた。

もともと武道は柔と剣の道、両の型を極めてバランスが取れていた。

現代総合格闘技は素手勝負だ。そのため、剣術の型の修行は忘れられている。

円。

円運動を応用して、相手を投げる。その動きも、本来は剣の修行と連動している。

クリスはライアの血だけではなく、マリアの血を継承している。

気を具現化して闘うこともできれば、フィールドとして利用することもできた。

狭い範囲であれば、瞬間移動すら可能であった。

そんな彼ですら、勝てない相手。火星の強化人間の集団。

西郷はクリスに殺陣の型を示した。

相手が集団にいる時に、必殺技の山嵐や山嵐巻き込みでは、対応しづらい。

もっと簡単な相手の力を利用する技で、まるでフリップするように相手を投げ飛ばす。

たとえば、小手返しだ。

それと雷撃を混ぜる。

相手を掴んだ瞬間、具現化した気を変化させ解放する。相手の手首の関節を極めて投げる。

そのまま、相手を気で制する。

かつて初代グレート＝アジアの夫、タビトは全身の気を解放して嵐を引き起こすような技を用いたという。

別に相手が光線技のギャラクシーウェーブを愛用するなら、同士打ちに持ち込むこともできる。

惑星クラスを破壊しうる強烈な技は、同士打ちに持ち込むのが鉄則だ。

西郷は木刀を持って、剣術の型を指導した。

クリスは具現化した刀で、西郷の木刀を受けた。

どこかに解はある。それを探していた。

クリスは西郷師範との修行で、確実に腕を上げていた。

柔道でもない、サバットでもない、柔術でもない、サンボでもない。そして総合でも U
スタイルでもない独自の格闘術、それはもはや武術の域に達したものを身につけていた。

あるいは、彼であれば、未来世界の救世主たりうるかもしれない。

西郷師範も、確信をいだきつつあった。

しかし、彼の前に最大の壁が立ちはだかった。

現代世界においてキングオブギャラクシーを制した伝説の使い手。

アルセーヌ・ポルゴ。

ソレイユ・シャノワール。

東郷源九郎。

G' (ジー・ダッシュ)。

四天王と対決して、全員を倒すことが目標であると西郷師範はクリス＝ヤマモトに告
げた。

四天王

アルセーヌ・ポルゴ

ポルゴとクリスのシングルマッチが組まれた。

クリスのセコンドには西郷、マリア、ライアン。

一方、ポルゴのセコンドにはテツオ、ヨージ、ジュン。

未来に関わる全ての事実を知らされた後、無言で挑戦を受けることにしたポルゴ。

一方、西郷師範との地獄のような、それでいてどこか充実した修行を終えたクリス。

負けられないのは両者ともに同じだ。ポルゴもついに可視できないレベルの気を習得していた。

そこにはパープルパンサーを越えた男の姿があった。

打撃、グラウンド共に隙のないライアンの技術を引き継ぎ、さらに組み技の西郷のもとで技術を完成させたクリス。

一方、幾度かの死闘を、死線を越えてきた現代世界最高の使い手ポルゴ。

ゴングがなる。

ポルゴは冷静にアップライトに構える。

クリスは全身のオーラを変化させつつ、低空タックルに行く。

並の使い手であれば、今のタックルでテイクダウンされることは確実だ。

そして、気の使い手であっても、具現化され変化した気に触れた瞬間、痺れてしまう。

ポルゴは低空タックルにカウンターのローブローを合わせた。

キックを合わせると、キャッチされ、そのまま片足タックルに持ち込まれる。

ここは体勢を低く保ち、殴りに行くのもいい考えだ。

今のパンチを額に受け、なおも間合いを詰めるクリス。

ポルゴはタックルを潰すと、いったん間合いを開いてスタンド勝負を要求する。

そこをなおもタックルを狙いに行くクリス。

ポルゴはキャッチを恐れないで、強烈な右ローキックをタックルに合わせた。

タックルに行ったクリスの顔面をポルゴのローが捉えた。

さらに左の膝を合わせるポルゴ。

マリアの目には、今の膝が当たった瞬間、ポルゴがオーラを込めているのがわかった。

発頸だ。

もう一発、右の膝を合わせようとしたポルゴ。

その瞬間、ポルゴの背後に、クリスが立っていた。

瞬間移動だ。

ポルゴは冷静に右肘にオーラを込めて、真後ろにいるクリスを狙い打った。

クリスはポルゴの肘打ちを読んで、ブロックした。

今の肘打ちをキャッチして、チキンウィングに捉えるクリス。

一方、ポルゴの左腕をハーフネルソンに捉えたクリスは、そのまま後方に振り返って、ポ

ルゴをスープレックスで投げた。

掟破りのタイガードラゴンスープレックスだ。

そのまま、オーラを練って、変化させ、ポルゴの全身を捉える。

受け身のしづらいクラッチで不意に後方に投げられ、そのままオーラを変化させ身体
の自由を奪われたポルゴ。ホールドには行かないクリス。そのまま、ポルゴを投げっ放
した。

ポルゴは今のタイガードラゴンスープレックスで投げられた瞬間、全身のオーラを高め
て防衛した。ダメージを最小限に抑えたが、それでも、大ダメージを受けた。

仕方なく、老獺にリングアウトして、場外カウントの間に体力をキープしたポルゴ。

場外カウントナインでリングに戻る。

セコンドのジュン＝バードが囁いた。

もう、ここはフェニックスファイナルアタックを使って、勝負に出てください。

ポルゴは軽く頷いた。

アップライトに構えるポルゴ。ジャブの連打から、右のコークスクリュミドルを放つ。

ブロックするクリス。

次の瞬間、左の踵にオーラを込めて、左の後ろ回し蹴りを放つポルゴ。

これもブロックするクリス。だが、今のキックのミーティングの瞬間、オーラは相手を
痺れさせる雷撃として変化していた。

さらに右ハイを放つポルゴ。クリスの顔面を直撃した。

今の右ハイのミーティングの際、オーラを炎のように具現化したポルゴ。

ヨージがセコンドから指示を送る。

ポルゴさーん、奥の手デース。

今の打撃の直撃を受けて、怯んだクリスと間合いを詰めるポルゴ。

そのまま、閃のようにクラッチを作ると、後方に反り返った。

フロントタイガードラゴンスープレックスホールドで、全身のオーラを雷撃のように変化させ、そのまま投げた後も、クラッチを維持したままホールドするポルゴ。

観客がワン、ツー、スリーとカウントをはじめた。

スリーカウントが入った瞬間、クリスの身体は消えていた。

瞬間移動で、スタンドの姿勢に戻ったクリス。

ポルゴもハンドスプリングの要領で立ち上がる。

奥の手を使ったポルゴであった。

両者ともに驚異的なスタミナだ。

一瞬クリスが両手を背後に引くと、全身のオーラを掌に集めて、前に押し出した。

強烈な気功波が会場を包んだ。

点滅が終わった瞬間、今の気功波を受けて硬直しているポルゴに、音速の低空タックルを使い、ポルゴからテイクダウンしたクリスの姿があった。

ポルゴは冷静にガードポジションをキープしていた。

クリスはパスガードに行くそぶりも見せず、拳にオーラを込めて、上からポルゴにパウンドの嵐だ。

ポルゴは冷静に今のパウンドを見切ると、クリスの右腕を掴んで、両足で挟み込んだ。

腕ひしぎ逆十字固めで攻めるポルゴ。

完全にクリスの右腕が伸びきったと思った瞬間、またクリスは瞬間移動でポルゴと身体を入れ替えていた。

ポルゴは最後の手段に出た。

全身のオーラを解放して、可視できないオーラでリング上の空間全てを覆った。

これで、クリスが気をフィールドとして利用しても、すぐに気配を察知して攻撃することができる。

いったん、間合いを開いてスタンド勝負に出る両者。

クリスは、オーラをフィールド上に配置して、自由に瞬間移動をしてポルゴにまるで分身したかのように襲いかかった。

ポルゴは、しかし、的確にオーラの気配だけで、クリスが現れたところをストレートやシャッセで打ち抜いた。

小細工はいらない。

クリスは全身のオーラを可視できないレベルにまで高めて、左フック、右ストレート、左アッパーとパンチのコンビネーションを放った。

ポルゴは、初段の左をダッキングで躲したものの、右には右を合わせた。カウンターだ。相手が左アッパーを放つのはわかっていたが、身体が勝手にフルスイングの右フックを放っていた。確実にクリスのこめかみを射貫いた。

ダウン、ワン、ツー、スリー、フォー、ファイヴ...

立ち上がったかに見えたクリスは、そこで再び倒れた。

ポルゴは、しかし、冷静に最後まで立っていた。

セコンドのマリアがタオルを投げようとするのを、ライアンが無言で、涙を浮かべながら、押さえた。

シックス、セブン、エイト、ナイン、テン。

勝者、アルセーヌ・ポルゴ。

死闘に決着はついた。

四天王の一角は、崩れなかった。

ソレイユ・シャノワール

ポルゴ戦を終えて、控え室で涙を流すクリス。

これじゃあ、これじゃあ、ボクは未来を救えない。

西郷は言った。

今の戦いにもヒントはある。

今は、まだポルゴの方が強かった。それだけだ。

セコンドのライアンはこう言った。

いや、今の試合は俺が今まで経験した試合の中でも最高レベルの戦いだった。

今は、まだ言えないけど、未来を救う秘策はある。

マリア＝ハロルドも言った。

私も、ライアン先輩と同意見よ。まだこの世界には、クリスの他にも、希望があるわ。

そして、未来の私たちは、貴方にこの世界の希望という意味で Chris と名付けたんだと思うわ。

マリア＝ハロルドは思い出していた。今の自分を、もうダメかもしれないと思っていた自分を、

ライアンと引き合わせた存在を。そして、刻を越えてやってきた青年の他にも、もう一人だけ

刻を越えて、自分の前に現れた存在がいたことを。

(確かに有刺鉄線ファイヤーバットは邪道だわ。でも、あれを持ったオバさん。いや、初代グレート＝アジアだったら、クリスに協力してくれるかもしれない。)

控え室に、影が差した。

ドン、ドン。

ノックの音がする。

はい。

ハイ、私よ。オバさん。

初代グレート＝アジアが入ってきた。

今の試合見たわ。よかったわね。感動した。タイガードラゴンスープレックス。いい技よね。

クリス＝ヤマモト。見応えのある選手ね。あなた、一体どこから来たの？

ペイント顔と身体に身につけている鎧に警戒しているクリスを見て、マリアが言った。

み、ら、い。なんて言っても、信じてくれないよね。

I ALWAYS BELIEVE YOU.

私のアメリカ大陸遠征時代の恩師の言葉よ。数世紀前の世界から来た私が、未来から来たなんてセリフ信じると思う？ もちろんよ。できれば、あなたのタイムマシンを使って、私も未来にタイムスリップしたいと思うわ。

結論は出た。確かに初代グレート＝アジアの力があれば、百万人力だ。

さてと、次の四天王との戦いをリザーブしておくか？

マリア＝ハロルドはアイウォッチのフレンドネット機能で、シャノワールを呼び出した。

あれれ、マリア＝ハロルドさんかニャ？ 我が輩、君からお友達申請された覚えはないけどニャ。

有名人はちょっとしらべれば、連絡先は見つかるのよ。それに、あなた公人でしょ。政治家でしょ。

まあ、冗談はそれくらいにして。要件はなんニャ？

私たちの未来の子供、クリスが貴方と勝負したいと言っているの？ いい？

うーん。条件があるニャ。今公務で地球の月に来ているニャ。そこでなら、それで、条件なんだけど、君の家にカテリーナさんがいらっしゃると思うニャ。カテリーナさんが我が輩のセコンド、いや最前列で応援してくれるニャら、その勝負受けて立つニャ。

あなた、それでも、元大王？ ネコ族のリーダー？ 地球のネコに恋愛感情なんて持っているの？

す、すみません。マ、マリアさま。いや、別に、無理はさせない。もしカテリーナさんがオッケーしてくれるなら、ホテルツキノワグマのスイート予約しておく。もちろん、ダブルで。特別にオーナーのマリアさんには、シングル、いやライアン君と、ダブルを予約しおいてもいい。

ホテルツキノワグマ？ あそこは、確かペット、異種族同伴がオッケーな月の最高級ホテルだったわね。

ここで、初代アジアが回線に割り込んだ。

りょーかい。おばさんが特権で、この話まとめるわ。おばさんの分も部屋予約しておいて。シングルでいいわ。りょーきは、銀河帝国元議長もちでいいわね。カテリーナちゃんっていう白猫ちゃんは、きっちりとおばさんが説得して連れて行くわ。いいわね。

こうして、半月後の満月の夜、ムーンアリーナで、シャノワールとクリスの試合が組まれた。

白猫のカテリーナにとっては、はじめての宇宙旅行であった。

太陽の黒猫、ソレイユ＝シャノワールは、素手で構えていた。

一方、クリスは柔道着にオープンフィンガーだ。

最前列ではマリア＝ハロルドが不機嫌そうなカテリーナを膝に抱いて、応援している。

ゴングが鳴る。

シャノワールは最初から全力でとばす気だ。鳴猫拳の使用すら、躊躇がない。

ツメをむき出しにして、左右フックでクリスの顔に殴り掛かる。

クリスは全身のオーラをマックスまで高めていた。

ツメがかすっても、無傷だ。オーラで防御していた。

シャノワールが右のキャットハイキックを放った瞬間、フィールドを使った瞬間移動で、シャノワールのバックを取ったクリス。

シャノワールは背後のクリスに情け容赦のない肘を叩き込む。

それをくらいつつ、豪快にバックドロップで背後に投げるクリス。

いや、今の攻撃はシャノワールほどの使い手なら、読めるはずだ。

完全にバックドロップが決まっていた。そのままホールドに行くクリス。

シャノワールは尻尾を上手くクリスの首に巻き付けていた。そのままオーラを雷撃に変えて、クリスを締め上げるシャノワール。もがくクリス。無意識にクリスは瞬間移動を発動して、離れた位置に立ち上がった。

今のバックドロップは効いたニャ。でも、君くらいの使い手だったら、我が輩、目を閉じてでも勝てるニャ。

それに、鳴猫拳を使う必要もないニャ。

爪をしまい、拳を固めるシャノワール。そのまま、目を瞑る。

クリスがサバット仕込みの打撃で、シャノワールを攻める。

目を閉じたシャノワールは気配を読んで、的確に対応していた。

シャノワールが右ストレートに来た瞬間、クリスはキャッチして、右の一本背負いの体勢から、右脚を刈り払った。

一本背負い崩れの山嵐だ。しかし、シャノワールはキャット空中回転で今の強烈な投げを躲した。

シャノワールが着地する隙を狙って、両の掌をシャノワールに向け、全身のオーラを解放するクリス。

しまったニャ、ニャーんちゃって。

両手の肉球から今の気弾のオーラを吸収するシャノワール。

さらに、今の技を放ち、硬直しているクリスに近づくと、一瞬、鳩尾のあたりをコンと右の拳で打った。

今の発頭パンチで倒れたクリス。

そのままダウンカウントはテンまで数えられた。

カテリーナさん、見てくれたかニャ。これがボクの実力ニャ。元銀河帝国議会議長兼国家元首、ソレイユ=シャノワールにゃ。

思わず、天を仰ぐマリア=ハロルド。その視線の先には、蒼い惑星が見えていた。

リングサイドにいた初代アジアはクリスに駆け寄った。

残りの四天王とやらは、あの G' と東郷源九郎ね。

どっちも生意気なヤツね。

やっちゃんなさいよ、青年。今はまだ動けない。それも定めだけど。

あなたなら、できる。この世界、未来の世界も救うことができる。

もし一人でダメだったら、このオバさんが協力するわ。

あの2人、マリアちゃんとライアンの血を引いているんでしょ。さあ、肩を貸すわ。一緒に立ち上がって。

試合が終わったシャノワールはリングサイドのカテリーナにネコ語で話しかけた。

どうでしたかニャ？ ボクの試合は？

まあまあね。シャノワール、あなた思ったより強いよね。今日は、あなたの部屋に泊まってもいいわ。

ホ、ホントですかニャ？

マリアちゃんとライアンさんを2人きりにしてあげないと。

未来のクリス君も生まれて来ないよね。きっと...

シャノワールが生まれて初めて本当の恋に落ちた相手。それは、地球圏で出会った気品高い白猫であった。

東郷源九郎

東郷源九郎とクリス・ヤマモトの試合が決まった。

クリスは、マリア・ハロルドに試合開催の報告をした。

マリアはこう言った。

私が許す。限界までやっておしまい。

かつて、あこがれのライアンに東郷の妻の方が、自分より魅力があると言われたマリアだ。

マダム・アワヤの泣き顔が見てみたい。そう思わずにはいられない。

ライアンは試合決定の報告を聞くと、クリスにこう告げた。

東郷は容赦ない男だ。遠慮は要らない。本気で勝負しろ。

未来は、お前の方にかかっている。

ムーンアリーナで、東郷源九郎対クリス・ヤマモト戦が開催された。

ゴングが鳴る。

圧倒的なオーラの量で、リングを覆う東郷。しかも、第八段階の可視できないオーラだ。もはや、オーラは第九段階に達し、変化して、雷撃や電撃に変化している。

オーソドックスに構えるクリス。

東郷が様子見のジャブを放った瞬間、ローアングルのタックルでテイクダウンするクリス。そのまま、膝十字を狙う。東郷の右膝が伸びきった瞬間、東郷は右の掌から気弾をとばして、クリスの顔面を狙った。

しかし、クリスはクラッチを外さなかった。一瞬、オーラを顔面の前に移してバリアを張って、なおも完全に東郷の右膝を極め、破壊した。

容赦ねーな。

そんな溜息ともつかない声が、リングサイドから聞こえる。

東郷は冷静に勝機を伺っていた。もうスタンド勝負では、勝ち目はない。

グラウンドでスリーパーを極めて、落とすしかない。

東郷も、ヒールホールドを使って、応戦した。

クリスは体を捻って、今の足関をよけた。

一瞬、クリスが東郷に背中を向けた。

この瞬間、東郷がクリスのバックを取った。

そのまま、パウンドのように殴り掛かり、クリスの首を狙う東郷。

クリスはしかし、冷静にポジションを入れ替え、ガードポジションに持っていった。

下からの三角を狙うクリス。

クラッチが決まった。

東郷は構わず、クリスをパワーボムの体勢で持ち上げようとした。

しかし、右足の踏ん張りが利かない。

クリスは下から、東郷の右脚を腕で刈った。

そのまま三角締めで東郷を KO した。

はじめてクリスが四天王の一角に勝利した瞬間だ。

G'(ジー・ダッシュ)

残りの四天王、G'(ジー・ダッシュ)との試合の予定が決まった。

スパーリングパートナーの初代グレート・アジアはこう言った。

オバさん、アイツだけは許せないの。何ならオバさんがタッグで、直接手を下したいわ。

クリスは、無言で、頷いた。

ただし、こう後でいい返した。

俺は、一対一で、G' と勝負したい。

後樂園アリーナという煤けた会場で、G' 対クリス・ヤマモトの時空を越えた決戦が行われた。

ゴングが鳴る。

銀髪の G' はやはり、第八段階までオーラを高め、可視できない気でリングを覆っていた。

冷静になるんだ。相手の技は全て研究し尽くしている。

クリスは、まずは左ジャブから右ストレートを放つ。その後、右のフックでトリプルだ。

G' は右フックをキャッチすると、そのまま得意の一本背負いに入って、クリスを投げた。

ダウンしたクリスの右腕を逆十字で極める G'。

冷静に両手でクラッチを作り、重心をコントロールするクリス。

そのままクリスが立ち上がり、まずはクリーンブレイクで、スタンドに戻った。

G' は全身のオーラを限界まで高め、掌に集中した。

まずは左手、次に右手で、クリスをめがけ、別々に気弾を発射した。

その後も、両手から細かい気弾を連続して放つ G'。

気弾があたった瞬間の爆発と煙で、クリスの姿が隠れた。

その瞬間だ。気をフィールドとして瞬間移動したクリスは、G' の背後に現れた。

そのまま、G' の左腕をチキンウィング、右腕をハーフネルソンに捉えると、高角度のアーチを描いて、後方に叩き付けた。

タイガードラゴンスープレックス！

完全に決まった。ダウンする G'。

いったんホールドのクラッチを解くと、立ち上がったクリスは目の前に巨大な気弾を具

現化した。

まるで雷の火の玉のようであった。

クリスは気弾を蹴り上げると、ダウンした G' を気弾が包み込み、そのまま爆発した。

真・激風拳が決まった。

G' は立ち上がることは、できなかった。

現代の四天王のうち、2人を葬り去ったクリスの実力は、高く評価された。

未来への帰還

別れ、そして、出会い

クリスはG'戦後、1ヶ月が経過したある日、西郷師範とライアン、マリアの前でこう言った。

「僕は、そろそろ未来に帰ります。四天王は半分しか倒せなかったけど、でも、手応えはありました。」

「クリス、まだ不安だわ。もうちょっと、いや後半年だけ、この時代で修行できない？」

マリアは言った。

「何か作戦はあるのか？」

ライアンも言った。

「特にはないです。でも、もとの時代。未来の仲間を、僕は放ってはおけないんです。」

その時、ドアをノックする人影があった。

「こんにちは。オバさんよ。入るわ。」

初代アジアだ。

「オバさんが協力してあげる。一緒に、未来に行って、火星人の用意した強化人間を打ちのめしましょう。奴らの拠点の火星に行けば、根絶やしに出来るかもしれないわ。」

「でも、未来のポルゴさんとライアン先輩でも、返り討ちにあったのよ。」

「それは、ライアン君が、気を使えないからよね。」

初代アジアは、自分の体の周りに第九段階のオーラを発生させていた。

そして、その右手には有刺鉄線バットが握られていた。

「鬼に金棒！ まさに今の私のことよね。」

「2人で乗り込めば、火星人の強化人間を防ぐことができるわ。」

初代アジアは言った。

さらに、ドアをノックする影があった。

「我が輩も協力するニャ。」

ソレイユ・シャノワールだ。

シャノワール、初代アジア、クリスの3人は、これから未来世界へジャンプし、火星人の強化人間の拠点を叩くと誓った。

今までで最も最強・最悪の敵を相手に、銀河や刻を越えた3人が勝負に出る！

この結末は、誰もわからなかった。

参ったニャー

未来世界へジャンプし、火星の強化人間生産工場へ殴り込みを掛けた3人、いや2人と1匹(?)である。

シャノワールは言った。

「参ったニャー。我が輩、火星圏の環境と重力をなめていたニャ。」

一方、初代アジアは有刺鉄線バットに炎のオーラを纏い、振り回しては、強化人間達をノックアウトしていた。

「アジアさん、奴らは一万人いるんです。どうにかして、根元から叩かないと。」

「おそらく、工場の中には、科学者、いやマッドサイエンティストがノサバっているはずだ。そいつをとっちめないことには、話にならない。」

こうしている間にも、強化人間の一個小隊に囲まれてしまった。

初代アジアが有刺鉄線バットを振り回して牽制した。

その隙にシャノワールが強烈な気の嵐を起こして、フォローした。

工場といっても、火星人の巣に作られている。複雑な形状だ。

「どこだ。どこがやつらの本拠、巣の中心なのか？」

「クリスちゃん、オーラを探って。」

アジアが言った。

シャノワールはこの工場の秘密に気付いた。

「この巣の中心が、火星人とは限らないニャ。」

むしろ科学者は、マッドサイエンティストは、地球圏出身の可能性もあった。

「そうだニャ。この工場の2Aフロアから、異質な気配を感じるニャ。」

「わかりました。確かに、地下2階のAフロアに、異質なオーラがあります。」

またこの会話の間にも、強化人間達に囲まれた。

奴らは、光線技で、10人束になってかかってきた。

アジアがバットを振ったが間に合わなかった。

シャノワールがバリアと同時に、爪をむき出しにしてニャン拳を使った。

今のニャン拳で、周囲の強化人間達は気絶した。

「今のうちに、階段を下りるニャ。」

地下2階のAフロアにはメインコンピュータがあり、その前には一人の地球人の女性科学者が

座っていた。

「よく、ここまで無事に来れたわね。」

「あなた、地球人でしょ。それが、なんでこんな所にいるの？」

「私は、確かにジパング出身の科学者よ。でも、愚かなジパング人達は私の強化クローン技術を理解できなかった。最初は、強化クローン技術を天才的発明と誉めてくれたわ。でも、途中から、ねつ造や盗作と騒がれたわ。」

「私は思った。この技術を実用化して、ジパング、ひいては地球人に復讐すると。それに、火星皇帝の孫と出会って、お互いの思惑が一致した。愚かな地球人に天誅を与えると！」

「アヤノ・イジュウイン博士！ あなたの野望を阻止して見せる！」

こう言ったクリスの前に立ちふさがったのは、火星皇帝の血を引く、強化人間デスパテル3世であった。

デスパテル3世は、圧倒的なオーラで3人の前に立ちふさがった。

「ここは俺にやらせてください！」

クリスが前が出る。

有刺鉄線バットで支援しようとするアジアをシャノワールが止めた。

「ここは彼の見せ場だ。もともと彼の時代、彼の惑星の問題だ。自分のことは自分で解決すべきだニャ。」

デスパテル3世は、しかし相手が至高の使いと見るや、意外な手を使った。

全身のオーラを具現化して、身体を炎のように被った。

このやり方は、ある意味最強であったが、持久戦になると、自分の体力が減少する厳しい戦い方だ。

クリスは全身のオーラを淡く纏った。

強烈なローキックでデスパテル3世の出ばなを挫いた。

デスパテル3世は、構わず前進して、両手でクリスを掴んだ。

そのまま全身のオーラを炎のように炎上させ、自分もろともクリスを焼き尽くす作戦だ。

クリスは冷静にさらに間合いを詰め、右のボディアッパーを放つ。

さらに、デスパテル3世の右腕を極めると、右腕で抱え込み、相手の右脚を右脚で刈り払った。

西郷師範直伝の山嵐が決まった。

そのまま、クリスは巻き込んで、技が決まった瞬間、全身のオーラを一気に開放した。

アジアとシャノワールはとっさにバリアをはって防いだが、今のクリスのはなったオーラは、周囲の人間をも巻き込む強烈なものだ。

デスパテル3世はなおも立ち上がってくる。

シャノワールがニャン拳の構えを取り、アジアが有刺鉄線バットを構えた瞬間、デスパテル3世は倒れた。

「これで、もう貴女を守る兵隊はいなくなった。」

「貴女の科学実験のために、地球の人口の半分が失われた。」

「責任は取ってもらう。せめて、地球にいる強化人間達に撤退命令を出して欲しい。」

「甘いわね。」

「私の胸にあるペンダントが、この工場の起爆スイッチよ。もしデスパテル3世が敗れた時のために、用意しておいた。もし私の身体に危険が及べば、地球を襲っている強化人間達のリミッターが外れて、地球ごと光線技で吹き飛ばす予定よ。」

「くっ、俺は、また地球圏を救えないのか…」

アジアが思わず有刺鉄線バットを握った瞬間、シャノワールがニャン拳の高速移動を使って、イジュウイン博士の胸のペンダントを奪い取った。

「これで、攻勢逆転ニャ。」

「別に我が輩は、地球が壊れても、この工場が爆発しても、構わないニャ。」

アジアは一瞬の隙にイジュウイン博士を拘束した。

「さあ、このバットが怖かったら、強化人間たちの強制排除命令を出して。」

「わかったわ。」

「命だけは、要求しない。だから、地球を、ボクの地球を、返してください。」

クリスは言った。

イジュウイン博士は、目の前のスパコンの画面に、プログラム M 終了と命令した。

こうして、地球を襲っていた1万人の強化人間達は、一旦火星に戻ってくる算段がついた。

まださらに太陽系掌握を目指して、数万体の強化人間が生産される計画が存在した。

クリスとシャノワール、初代アジアは相談の上、迷わず、イジュウイン博士のペンダントのボタンを押して、強化人間生産工場を壊滅させた。

「シャノワールさん、初代グレート・アジア。ありがとう。」

これで、ボクは地球を救うことが出来た。

「まあ、信じるものは救われるニャ。何とか3人で協力して、問題は無事解決と。それはそうとして、我が輩はもとの時代に戻るニャ。初代アジアはどうするかニャ？」

「私はパラレルワールドになっても、夫と息子、娘の生きている時代に戻りたいです。」

「そんなことが出来るかニャ？」

「そのためには、この時代の銀河帝国の科学力が必要です。シャノワールさん、力を貸してください。」

「わかったニャ。クリスは地球圏に戻るニャ。我が輩と初代アジアは、乗ってきた4次元量子移動船で、この時代の銀河帝国にジャンプするニャ。では、また機会があれば会おう。勇気ある地球の青年よ。」

「この時代のマリアちゃんによろしく、クリス君。」

こうして3匹の使い手は、無事に問題を解決して、火星を後にした。

再会

今はジパングで、いや地球圏でも小説家として名声を獲得したタビト大伴は、息子と娘を伴って、妻の墓参りをしていた。

もちろん、この墓には妻の遺骨はない。

ただ遺髪を埋蔵してあるだけだ。妻の身体は冷凍保存してある。いつか、再生医療が進歩した世界で、場合によっては、息を取り戻すことも出来るかもしれない。

この一連の医療費に彼の印税のほぼ9割を費やしていた。

もちろん、仮に妻が復活したとしても、その時には、俺たちの子孫は生きていても、誰も俺たち家族はいないだろう。

息子のヤカモチと娘のアキコが線香をあげ終わると、タビトは子供達にはわからないようにうっすらと涙を浮かべていた。

その姿を遠目から見ていた初代アジア。

そっと、しかし力強く夫に、家族に歩み寄るアジア。

「あ、あなた。」

ふいに、振り返るタビト。

「亜路逢よ。ずっと待っていてくれて、ありがとう。」

「母さんっ。私を、私を庇ってくれて、ありがとう。あの男は、あの殺し屋は、父さんが倒したわ。」

「知ってるわ。娘を守るのは、母の役目よ。そうか、あなたは遂に私が果たせなかった夢を果たしたのね。」

二代目グレート・アジア。そしてキングオヴギャラクシーをついに制覇したのね。」

「母さんの弟子、ジャック・ハロルドと組んで、何とか。この時代には G' もいなくなって、何とか楽勝で。」

「本当に、母さんなんだね。身体は、もう大丈夫？」

「未来の再生医療の力で私は生き返ったの。それで、あのジャック君の子孫の力を借りて、タイムマシンで、もとの世界、最愛のあなたたち家族のいる世界に戻ってきた。」

「会いたかった、ずっと。刻を越えて...」

こうして大伴家は家族4人が再び揃った。

初代アジアが冷凍睡眠処置を受けた、実に10年後のある日のことであった。

もう長男ヤカモチは結婚して、家族を持っていた。

二代目アジアことアキコも結婚して、3代目のアジアを身ごもっていた。

久しぶりに家族で揃って、初代アジアの墓所に集まったところ、ついに奇跡は起った。

生きていれば、そのこと自体奇跡だ。

Life is a miracle.

そうタビトの日記には書かれたという。

ある秋の夕暮れのことであった。

ライオンの休日

コンサート

ライアン・ヤマモトは大学院の夏休みの休暇を利用して、マダム・アワヤの産休明けの第一回マラソンコンサートに参加した。

ジパング大学は、確かに夏休みだ。キャンパスには勉強熱心な女子学生が多い。しかし、研究者にとっては休暇はないに等しい。スケジュールを調整して、一晩空いている日を作って、憧れのマダム・アワヤのコンサートに参加した。

もちろん、恋人のマリア・ハロルドには内緒である。プライベートだ。

今までにライアンは地球のグローバルミュージックをほぼ制覇したと言ってもいいくらい、地球語の様々な歌を聴いてきた。カンツォーネやボサノヴァ、シャンソン。もちろんカラオケでも歌えるくらい聞き込んだ。

ポルゴが入場曲に好んで用いる地球圏の歴史を刻んだ伝説のシンガー、トッツィだけではなく、あの究極龍のテーマを歌っていたミゲルといったレジェンドと同じレベルで音楽性を評価しているのが、マダム・アワヤだ。

年上というのも、いい。熟女好きのライアンにとっては。

大人の魅力を感じる。

まずは名曲中の名曲、Amore Sempre Traversare Il Mondo.(愛はいつも世界を越える)が歌われた。

その後は、新曲が発表された。Imagine Me! (私を想って)という曲だ。

これだけの名曲をほぼ毎日、生で聞ける東郷源九郎とその子供が羨ましい。

マダム・アワヤにはお子さんがいたんだっけと思い出すと、Ciao Ciao Bambina!のカバーが流れる。バンビーナということは、娘さんか。

盛り上がってきた所で、FINAL WARRIOR のテーマが歌われた。最後の戦士という意味の、伝説のRPGで何度も映画化されている。

マダム・アワヤの歌は、単なる人間の声というレベルを超え、文化であり、人類の共有財産のレベルであった。

会場の端の方をふと眺めると、肥満体の白いネコ族の老人が応援していた。

もちろんプリンス・ネコマタだ。

会場で花火が打ち上げられると同時に、HANABI!という渋い曲が流れた。独身女性の哀切な気持ちを歌った歌だ。

マダム・アワヤは意識して避けていることがあった。

お子様ソングは歌わない、である。

歌は、大人にとっても、子供にとっても、よいものは、よい。本物を聞かせるべきだ。

子供にこびるのは、よくない。それが彼女の信条だ。

最初は天涯孤独な独身女性の哀切を歌い、パートナーを得た後は、愛について歌い、子供を授かった後は、その感謝の気持ちを歌った。

だが、彼女は、子供のためだけの歌、は歌わないポリシーだ。

子供向けアニソンは、歌わない。カラオケでも。

常に本物、だけを目指して歌ってきた。

会場に TRUE LOVE が流れる。

大人の女性の骨太な魅力のハスキーボイス、それがマダム・アワヤの支持される理由だ。

プロフェッサー、再び

ライアン・ヤマモトは日曜日にも関わらず研究室を訪れていた。

研究室にはジパング大学情報生命態論講座主任教授、伝説の植物科学者、プロフェッサー・ナガヤこと永谷教授が誰よりも前に入室していた。

生物学系の研究室に日曜日はなかった。

もちろん、ドクター課程やマスター課程の院生に植物の管理を任せてもよかったが、何よりも研究が大好きで、亜熱帯へのフィールドワークや学会報告などがなければ、たとえば夏休みや日曜日であっても、研究室に誰よりも前に出勤するのが、ナガヤ教授だ。

そして、ナガヤ教授が植物以外にもう一つ愛好しているものがあつた。

もちろん、総合格闘技だ。

ブラジリアン柔術とサバットをファイトスタイルとする彼であったが、もちろん、その両方の競技でアマチュアチャンピオンになることが目標、ではなかった。

既に、柔術とサバットの奥義を極めたといってもいい彼の目指すのは、総合格闘技の試合で、打・投・極、彼の技術体系には、投、はタックルや足払いだけだが、の流れの中で実践するのが、目標であった。

研究室では、大学院生だけではなく、秘書たちまでもが、大学の体育館で教授に混じりサバットの練習をしていた。

もちろんライアンも。

そして、ライアンのもう一つの顔、それが、隠れ柔道部員であった。

毎週、週末だけ、大学の柔道部に確実に練習に参加していた。

週末、それは、大学で高専柔道の練習が行われる曜日だ。

伝説の寝業師達とのスパーを繰り返して、ライアンは確信していた。

寝技は、練習量とロジックだ。

合理的に練習を積み重ねたものだけが、強くなれる。

そして、ライアンはもう一つの可能性に気付いていた。

サバットも、合理的に技術を学べば、上達が速いのではないか？

心、技、体。という言葉がある。

最初に来るのは、心。つまりどんなに強くても曲がった心を持っていては、人として、もちろん格闘家として大成できない、ということだ。

そして、技。

体。

解釈によっては、身体能力があれば、理不尽なまでに強さを発揮できるが、それも、一定の技の前には通用しない。それが例えばサブミッション、つまり相手を屈服させるための技術体系だ。そして、一番重要なのが、正しい心だ。

人を正しい方向に導く心を持った、真の指導者。それが、プロフェッサー・ナガヤだ。

研究者の業界、格闘家の業界を問わず、彼はファイティング・プロフェッサーという名前で、畏敬の念を込めて呼ばれていた。

大学の教授、そして総合格闘家、両方共、莫大な努力と資質を必要とする職業だ。そして、その両方を兼ねる上級職、それが、ファイティング・プロフェッサーだ。

前の試合で、古傷の膝を痛めたナガヤ教授は、久しぶりにライアンに寝技のスパークをしようと言った。

ライアン君、研究はこれで切り上げて、午後は体育館で寝技のスパークと行きましょう。

はい、先生。

ライアンほどの男が、何のためらいもなく先生と慕う相手、それが、ナガヤ教授だ。

もちろんライアンの研究計画では、銀河系の進化の歴史、生命誌を明らかにして、いつかは、俺も、ファイティングドクターになる。そしてファイティングプロフェッサーを目指すことを目標にしていた。そんな彼は、ナガヤ教授以外の人は、教授であっても、心から先生と呼べる相手とは思えなかった。唯一、ためらいなく先生と呼ぶ相手、それが永谷教授だ。

午後になり、両者は柔術衣に着替え、向き合っていた。

背中合わせになって、教授がパチンと手を叩くと、両者は一斉に振り返り、片膝立ちのまま向き合った。

ナガヤはわざとアンダーポジションになり、寝技に引き込んだ。逆十字や三角を狙っていた。

ライアンは両腕を決められないように守りつつ、重心をコントロールして、足関節を狙っていた。

数年前の俺だったら、しびれを切らして、ここで強引にアキレスかヒールホールドを狙ったんだろな。

ライアンは思った。

わざとナガヤの首を狙うライアン。すかさず右手の関節を逆十字に狙いにいく、ナガヤ教授。

重心をコントロールして、回転するライアン。

これだけで、ナガヤ教授の逆十字狙いを外し、さらにサイドを奪っていた。

グラウンドにおいて、サイドをとることは、ほぼ勝利を意味するといってもいい。

それくらい、優劣がはっきりすることだ。

このままライアンは上からキムラロックを決めに行く。

これもフェイントだ。

本命はキムラロックからストラングルホールドへの変化だ。

一本目は、ライアンが取った。

「いや、完敗です。」

負けず嫌いの教授が、照れながらこう言った。

いいものは、いい。そう認めること。それが、まずは第一歩だ。

すべての縁（えにし）を縁と認めて、大団円で勝利に向かう研究室のリーダー。

ファイティング・プロフェッサーが再始動した瞬間であった。

死闘

ボクは東郷源九郎さんに挑戦したい。

そう突然研究室で呟いたプロフェッサー。

ライアンは一瞬、やめたほうがいいですよ、と進言しようとした。

ふと眺める師の姿。そのオーラは純粹で、真っ直ぐであった。

そうか、心底永谷教授は、東郷と戦いたいと思っているのか。

そう理解したライアン。

たまたまお友達になっていた東郷夫人に、アイウォッチから連絡を取るライアン。

あの、ウチの先生、ナガヤ教授が、ご主人、源九郎さんと勝負したいと言ってるんですけど。

ファイトマネーは？

最近、教授、銀河植物学の著書がベストセラーになっていて、賞金だったら、賭けてもいいと、いっています。勝者、総取りで。

面白いわね、受けたワ。その勝負。

こうして後楽園アリーナで、ジパング大学大学院教授永谷と伝説の総合格闘家東郷の試合が組まれた。

永谷教授は柔道着姿。一方、東郷は、黒タイツだけ。もろ、ストロングスタイルだ。

セコンドは、ライアンと、東郷夫人だ。

ゴングがなる。

東郷は強打気味のワンツ－を放つ。眼を狙ったエグいものだ。

一瞬、視界から、永谷が消える。低空タックルだ。

一瞬で、両足を引いてタックルを潰す東郷。迷わず、相手に向かってパウンドの嵐を降らせる。

完全にはタックルは切られなかった。

なんとか、左足に食いついた永谷。

パウンドは背中にしか、あたらない。

右を振り落とした。そう思った瞬間。

強烈な腕絡みで寝技に引き込む、永谷。

だったら、強引に引き上げれば、いい。

パワーボムの体勢に引き込もうとする東郷。

永谷は右のクラッチを外して、東郷の左膝を拳で強打した。

そのまま、下からの変形三角締め引き込む永谷。

東郷は、思わず全身のオーラを限界まで爆発させた。

リングが紫色のオーラに覆われた。

今のオーラの爆発をまともに食らって、三角を解除する教授。

両者、間合いを取ってスタンド。

永谷教授はサバットで鍛えたストレート二発から、左のシャッセ・ラテラル（サイドキック）を放った。

東郷は冷静に左を右手でブロックした。

東郷は、お返しとばかりに、左のコークスクリュキックを放つ。今度は右ハイだ。

確実に永谷教授の顔面を捉えた。

すかさず、左のバックスピキックを放つ東郷。

教授は左フックから右のバックハンドだ。

この瞬間を東郷は逃さなかった。

永谷の右腕をハーフネルソン、左腕を、チキンウィングに捉えて、完全に気で動きを封じた。

そのまま、ハイアングルのスープレックスに行き、ホールドした。

会場が一瞬点滅したかに思えた。

タイガードラゴンスープレックスホールド。

銀河最強の技が決まった瞬間だ。

教授はダウンカウント9で立ち上がろうとした。そのまま崩れた。

勝者、東郷源九郎。

完全決着だ。

セコンドのマダム・アワヤは控室から娘を呼び出していた。娘を肩車する東郷。

ちっ、完敗か。

しかし、ライアンはこう思った。

今のバックハンドは悪手だった。相手の挑発を無視して、絶対に背中を見せない。そう

すれば、必ず勝機はある！

ライアの休日は終わった。

またファイターとして目覚めたライア。

いつか、東郷と拳を交えるために、また基礎から練習し直そうと誓う。

ミリ単位で技がずれれば、決まらない。そんな世界だ。

しかし、ライアには、わかっていた。

基本の繰り返しが、重要。そして、ハートが。

教授は、最後まで立ち上がろうとした。

心は折れなかった。それが、一番大事。

また歩み出そうと誓った、ライアとプロフェッサーである。

CYBER HUNTER

新たなる刺客

この世界を影で牛耳ろうとした月面人や旧火星皇帝といった人々を、さらに闇で葬ってきた最強の職種、それが CYBER HUNTER だ。高度に張り巡らされた複合ネットワークを利用し、己の持つ高い技術（それは格闘術も含んでいる）でターゲットを闇から闇へ葬る、そんな CYBER HUNTER にとって、唯一の邪魔者、同業者は CYBER 探偵だ。そして現代の CYBER 探偵の中の代表的人物、それはアルセーヌ・ポルゴだ。

地球圏で CYBER HUNTER の元締めをやっているカエサル鈴村は、全 CYBER HUNTER にポルゴを社会的に抹殺する指令を出した。

「アルセーヌ・ポルゴか、目障りだな。そろそろ社会的に消えてもらおう。」

カエサル鈴村はフレンドネットに対するハッキングを利用して、アルセーヌ・ポルゴの交友関係を可視化した。

「かつて、ポルゴ最大のライバルは、西郷詩郎だった。今であれば、ライアン・ヤマモトか。」

もちろんライアン・ヤマモトにとって最愛の存在である恋人マリア・ハロルドを人質にとって、ポルゴの社会的暗殺の依頼を出すことも、カエサル鈴村は計算に入れたが、すぐに、そのような計算結果は破棄した。

なぜなら、ライアン・ヤマモトはストレートで実直な性格で、一切曲がった事が嫌いだった。このような男には、曲がった手段は通用しない。むしろ、正々堂々と、ワンマッチを主催して、そこで、アルセーヌ・ポルゴに実力で敗北させれば、もう彼の社会的な価値は遡減する。そうして、もともと CYBER HUNTER が握っていたこの世界の影の覇権を取り戻すことができるだろう。

カエサル鈴木はエージェントを利用して、ソレイユ・シャノワールに連絡をとった。

「もと大王の一存で、キングオヴギャラクシー特別試合、アルセーヌ・ポルゴ VS ライアン・ヤマモト戦の開催を依頼したい。」

もちろんシャノワールほどの男が、カエサル鈴木の陰謀を理解しないこともなかったが、もし、ライアンと闘って株が落ちるくらいだったら、ポルゴはその程度の男だということだ。

世紀の一戦！

アルセーヌ・ポルゴ VS ライアン・ヤマモトのキングオヴギャラクシー特別試合がムーン・アリーナで開催された。特別レフリー兼主催者はシャノワールだ。

ポルゴはキックトランクスにレガース、オープンフィンガーだ。

ライアンはキックトランクスに、シューズ、バンテージだ。

バンテージ姿のライアンに観客からヤジが飛んだ。

「このご時世、顔面パンチやパウンドなしで行くのかよ。飛車角両落ちだぜ！」

しかし、ライアンには策があった。顔面パンチやパウンドは、本来の彼のグラップリングとサバットが融合したスタイルでは、付け足しであった。極めには素手で十分。

ゴングがなる。

ポルゴは全身のオーラをマックスまで解放した。

ライアンは躁気術をマスターしていたが、体内にオーラを止めていた。

シャッセフロンタル（前蹴り）から果敢にせめるライアン。

ポルゴはブロックした。

さらにフロンタルだ。

さすがに後退を余儀なくするポルゴ。

そのままコーナーまで追い詰めるが、パンチはボディにしか打てない。

ポルゴは左のコークスクリュウから、右のフロンタルでお返しをした。

両者、開始位置に戻る。

ライアンは左のジャブから音速の低空タックルに行く。

ポルゴはガードポジションをキープする。

下から、切り返しを狙うポルゴ。

本来ならガードポジションの上からパウンドも考えられるが、しかしオープンフィンガーをつけないライアンはグラウンドの攻防に専念した。

観客にもこの試合の技術レベルが伝わった。

クリーンかつあざやかにファイトしたいというライアンの思いが伝わってきた。

ポルゴは下から足を組み替えて、一旦アキレス腱固めを狙うと、三角に変化した。

ライアンは全身のパワーでポルゴを三角の体勢のまま、抱え上げた。そのままパワーボムでバスターした。

なおも三角を緩めず、次の攻防で逆十字に移行するポルゴ。しかし体を入れ替え、微妙な重心の移動を利用してスタンドに持ち込むライアン。

ポルゴも冷静に柔術立ちで間合いを取って立ち上がった。

どうにかしてバックを取って、タイガードラゴンスープレックスを狙いたい、そう思念するポルゴ。

それにはまず、自分からスキを見せることにした。

ワンツーから左のバックハンドに移行するポルゴ、ライアンはこれを左のローリングソバット、つまり後ろ蹴りで返した。この瞬間をポルゴは逃さなかった。

音速で間合いを詰めてバックを取ると、そのまま相手の左腕をチキンウィング、右腕をハーフネルソンに捉えると、一気に後方に反り返った。

そのまま全身のオーラを解放して、ホールドした。

タイガードラゴンスープレックスホールドによる KO で、ポルゴの勝利が確定した。

控え室で目を覚ましたライアンはマリア・ハロルドに語りかけた。

「無念だな。また一から修行し直そう。今日は格好悪いところ見せちゃったな。」

しかし、ライアン一筋と決めているマリアにとって、一度くらいの敗北は、何の影響もなかった。

「先輩、また頑張ってください」

「その呼び方はやめてくれよ、マリア。ライアンでいい。」

こうして、ポルゴとライアンの歴史的な一戦は決着がついた。

逆襲のカエサル

CYBER HUNTER の元締めカエサル鈴村は自ら、地球圏を代表する CYBER 探偵のポルゴに挑戦状を叩き付けた。もちろんカエサル鈴村もファイトスタイルは総合であったが、ベースとなるのは伝統空手で、打撃は寸止めだった。しかし、寸止めのポイントから自由に気弾を飛ばすことができた。

一方、ポルゴのファイトスタイルは古流柔術から派生した源流をベースにした U スタイル総合格闘技であった。

カエサル鈴村は特別レフリーに西郷詩郎を手配して、後楽園アリーナで勝負を挑んできた。

カエサル鈴村は、空手衣姿であった。一方、ポルゴは今回、キックトランクスにレガース、オープンフィンガーである。

ゴングが鳴る。

カエサル鈴村の強烈なローキックがポルゴの右足にヒットした。

そのまま、踏み込んで左右の正拳突きだ。

ポルゴはこれまでのやりとりで、相手が伝統 4 大流派のどれかの使い手であることを理解した。

相手はローカストレート系でしか攻めてこない。

しかも、一瞬拳を引いて、隙を作る。テレフォンパンチだ。

ポルゴは直感的に、タックルに行った。

コーナーまで詰めると、相手をダウンさせ、ガードの上からパウンドの嵐だ。

カエサルも下から三角締めを狙うが、ポルゴは強引にカエサルを目の高さまで持ち上げ、そのままジャンピングパワーボムでバスターした。

一旦、レフリーの西郷がダウンの裁定を取る。

ダウン、ワン、ツー、スリー、フォー、ファイブ。

ファイブで立ち上がる驚異的なスタミナのカエサルだ。

カエサル鈴村の表情が変わった。ステップのリズムも変化した。

しかし、ステップもすり足ベースで、ポルゴのモダンな動きには全く対応できていない。

パンチはワンツーかその次はスリーだ。

スリーをヘッドスリップしたポルゴがカウンターのボディを放った瞬間、カエサル鈴村は右の掌打から、全身のオーラをポルゴの顔面に向けて爆発させた。

ボディを放ち接近していたポルゴにとって、今回の気弾攻撃は大ダメージを免れない。

しかしポルゴは既に第9段階の気の技術を身につけていた。相手は素人にも見える第二段階レベルの操気術だ。

ポルゴは一旦バックステップすると、右の強烈なラリアートを放った。

カエサル鈴村が頭を下げてラリアートを躲した瞬間、その背後にポルゴが立っていた。

そのままハーフネルソン、チキンウィングにクラッチを決めて、一瞬で後方にハイアングルのアーチを描いてポルゴはカエサルを後方に投げた。そのままクラッチをホールドしたまま、ポルゴは心の中でスリーカウントを数えると、クラッチを解除した。

タイガードラゴンスープレックスホールドによる KO 勝ちであった。

ミスター東郷の真の継承者、パープルパンサーのマスクに最もふさわしい男、そして、地球圏、銀河を股にかけて活躍する真の主人公が誰であるか、今回の戦いで明らかになった。

もちろんその男の名前は、我らが、アルセーヌ・ポルゴである。

マリアの祝日

マリアの祝日

ひさしぶりの祝日にマリア・ハロルドは、恋人のライアン・ヤマモトと無事デートにこぎ着けた。

「それにしてもクリスは元気でやっているのかな？」

ライアンは話を切り出した。

一瞬、照れるマリア。

「あくまで未来の話よね。確かにクリスはライアン先輩並みの好青年だけど。」

二人は印象派展に行ったあと、マダム・アワヤのコンサートに向かった。

「先輩、ワタシはこの歌手、どうしても好きになれないんだけど。」

一瞬、戸惑いの表情を見せるライアン。

「まあ、大人の魅力かな。人生の陰影が、歌に現れている感じがする所がいいんだ。それに母性的な優しさを感じる。」

「ワタシだって大人です。」

ライアン・ヤマモト、曲がった事が嫌いな好青年ではあるが、唯一の欠点はマダム好きな趣味にある。

マダム・アワヤのコンサートが始まった。

名曲、アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンドがまず流れる。

その後は、マダム・アワヤと東郷源九郎の子供が紹介され、チャオ・チャオ・バンビーナのカヴァーが流れる。

会場にはプリンス・ネコマタが駆けつけていた。ネコマタは孫娘から生まれたひ孫を託されると、思わず涙ぐんでいた。

「先輩、あの強面のネコマタが、ひ孫を抱いて、泣いていますよ。」

「ああ、こういう人情に俺も弱いんだ。マダム・アワヤのコンサートに来て良かった。」

それから新曲、「故郷慕情」が流れた。

しかし、いくらマダム・アワヤが気に入らないことを割り引いても、ひさしぶりの祝日に先輩とデート出来たことには感謝しないと。最近、先輩は研究と格闘技の練習で手一杯で、二人っきりのデートはできなかったから。

一方のライアンはこう感じていた。人間が歌を楽しむ心が重要だ。もともと言葉や音楽は、一定の形を持たないが、人の心を打つという特殊な力が備わっている。確かに、武術は人間を格闘という手段で物理的に打つことはできる。しかし、本当に人の心を打ち、動かすことができるのは歌や音楽や文学といった芸術だけなのかもしれない。俺の格闘技の技術は試合で人の心を打つレベルにまで到達していただろうか？

そんなことを考えていたライアンであった。

こうして秋の夜長のマリアの祝日は満たされたものになっていた。

マリアの先祖のジャック・ハロルドやその父の G・ハロルドといった使い手が起こしたハロルド流古武術の継承者がマリア・ハロルドで、その恋人であり将来に渡るパートナー、ライアン・ヤマモトは、サバットと高専柔道+ブラジリアン柔術の使い手であった。この二人の将来の息子が、おそらく、アルセーヌ・ポルゴを越えるかもしれない素養を備えた至高の使い手、クリス・ヤマモトだ。

しかし、世の中の歴史はいつ分化して、パラレル・ワールドに行き着いてしまうかもしれない。

マリアとライアンが袂を分かち、クリスが生まれぬ未来も現時点では可能性があった。

もともと未来は無数の可能性がある。いくらタイムマシンがあっても、パラレル・ワールドが存在したら、アクセスできない平行世界が存在してしまう。

ちょうど、マダム・アワヤの渾身の新曲「パラレル・ワールド：交わる心」が流れだした。

世界は確かにパラレル・ワールドかもしれないわ。でも、きっと、交わるの私たちの心は。

マリアとライアンの結論も歌詞と同じであった。

鳴猫拳の真実 2!

マリア・ハロルドの愛猫、カテリーナと地球圏でデートをしている4代目の元議長、ソレイユ=シャノワールの前に、一人の刺客が立ちはだかった。

見た目は地球圏のネコそっくりであった。

ノルド・ブリターニヤと申す。ソレイユ=シャノワール、貴君に手合わせを願いたい!

内心、空気の読めない相手だと思うシャノワール。わざわざ地球圏でデートしている最中に、ケンカを売ってくる。しかし、考え方によっては、彼女の前でいいところを見せられるかと思うシャノワール。

我輩を鳴猫拳（ニャン拳）の使い手と知ってのコトだニャ。覚悟はいいかニャ？

私、北派カラテの使い出である。南派から派生したニャン拳の使い手と一度見たいと思っていた。

まあ、念のためルールを聞いておくニャ？

U-style ルールで、パウンドはなしでお願いしたい。

わかったニャ。カテリーナさん、ちょっと離れて見ていてくださいニャ。

両者構える。シャノワールはネコ脚立ちから、シャッセフロンタル（前蹴り）だ。

ノルドは、バックステップからジャブ、そしてタックルに行く。

バービーでタックルを潰すシャノワール。

（無粋なヤツだが、ここでカテリーナちゃんのポイントを稼ぐチャンスにゃ。）

U-style ルールなのでパウンドはない。ここからグラウンドの攻防に移行する。

ノルドは、さらに両足タックルを狙う。

シャノワールは、バービーの体勢のまま、バックを取りに行く。

たすき掛けを狙うシャノワール。

ノルドは巻き込んで、シャノワールをひっくり返した。

なおもブリッジをするシャノワール。

そのままカメの態勢で立ち上がるシャノワール。

両者、五分でスタンドの態勢に戻る。

貴様、猫族の割にグラウンドを研究しているな。

シャノワールは両手の爪を露わにすると、こう言い放った。

鳴猫拳に挑戦するとはいい度胸だニャ。あとで後悔することになるニャ。

爪をむき出しにしたジャブを放つシャノワール。パリして弾くノルド。

ノルドが右アッパーを返した瞬間、シャノワールの右フックが閃く。

ブロックするノルドの左腕の毛をシャノワールの爪が切り裂いた。

(さすが南派の鳴猫拳！爪を使った攻撃は北派にはない技だ。)

ノルドは左ジャブから電光石火、右の片足タックルに行く。

グラウンドに引き込めば、いくら鳴猫拳でもツメを使ったパウンドはルール上不可能だ。

すかさずバービーでタックルを潰すシャノワール。ノルドはかかんにタックルをゆるめない。

シャノワールは狙いを定めた。

タックルに来たノルドをカメの体勢のまま潰し、左脇に右足、右脇に右手を差し込んだ。そのまま左腕と尻尾を使ってノルドの首を絞めた。

シャノワールは前方に回転して、両手を封じたまま、ノルドの首を決めた。

鳴猫拳奥義、変形地獄絞めニャ。

タップをしないノルド。シャノワールは自分から相手を二度叩いて、技を解除した。

もう一本やるかニャ？

いや、私の完敗です。貴君の鳴猫拳の技に完敗でした。

カテリーナさん、見ててくれましたニャ？

シャノワール、なかなかの技ね。さすがその辺の地球の猫とは一味も二味も違うわね。

こうして、北派カラテの使い手、ノルドを破ったシャノワール。

マリアの祝日には、ペットのカテリーナにまで、イベントが発生していた。

白猫カテリーナにとって、オーナーのマリアも、恋猫のシャノワールも全てがかけがえのない存在であった。

このような1日が、永遠に続けばよいと思うカテリーナであった。

万物は変化するから美しい。

という格言が真実であるとすれば、時よ止まれと思いたくなるのも真実である。

鳴猫拳の使い手シャノワールは師から教わった鳴猫拳の真実を思い出していた。

地球圏のネコ様に勝る格闘の使い手はいない。

地球人類は確かに格闘技という技術を生み出し、文化として楽しんでいる。

しかし、地球圏のネコ様は本能のまま格闘し、技術でも文化でもなく、ハントして、地球圏に生き残っている。

ネコ様に勝る種族はいないかもしれない。

もちろんネコ様は、地球人類にペットとして、主導権を奪われているようでした。

しかし、集団戦争をしないという特性を持っている以上、ホモサピエンスが戦争で絶滅しても、生き残っているのはネコ様である可能性は高い。

犬族は、地球人類に依存しすぎている。

かつて地球圏の支配は恐竜族という種であったという。

しかし、その中を何とか生き残ったのが哺乳類である。

そして、哺乳類の子孫が、地球人類とネコ様である。

シャノワールは思った。銀河帝国のネコ族のように、いつか地球圏でもネコ様が覇権を握る時がくるかもしれないと。

それまでネコ様の一族は沈黙を保っているだろう。集団戦争をしないというネコ様の特性は、他のサル系の哺乳類やイヌ族にはない特性だ。

何考えているの、シャノワール？

いや、カテリーナさん、今日の晩御飯とか。カツオ刺しのマタタビ掛けとかどうですかニャン？

いいかもね。シャノワール。

全てのネコがネコとしてネコの一生を全うできる。そんな社会が実現すればと想うシャノワール。

実際、地球圏であっても、人間が人間として、人間の一生を全うできるかといえば、答えは微妙である。

それはある地域であれば、平和に人生を全うできるかもしれない。しかし、同時代の人類を思えば、常に周縁地では収奪が起きているのも事実である。戦争も終わらない。

人類は、過ちの繰り返しを免れない。

結局、ネコも人間も置かれた境遇は変わらないかもしれない。

しかし、地球圏のネコ様は集団戦争はしないし、自分の牙と爪以外の武器は、マイ尻尾以外は使わない。この違いは大きい。

人間は、人間である、それ故に、武器という道具を発明した。弱さゆえの、真実。

しかし、ネコ様は、自分を超越る武器を使わない。これは大きな違いだ。

鳴猫拳の真実を理解したシャノワールはこう呟いた。

しかし、ネコ族も人間も考える輩だニャ。自分一人ではちっぽけで、なにもできない。

それだからの、パートナーでしょ。

カテリーナとシャノワールは再び歩き出した。

いずれ二人の間には惑星間結婚による、新しい銀河帝国の後継者が生まれるはずであった。

ネコでもない、ネコ族でもない、新しいハーフの世界の希望。

ソレイユ=シャノワール2世が銀河帝国の歴史に名を刻む日は近い。

とある祝日の出来事であった。

もう一人の主人公

キングオヴギャラクシー特別試合として U-style ルール（パウンドなし、顔面パンチあり）で、ライアン・ヤマモト VS ソレイユ・シャノワールの試合が告知された。

当初、打撃なしのグラップリングルールとの噂もあった。

しかし、U-style ルールに落ち着いた。もちろん、ファンは大喜びで、エキサイトしていた。

俺もジュン・バードやジョー・ヨーシ 12 世に誘われて、試合を観戦していた。

一緒に、息子のテツオや、源大海も来ていた。

「ポルゴさん、楽しみですね。ヴァーリトゥードルールではなく、U-style ルールを選ぶあたりが通ですね。U への敬意も感じます。」

「ああ、個人的にはライアンを応援したい所だが、どちらが勝つか、やってみるまでわからないな。」

両者リングイン。観客席の最前列には、マリア・ハロルドと愛猫のカテリーナが見守っていた。

ライアンのセコンドには西郷詩郎、シャノワールのセコンドには東郷源九郎とプリンス・ネコマタが陣取っていた。

ゴングが鳴る。

ライアンは鋭いジャブからストレート、さらに右のシャッセ・バーで間合いを詰める。

シャノワールはシャッセを軽くブロックすると、構えをアップライトからムエタイベースに変化した。

シャノワールは強襲の右ストレートから右のハイキック、空振ったところを左のソバットでライアンのボディを射抜いた。

やるな。

ライアンは一旦、バックステップして間合いを取る。

そこをすかさず低空タックルに行くシャノワール。

シャノワールはテイクダウンに成功すると、冷静にサイドを取りに行った。そのまま、肩

固めを狙うシャノワール。

ライアンは冷静に電話のポーズを取って、肩固めのポイントをずらすと、強烈なブリッジ。そのままエビで間合いを取ると柔術立ちで立ち上がる。

両者スタンドに戻った。

(カテリーナさんにいい所を見せたいニャ。)

シャノワールの思念が轟く。

ライアンはわざと、左ジャブから右アッパーを放った。

シャノワールの低い鼻をライアンのパンチが掠めた。

冷静なシャノワールにスイッチが入った。

遊びは、終わりニャ。

強烈なパンチのラッシュでコーナー目掛けて押し込もうとするシャノワール。

この時を待っていたんだ...

ライアンはシャノワールの右ストレートをキャッチすると、一本背負いの体勢に入った。そのまま、右足で相手の体を刈り払った。

一本背負い崩れの山嵐だ。

そのまま、右の膝十字を決めるライアン。

ネコ属の関節は柔らかい。

勝負所と、一気に決めるライアン。

思わず、あのシャノワールがタップした。

山嵐から膝十字へのコンビネーション。

柔道ではありえない技だ。総合だからこそ、使える技だ。

圧倒的な技術力を見せたライアン。

セコンドにはもちろん西郷がいた。

「先輩、流石ですね。」

マリアが言った。

負けちゃったけど、合格点は上げるね。カテリーナはシャノワールに向けてネコ語で囁いた。

ある秋の夕暮れのことであった。

ゴールドパンサー

虚無ゆえに最強

格闘プロレス界の至宝、パンサーマスクを手にしようとしている一人の男の姿があった。

その男は月面人で、火星による強化手術を受けて、過去の記憶を失っていた。

自分が誰であるかはわからない。ただ強烈な闘志だけがそこにはあった。

パンサーマスクを手にする、その仮面を被ってみた。

黒いパンサーマスクは通常、着用者のオーラに応じて、7色に輝く。

最高は、紫がもっとも高貴な色だ。

ただ、そのマスクは違った輝きを放ち始めた。

黄金に輝き始めたのだ。

ここに記憶を失い、ただ闘うことだけを求めて闘う戦士が誕生した。

ゴールドパンサー。

そう人は呼んだ。

虚無ゆえに最強。

その言葉は誤りではなかった。

修羅

ゴールドパンサーがリングに向かうと、気配を消してあったが、圧倒的なオーラがその前に立ちはだかった。

ザ・グレート・ブシドーだ。

スーパーヘビー級の最強戦士を前に、ミドル級の体格のゴールドパンサーが立ち向かう。

この構図だけでも、ゴールドパンサーが並の戦士ではないことが明らかだった。

ゴングが鳴る。

ザ・グレート・ブシドーは挨拶代わりに、左ストレートだ。誰も、これをジャブとは言わない。

それくらい強烈なジャブだ。

パリしてかわすゴールドパンサー。

ザ・グレート・ブシドーは今のファーストコンタクトで、先手必勝以外にありえない勝負となることを悟った。

迷わず全身で片足タックルに行くブシドー。

タックルを切るかに見せて、いなしのムーブメントをとるゴールドパンサー。

一瞬、ゴールドパンサーの体が揺れたかに思えた。

タックルを潰すようにブシドーに乗ったパンサーは、自らその技を解いた。

忍者チョークによる KO 勝ちであった。

この勝負だけではゴールドパンサーのファイトスタイルは、総合か U スタイルまでしか判別できなかった。

そして総合か U スタイル最強戦士である以上、いずれは我らがアルセーヌ・ポルゴ。いやパープルパンサーとの決着が見れるはずだ。

ミスター東郷の盟友、ザ・グレート・ブシドーを秒殺 KO する実力者、ゴールドパンサー。

その男には修羅しかなかった。

金色なる豹

ゴールドパンサー VS 東郷源九郎がアナウンスされた。

黄金の仮面を持つ豹と新世代最強の双角をなす一人。

もう一人は、間違えなくライアン・ヤマモトだろう。

マダム・アワヤもリングサイドで心配そうに見守っている。

ゴングが鳴る。

自信過剰な東郷が、ワンツーからの左シャッセで間合いを詰める。

ゴールドパンサーは間合いを詰められても冷静だ。

東郷が右フックから右のハイを放った瞬間、事件は起った。

ゴールドパンサーは強靱な首で東郷の右ハイを受け止めると、そのままキャッチした。

間合いを詰めると一気にクラッチしたまま、後方に振り返った。

強烈なゴールドパンサーのキャプチュードスープレックスが決まった。

普通の選手であれば、ここでノックアウトだ。

東郷は全身のバネを使ってエビをすると、そのまま柔術立ちで立ち上がる。

ゴールドパンサーも警戒しつつ立ち上がる。

スタンドからの攻防だ。

左のシャッセバーから右のフェッテを放つ東郷。

フェッテメディアンをキャッチするとそのままタックルに行き、テイクダウンするゴールドパンサー。

東郷は冷静にガードポジションで固める。

上になったゴールドパンサーは、構わずパウンドの嵐だ。

何発ものパウンドを受ける東郷。すかさず下からの十字を狙った。

クラッチに行こうとした瞬間、体を入れ替えると、そのまま膝十字を完璧に決めたゴールドパンサーの姿があった。

ギブアップはしない東郷。

しかし、明らかに伸びきった東郷の左膝を見たレフリーは試合を止めた。

テクニカルノックアウトによる一本。

圧倒的な金色なる豹の実力であった。

主役は俺だ！

圧倒的なゴールドパンサーの実力、それは初代パープルパンサーをも凌いでいるようであった。

ポルゴさん、あの東郷源九郎まで破るとは、ゴールドパンサーの実力は只者ではないですね。

ああ、ライアン。アンタなら、あのゴールドパンサーの攻略法がわかるか？

僕はついグラウンドと立ち技で勝負に行ってしまうと思います。

ゴールドパンサーは、キック、サブミッション、スープレックス、どれもバランスよく極めている U スタイルの使い手だ。それにあの黄金のオーラ、あれは明らかに人間の域じゃない。神や鬼、鬼神のレベルの使い手だ。おそらく強化手術を受けて生還した上で、さらに修行を積んで高みに登ったんだろう。

人間が人間として、自然に強さを追求する方が、美しいと思います。

そうだろうな。しかし、ゴールドパンサーの実力、俺も肌で味わいたいな。もちろん無傷ではすまされないだろうが。

鬼神のレベルであっても、相手と同等に戦えるんですか？

主役は俺だ！ 誰だって自分の人生の主役は一人だけ。自分自身だ。最強の敵は、ライバルじゃない。自分の中にいる弱い心だ。それを克服できるかが、人間の勝負の分かれ目だ。

さすがはポルゴさんですね。ゴールドパンサー戦が実現するまでスパーリングパートナーを私にさせてください。

ありがとう。ライアン。

鬼神のレベルに到達した気を持つゴールドパンサーに勝負を挑むアルセーヌ・ポルゴ。

伝説の戦士 2 代目パープルパンサーの復活の日は近い。パンサー対決を制するのは、どちらだ！

運命の対決！

アルセーヌ・ポルゴとゴールドパンサーの特別試合が開催された。ルールはパウンドなしの完全決着 U スタイルルールだ。

レフリーは西郷詩郎だ。

黄金に輝くパンサーのマスクを身につけた男が赤コーナーに陣取っていた。ポルゴは青コーナーだ。セコンドは両者共になし。

ゴングが鳴る。ゴールドパンサーは黄金のオーラ、ポルゴは紫色のオーラを纏っていた。

一気に間合いを詰めたゴールドパンサーは、アメフトのようなタックルで突撃する。そのまま右のボディ、アッパーとつなぎ、左フックから右のフェッチメディアンというコンビネーションでポルゴに勝負を挑む。

ポルゴは右のフェッチを左肘でブロックすると、そのまま左後方に回転して後ろ回し蹴りを放った。

この瞬間、ムーンアリーナの全観客は理解した。最高の魂のぶつかり合いがリング上で行われている事実を。

ゴールドパンサーは今の後ろ回し蹴りを、両腕でダブルハンマーを使ってブロックした。ポルゴは左のバックブローでフォローする。

パウンドなしとは言え、先手必勝で先にテイクダウンした方に勝機は向かいそうであった。

ゴールドパンサーは今回の勝負、打撃で決めるつもりだ。

それを読んだポルゴ。

ワン、ワンツーと一気に間合いを詰めるポルゴ。ゴールドパンサーが左のストレートで反撃に出た瞬間、掟破りの右の一本背負い崩れの山嵐で、豪快に相手を投げ放つポルゴ。

そのままゴールドパンサーの右膝に十字を極めるポルゴ。

一瞬で決着は着いた。

一本背負い崩れの山嵐からの膝十字固め。

柔道ではない。レスリングでもない。もちろんサンボでもない。まさに総合格闘技のコンビネーションで勝利したポルゴであった。

ゴングがなり終わると、ライアンとジュン・バードが駆け寄ってきた。

「良い試合でしたね。ポルゴさん」

「ああ、事前にスパーに付き合ってくれて、感謝する」

ポルゴは赤コーナーに佇んでいるゴールドパンサーと握手すると、会場を引き上げた。

ある初夏の出来事であった。

天空の歌姫

銀河を翔る、恋 II

ついにマダム＝アワヤの天空コンサートが開催された。そのタイトルは「銀河を翔る、恋 II」である。ライアン＝ヤマモトは恋人のマリア＝ハロルドを説得して、ルナ＝フロンティアで開催されるツアー初日公演を聴きに来たのだった。

マダム＝アワヤは夫東郷源九郎との間の愛娘を祖父のプリンス＝ネコマタに預け、最終リハーサルを余念なくこなしていた。

かつてこの世界で銀河を舞台に歌手を演じきった天空の歌姫という存在は、実在しただろうか。

確かに、過去、天空の歌姫の座に挑戦しようとしたり、人工知能を使って、ヴァーチャル＝ソングマスターとして君臨しようとしたヴォーカロイドの研究が存在した。

しかし、現実の生身の人間で、グローバルな支持はおろか、銀河を舞台に活躍をしきったプロの歌手は存在しなかった。

その背景には音楽性だけの問題ではなく、言葉の壁もある。

天空の歌姫の座を獲得するには、歌唱力だけではなく、言葉のボーダーを越えて、普遍的に異星人の心を打つ歌詞も求められた。

たとえば、かつて地球圏で試みられたエスペラント語という学者語がある。

しかし、現存する学者の共通語としてラテン語が不滅の存在であることも事実だ。

マダム＝アワヤは今回の銀河を翔る、恋Ⅱコンサートである可能性を選ぶために、別の可能性を捨てることにした。

母国語であるネオ＝ロマンス語で歌い、異星人に直接届くのはメロディとリアルタイム翻訳される歌詞だけにした。

自分の生の感覚だけを信じたかった。

確かに現代の翻訳マシンの力を借りれば、歌のリアルタイム惑星間翻訳配信も可能であった。

しかし、生の声をルナ＝フロンティアの聴衆に届けたい。

このような思いのもと、マダム＝アワヤのコンサートは開幕を迎えようとしていた。

復活の歌姫

マダム＝アワヤのコンサートでは、早速ヒットメドレーが始まっていた。

「まさに復活の歌姫だな。」

感想を抱くライアンのもとで、不満の表情を見せるマリア。

「ライアン先輩、私だって、歌は歌わないけど、大人の魅力はあるんです。」

と言いたい所だが、グッと堪えてステージのマダム＝アワヤを睨んでいた。

名曲「アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンド」（愛は国境を越える）が演奏されていた。

「母国語で歌っているけど、この歌は地球圏では40か国語に翻訳されて歌われているベストヒットなんだね」

ふとマリアは孫娘を抱いて涙を流して歌と余韻に酔いしれているネコマタの存在に気付いた。

「私がもし、チョー大金持ちだったら、プリンス＝ネコマタに恋のライバルの駆逐を依頼したいわね」

ネコマタと目が合った。

ネコマタはテレパシーを使って、オーラにメッセージを重ねて意識に働きかけてきた。

「美人の依頼はこのネコマタ、必ずお受けしている。しかし、今回に限っては、返り討ちじゃぞ」

マリアは隣の彼氏、ライアン＝ヤマモトに操気術の観念がないことを思い出し、一安心していた。

「今のやりとりがばれたら、先輩に怒られちゃう。」

一方、隣のライアンは完全にコンサートの世界に入って、手拍子を連打していた。

かつては銀河を舞台に活躍したエージェントであったマダム＝アワヤも、東郷源九郎と結婚してからは、稼業を引退し、歌手一本に道を選んでいた。

この成果が、天空の歌姫としての完全復活である。

かつて銀河を舞台にしたイベントとしてはキングオブギャラクシーという総合格闘技大会が唯一無二のイベントであった。マダム＝アワヤの功績は、格闘技、スポーツだけではなく、歌を銀河の共有財産、イベントのレベルにまで引き上げたことにある。

地球圏では旧一国の中でトップ歌手に君臨するだけでも、圧倒的な苦勞である。それを大陸レベル、地球圏レベル、惑星間レベルを超えて、ルナ＝フロンティアという大会場を舞台に銀河コンサートを実行できる圧倒的な実力、人気を維持するに至ったマダム＝アウヤの実力と努力は圧倒的であった。

それはあの実直なライアン＝ヤマモトが何を外しても、マダム＝アウヤのコンサートだけは生で最優先して鑑賞したいと思うだけのことはあった。

「愛って、思いやりなんだよ」

という小説の一節を思い出しつつ、幾ら思いやっても届かない時のあるのよねと思ってしまうマリアであった。

蘇る、想い

復活の師、究極の闘い

もう一度だけ、全盛時代の東郷師範と勝負してみたい。誰しものが願うであろう願いを、ポルゴも呟いていた。

「もちろん、完全にリベンジしてやるつもりだ。あの時のシゴキは地獄だった。とは言え、現実問題、東郷師範は既に冥府の人だ。」

東郷師範の遺伝上の息子、東郷源九郎は、全盛時代のミスター東郷の試合の AR を観ながら、黙々とトレーニングに励んでいた。

「そうか、親父の一番弟子のアルセーヌ・ポルゴを、全盛時代の親父に成り代わって倒せば、俺も間接的に親父を超えたことになるかもな。」

ここにキングオブギャラクシー特別試合、アルセーヌ・ポルゴ VS 東郷源九郎のユニバーサル・スタイルデスマッチが組まれた。素手であれば、お互いに何をしてもオッケー。ギブアップか KO でのみの勝負。レフリーストップすらなし。この限りなく危険なルールで、両者はオープンフィンガー着用のもと、勝負することになった。特別レフリーはもちろん西郷詩郎である。

若さ、凶暴性、ゆえに最強を自称する東郷源九郎。

一方で、冷静沈着かつ経験と判断にミスはないポルゴ。

ストライキング（打撃）で勝負するんだったら、おそらく東郷。

グラップリング（組技）で勝負するんだったら、おそらくポルゴ。

そんな下馬評が立っていた。

ゴングが鳴る。

東郷はフェイント気味のジャブから打撃戦を仕掛ける。

ポルゴは音速の低空タックルに出る。

キャッチ、そのままダウンを取る。

東郷流いや源流は古流柔術ベースの守りとポジションニングに特化した技術体系だ。

東郷は下からガードポジション。

ポルゴは右の膝から滑らせ、右の膝関節を十字で狙いにいく。

東郷は右の膝を餌と見せかけて、冷静にヒールホールドを狙いにいく。

両者、回転して起き上がる。

アップライトに構えたポルゴは、左の後ろ回し蹴り（シャッセ＝トルナン）で勝負に出る。

東郷も同じく左のソバットで切り返す。

両者の後ろ回し蹴りが交錯する。

さらにもう一回転した東郷は左の裏拳で勝負に出た。

ポルゴは今の音速の裏拳で、背中を見せた東郷を逃さなかった。

体勢を一気に沈めて、裏拳をブロックしつつ、返す刀で、左をハーフネルソン、右をチキンウィングに捉えるとそのまま強引に後方に反り返った。

銀河最強の必殺技タイガー＝ドラゴンスープレックスホールドが決まった。

東郷はなおも立ち上がろうとしたが、膝から崩れ落ちた。

まるで全盛時代の東郷師範と戦ったかのような興奮を覚えたアルセーヌ・ポルゴであった。

再生、勝つのは俺だ！

キング・オヴ・ギャラクシー・ファイナル！ 決勝戦まで勝ち残ったのは、G'(ジー・ダッシュ)とゴールド・パンサーであった。

両者共に、強化手術を受けて生き残った者である。通常、強化手術を受けて退院したものは、深い精神的ダメージを負い、闇に敗れることも多い。しかし、G'(ジー・ダッシュ)とゴールド・パンサー共に強化手術を受けて、生還し、今は平常心、いや、それ以上の健全なる肉体と精神を厳しい修練によって得ている。確かに強化手術や強化人間は邪道であろう。しかし、そのような運命すら打ち克ってしまう強さを両者共に手にしていた。まさに再生（リナッシメント）である。

G'(ジー・ダッシュ)は逆立った銀髪を光らせ、ゴールド・パンサーは黄金のオーラを高めていた。

ゴングが鳴る！ \newline

G'(ジー・ダッシュ)は初動にジャブを選ぶが、ゴールド・パンサーは低空気味の音速のタックルを放つ。

G'(ジー・ダッシュ)は強引にダブルハンマーで潰したタックルに追い討ちをかける。

ゴールド・パンサーはなおも前進しタックルを継続し、そのまま立ち上がる。リバーズ・バスターを放つ。

G'(ジー・ダッシュ)は半回転しつつ、牽制し、立ち上がる。 \newline

両者、向き合う。 \newline

ゴールド・パンサーはアップライトに構えると、ボクシングにG'(ジー・ダッシュ)を誘った。

G'(ジー・ダッシュ)はワンツースを放つ！

ゴールド・パンサーが右ストレートを放った瞬間、その右の手首を左手で掴み、一気に右手でタックルを放つ。

G'(ジー・ダッシュ)。一本背負崩れの山嵐が決まった。なおも、ポジションキープから、左ストレートを放つ。

普通の選手ならここで終わりだ。 \newline

だが、ゴールド・パンサーは膝十字が完全に決まる前に全身のバネでブリッジした。そのまま立ち上がる。

両者、柔術立ちで立ち上がる。 \newline

向き合った両者は掌にエネルギーを充満し、壮絶な気功波、いやファイナル・ギャラクシー

ゴールド・パンサーは気功波がぶつかっている間に、水面蹴りを放った。 \newline

だが、G'(ジー・ダッシュ)は左の後ろ回し蹴りを放ち、G'(ジー・ダッシュ)の踵が確実に

圧倒的な威力のソバットで、G'(ジー・ダッシュ)がゴールド・パンサーを仕留めた一戦で

強化手術を受けて、然も生還し、さらなる修行で高みに登り、精神の弱さを克服した両者。

キング・オヴ・ギャラクシーの主役はアルセーヌ・ポルゴただ一人だけではなかった。が、

最終決戦、勝つのは俺だ！

キングオヴギャラクシー・ファイナル特別試合アルセーヌ・ポルゴ VS G'(ジー・ダッシュ)が組まれた。圧倒的な好カードである。

特別レフリーはもちろん西郷詩郎だ。

このレベルの戦いで、無傷ではいられまい。

ポルゴはファイトスタイルはUスタイル総合格闘術だ。

一方のG'は我流喧嘩殺法と記述されていた。

両者共に、オープンフィンガー、パンタロン、レガースの装備である。

一瞬、紫色のオーラを漂わせて、気配を消したポルゴ。

一方、G'は黄金のオーラを爆発させている。

伝説の格闘家G=ハロルドのクローンに、龍族の気の遺伝子を移植した強化人間G'。

一方、我らがポルゴは、真っさらな人間である。純粹に修行を重ねて強くなった。

ゴングが鳴る！

G'のジャブを、ポルゴが下段へのシャッセ・バーで牽制する。

すかさずG'がタックルに行く。

タックルを切るポルゴ。

会場のボルテージが極限に達する。

ポルゴはリバースネルソンから強引にスープレックスで G' を投げる。

G' は身体を捻りつつ、柔術立ちで立ち上がる。

両者が向き合った瞬間、G' は掌に最大限の気を溜めていた。

ギャラクシーウェーブの体勢に入った。

ポルゴは身体を鎮めると、右のアップパーを放ち、G' のギャラクシーウェーブを上方へと反らせた。

なおも強烈な気弾を放ち、硬直している G' の隙を付いて、ポルゴは G' の左の上手を取り、前方に回転しつつ、右脚を G' の股間目掛けて蹴り上げた。ポルゴのビクトル投げが決まった。

その後、尚も左の膝十字を決めるポルゴ。

空いている右足でポルゴを蹴り付けて、強引に技を外そうとする G'。

しかし、特別レフリーの西郷は決着ありと判定し、ゴングを要請した。

我らがアルセーヌ・ポルゴがキングオヴギャラクシー・ファイナル特別試合の大舞台で見事勝利した瞬間である。人が人として、真っさらに生きて、修行して強くなることの大切さを見せつけた試合だった。これからも銀河中から、いや外銀河からも彼を狙う相手が登場するだろう。

しかし、アルセーヌ・ポルゴは歩み続ける。止まることなく、だ。

それは彼であっても、時には悩み苦しむこともあるだろう。

しかし、これまでに得た師友が彼を導き、そして、何度壁にぶち当たっても、立ち上がるだろう。

かつて初代ミスター・ポルゴの名前をほしいままにした、最強のデスマッチの帝王、グレート＝セキカワ。グレート＝セキカワのリングネーム、ポルゴとアルセーヌ家の名前を継いだアルセーヌ・ポルゴ。伝説は終わらない。

特別試合、ポルゴ対東郷源九郎！

これより、キングオヴギャラクシー特別試合、アルセーヌ・ポルゴ対東郷源九郎を始
めます！

特別レフリーに西郷詩郎を迎え、会場のボルテージは最高潮に達する。

ゴングが鳴る！

キックトランクスのみでUスタイルのポルゴに対して、東郷源九郎は黒の革ジャン、革
パンツに黒のオープンフィンガーだ。

ポルゴはまずジャブを打ち、さらに左のシャッセラテラル（サイドキック）で追撃する。

東郷はジャブをパリし、左のシャッセを左の鉄槌で叩き落とす。それから東郷の強烈な
右ミドルから左ミドルの連続攻撃である。

割れんとばかりに盛り上がる会場。

ポルゴは直近の左ミドルを受けると、回転して左の後ろ回し蹴りを放つ。

同じく左の後ろ回し蹴りを合わせる東郷。

一旦両者間合いを取る。

ポルゴはジャブから、ボディタックルに行く。

そのままサルト、つまりフロントスープレックスを放つポルゴ。

ダウンした東郷に肩固めを見舞うポルゴ。

東郷は冷静に耳をさわってガードし、そのままブリッジで反動を使いかわそうとする。

そのままマウントに移行するポルゴ。

東郷は下からのヒールホールド狙いだ。

この瞬間をポルゴは逃さなかった。

一瞬の隙を突き、マウントから回転して膝十字固めを決めたポルゴ。

たまらず伸び切った脚で、ギブアップを余儀なくする東郷。

我らがアルセーヌ・ポルゴが、恩師の後継者、東郷源九郎に完勝した瞬間だ。

キングオヴギャラクシー、銀河を舞台にした総合格闘技大会の歴史は終わらない。

そして我らがアルセーヌ・ポルゴの歴史にも終わりはないはずだ。

これからも歩み続ける、そう誓ったアルセーヌ・ポルゴであった。

もうすぐ春が来る、そんな晩冬の試合であった。

忍者特急 666

ソウル・カブキ&ブラッド・セキカワ

銀河を震撼させる新タッグチームが現れた。その名は忍者特急 666（ニンジャ・エクスプレス・トリプルシックス）、メンバーは、リーダーのソウル・カブキとブラッド・セキカワだ。ソウル・カブキは謎の隈取りペイントの総合格闘家で、ブラッド・セキカワはその名の通り、あのデスマッチの帝王、グレート＝セキカワの直系の血を引く、影の最高実力者である。

忍者特急 666 はキングオブギャラクシー特別試合で、ジョー・ヨージ 12 世とジュン・バードの総合野郎 B チームとの決戦を迎えていた。

赤コーナーから覆面を被ったソウル・カブキが派手な赤の忍者の出立ちで登場する。覆面を取っても、白と赤を基調にしたペイントで素顔は読めない。ブラッド・セキカワは白ベースのペイントで、黒のスパイダーマスクを被っており、これも素顔は読めない。ブラッド・セキカワも白の忍者の出立ちである。

一方、青コーナーから入場したのはゴールドのオープンフィンガー、ゴールドのタイツ、パンタロンで統一したジョー・ヨージ 12 世とジュン・バードの総合野郎 B チームである。

「ジュンさん、ここはまずワタシにお任せを。」

まずはヨージが先鋒に立つ。一方、迎え撃つのはソウル・カブキだ。

ソウル・カブキは入場シーンでこそ、派手なヌンチャク・トンファーを使った演舞をしていたが、このレベルの戦いで武器を持ち込むことは、むしろあり得ないことだ。

ソウル・カブキはゴングとともに、強烈なドロップキックで応戦した。 \newline

「ワタシが U スタイルの正統継承者と知って、あえてプロレス技で来るんですネー」

ヨージは今のドロップキックを低空ドロップキックで応戦した。相手のキックが落ちるタイミングで、両膝を狙いに行った。

ジュン・バードは完全にコーナーで静観している。パートナーを信用しきっている。一方、ブラッド・セキカワもコーナーで不敵に笑みを浮かべている。

ソウル・カブキは柔術立ちで大勢を立て直した。まだヨージは尻もちをついている。

ソウル・カブキは、ダブルハンマーでヨージを叩くと見せかけて、空中で回転して、ヨージ

そのまま、リアネイキッドチョークに捉える。 \newline

総合ならば、シングルならば、これで決まるところ、でもあるかもしれないが、これはタッ

この混乱に乗じて、ジュン・バードもリングインして、ヨージ12世とタッチを成功させた。

リングではブラッド・セキカワとジュン・バードが睨み合う。 \newline

ジュン・バードが下段から上段への二段回し蹴りをチラつかせる。あろうことがブラッド・

あの打撃に特化したジュンに、しかもキックを的確に当てたという衝撃が会場に走った。

もしかすると、こいつらはただ者じゃないかもしれない。ただのかませのロートルではなか

ジュン・バードが返しのローキックを放った直後、それは会場を席卷した。ブラッド・セキ

すかさずノータッチでリングインしたヨージがカットに入ったが、さすがのジュンも膝にタ

ヨージがタックルに行き、マウントからパウンドに行き、パンチの嵐を下ろしていた。不

「200% 完敗です。悔しいですが、今日はブラッド・セキカワさんのテクニックに負けま
した。」

「ソウル・カブキさんとブラッド・セキカワさんのチームワークに負けました。」

忍者特急 666 (ニンジャ・エクスプレス・トリプルシックス)、二人の忍者のチームが
超特急で対戦相手を地獄に送るという意味合いが込められた、まさに恐怖の新チームが
登場したのであった。

ザ・グレート・ブシドー&暁

忍者特急 666 に対して、スーパーヘビー級のチーム、ザ・グレート・ブシドー&暁が
挑戦者として名乗りを挙げた。

まずは暁がソウル・カブキを対戦相手に指定してゴングが鳴った。

ソウル・カブキはあろうことか、暁に対して、空手チョップで応戦した。

暁が強烈な張り手でコーナーまでソウル・カブキを押し戻す。ソウル・カブキはいきな
りの頭突きで暁の顎を捕らえた。

トリッキー忍者スタイルとでも言うべきソウル・カブキであった。一方、相撲ベースに総合

デスマッチの帝王、グレート・セキカワの直系の血を引く影の最高実力者がブラッド・セキ

脳天を打つ暁。 \newline

今の強烈なバックドロップからそのままニーブレイカー狙いに行くブラッド・セキカワ。

たまたま、ザ・グレート・ブシドーがノータッチでリングインし、介入する。 \newline

ブラッド・セキカワとザ・グレート・ブシドーが対面する。 \newline

俺は、なんでも一度だけ敵の必殺技を受けることにしている。お前はあの技で俺に葬られる

ザ・グレート・ブシドーは言った。 \newline

しかし、ブラッド・セキカワはこう返した。 \newline

総合の世界において、得意技などないものが勝者といえる。真に必要な技をその時々には繰り返

ブラッド・セキカワは言い終わると、左ジャブから右ストレート、左フックから右アッパー

今のコンビネーションがお前の必殺技か。それをアレンジしてお前を葬ろう。 \newline

スーパーヘビー級のザ・グレート・ブシドーは、構えをサウスポーに変えると、右のストレ

冷静に今のソバットにソバットを合わせるブラッド・セキカワ。 \newline

まだ、俺たち忍者特急666の忍者特急たる所以を知らないようだな。準備はいいか、兄弟っ。

ブラッド・セキカワは全身のバネを使って、あろうことかザ・グレート・ブシドーをリフト

コーナーからは、ソウル・カブキが肘を曲げてアックスボンバーの体制に入っていた。その

まだおいどんもいるたい。 \newline

暁はリングインすると、気絶しているザ・グレート・ブシドーの代わりにローンバトルを展

ブラッド・セキカワは暁の足元で頭から回転するとそのまま今成ロールの体勢でニーブレイ

参りました。 \newline

暁のギブアップ宣言であった。 \newline

現代ブラジリアン柔術と忍術が融合したファイトスタイル。圧倒的な忍者特急666の実力と可

マリア・ハロルド&ライアン・ヤマモト

忍者特急 666（ニンジャエクスプレストリプルシックス）に挑戦したいんですけど、先輩、良かったら私のパートナーになってくれませんか？

マリアは意中の先輩であり、もはや恋人というべきライアン・ヤマモトにタッグ結成を呼びかけた。

俺はショービジネスは好きじゃないんだけど、マリアからの頼みでは仕方ないな。

こうして曲がったことが嫌いな好青年、ライアン・ヤマモトは後輩の恋人マリア・ハロルドとタッグを組み、ブラッド・セキカワとソウル・カブキのチーム忍者特急 666 とタッグマッチで対戦することになった。

ブラッド・セキカワは白のペイントにオーバーマスク、ソウル・カブキは赤と黒のペイントをベースにオーバーマスクを被って入場した。

マリア・ハロルドは白の柔術衣に黒の袴、ライアン・ヤマモトはキックトランクス姿で入場した。

特別レフリーは西郷詩郎である。

ゴングがなる。

ライアン・ヤマモトが先発を引き受け、ソウル・カブキがリングインする。

ライアンの強烈な左ストレート、いやジャブから、右のフェットメディアンが放たれる。

カブキは冷静にガードして今のミドルキックを受けた。そこからカブキは毒霧を吐いて、ライアの視線を奪う。

マリアがリングしようとしたところを、セキカワが冷静にストップする。

カブキは得意の左のトラースキックでライアを蹴撃した。すかさずコーナーまで戻って、渾身のラリアットだ。

圧倒的な忍者エクスプレス 666 のプロレスセンスである。

すかさずカブキがライアをリフトして、コーナーからセキカワがアックスボンバーを放つ！

マリアはついにノータッチでリングインして、カブキに右ミドル、返す刀で左のシャッセ（横蹴り）をセキカワに放った。

タッグ慣れしているカブキは今の攻撃を喰らって、リングアウトして間合いを見計らっていた。

ブラッド・セキカワはマリアの髪を掴むと、そのまま DDT でマリアを後方に投げ放った。

マリアは投げられたまま、セキカワをグラウンドの攻防に誘った。

冷静にマリアはセキカワに肩固めを狙いに行った。

セキカワはテレフォンガードの体勢から強烈なブリッジで、マリアを切り返した。

すかさずカブキがリングインしてマリアに強烈なフットスタンプを放った。

マリアは一瞬、クリスの面影を思い出していた。

「ここで負けられないわ。先輩と結婚して、クリスを産んで、幸せな生活を送る。それに

「ヤマト先輩は絶対に信用できる男だわ。」

そう MARIA が思念した瞬間、ライアンはリングにノータッチで飛び込み、カブキに右のフロントル（前蹴り）、セキカワに左のシャッセ・トルナン（後ろ廻し蹴り）を放った。

すかさず立ち上がった MARIA が強烈なオーラを込めた右ストレートを試合の権利を持っているセキカワに放つ。

セキカワが今のストレートを堪えて、同じく右のストレートを放った瞬間、MARIA はセキカワの手首を掴んで、腰を入れて上段当身投げを放った。この時、オーラを第八段階まで高めて、雷撃の形に具現化して、セキカワの動きを完全に仕留めた。

ライアンはすかさずカブキを牽制した。

MARIA はそのままセキカワの右腕を十字固めに捉えて、さすがのセキカワもギブアップをせざるを得なかった。

ほぼ現世代における最強のプロレスチーム忍者特急 666 に MARIA、ヤマト組が勝利した瞬間であった。

LOVE RUNS AROUND THE GALAXY: THE BEST
OF MADAMAWAYA

哀愁の September

哀愁の September test by Madame AWAYA

また一人同級生が結婚したの

授かり婚、今はそう言うのね

なぜか私、流氷の中のシロクマみたい

取り残されちゃったのかな

哀愁の September

昔は、秋が一番好きな季節だった

涼しくて、木々は色づく

私だって、昔の仲間祝福したい、but

またフラれちゃった、いつも一人ね、私

今も好きになりたい

秋も、私自身も

でも、ダメね

Mai Dire Mai

あきらめないで、自分に言い聞かせる私

あせっちゃ、ダメ

哀愁の September

もう街にはあのセミもいない

寂しい季節ね、秋

鈴虫の音がする、恋の季節

虫だって、恋をする

でも、私は Lost Love

いつだって Lonley!

いつか見返すわ、先に結婚した昔の同級生

哀愁の September

本当の意味は、幸運の7の月

私も探したい、私だけの幸運

哀愁の September, and Good Luck for Me!

LAST LOVER

LAST LOVER test by Madame AWAYA

そうよ。誰だって経験する

忘れたかもしれないけどね

初恋

私いつでも思う。恋する度

これが最後の恋にしたい

あなたは最高の恋人（ひと）

そして、私の最後の恋人

お願い、LAST LOVER

恋に、失恋は付きもの

私はいつでも恋の喪服期間中

でもね、もう喪はあけたの

サヨナラ、前の恋

バットじゃないのよ

そんなに簡単にフラないで

いつも思っていた、私

ボールじゃないワ

私の心は、そんなに軽くない

心のミットで受け止めて

そして

お願い、私の LAST LOVER

あなたは最高の恋人（ひと）そして、私の最後の恋人

TRUE LOVE

test by Madame AWAYA

あなたと出会って、私捨てたの

昔の彼との写真

あなた疑ってた

私の心の中、別の人があると

でもね、私の心は一つ。

あなただけよ。TRUE LOVE

これからは、あなたとだけ写ってる

私たちの写真

そうね、女は移り気だけど

でもね、私の心は一つ。

あなたも、そうよ

心は一つ。

二人共に生きてゆくの。

TRUE LOVE.

絆

test by Madame AWAYA

あの夕日をいくつ数えたでしょう。

私は、ずっと一人だった。

でも、あなたと出会って、芽生えた絆。

私たちの絆に賭けてみようと思った。

絆。私たちの絆は、惑星（ほし）を越えてゆくの。

そしてまた刻を越えてゆく。絆は、永遠。

そして生まれくる命が繋ぐ。

絆は、永遠。

いつか来る、私の最期の日。

でもね、信じたい。私たちの、絆。

絆。私たちの絆は、惑星（ほし）を越えてゆく。

そしてまた刻を越えてゆく。絆は、永遠。

アモーレ・センプレ・トラヴェルサーレ・イル・モンド

AMORE SEMPRE TRAVERSARE IL MONDO. (愛はいつも世界を越える) test by
Madame AWAYA

この広い銀河（そら）、わたし独りぼっち、ただギター片手に歌ってた

広がる歌声、なぜか感じる、まるで他人の声のようね

わたしだけの歌、歌いたい、そして願ってた

いつか出会うこと、運命（さだめ）の相手

この地球（ほし）に降りて、そして出会ったの

まるで感じる。この銀河（せかい）、せまくなったよう

今は歌える、わたしの歌、わたしだけの歌

刻を越えて、惑星（ほし）を越えて、ただ一つあるの。それは、愛

どんな時も、いつだって、愛は世界を越える

AMORE SEMPRE TRAVERSARE IL MONDO *

（*くりかえし）

FELICE SEMPRE ESSERE CON NOI（フェリーチェ・センプレ・エッセレ・コン・ノイ）

SENZA TE (ORIGINAL ITALIAN EDITION)

test by Madame AWAYA

SENZA TE.

SENZA TE, IO NON STO PIU'.

SENZA TE.

SOLO, IO.

PENSAVO CHE NON ABBIA LA MIA RAGAZZA.

MA, ENCONTRO' TE.

CREDEVO CHE VIVIAMO SEMPRE.

SENZA TE.

SENZA TE, IO NON STO PIU'.

SENZA TE.

CON TE.

CON TE, IO CONTINUO A VIVERE.

CON TE.

CON TE.

CON TE, IO CAMMINERO'.

CON TE.

SENZA TE.

SENZA TE, IO NON STO PIU'.

SENZA TE.

La Mariage

test by Madame AWAYA(cover ed.)

私たち二人、こうして今結ばれた

そうよ、思うわ、お互いに

運命の相手と

これからは、あなたの名前

私の名前として生きてゆく

Con il tuo nome

そして二人、いやここに三人

共に生きてゆく

家族として

La Mariage

素敵なことね

どんなときでも、忘れない

今の喜びを、どんなときでも

そして誓うの

絆は、永遠

La Mariage

Ciao!Ciao!Bambina!

test by Madame AWAYA(cover ed.)

Ciao!Ciao!Bambina!

9ヶ月待ったわ

あなたと出会うのに

そうよ、毎日お話ししたわね

そして、あなたは生まれた

こんにちわ、赤ちゃん

私の娘、私たちの娘

あなた生まれるまで、私一人かと思っていた

血の繋がった肉親

でもね、こうして増えてゆくのね

私たちの家族

Ciao!Ciao!Bambina! \ *

＼* 繰り返し

Sempre Siamo Noi!

HANABI!

HANABI! test by Madame AWAYA

今日は街の HANABI 大会

川では、大爆発の最中

華が咲く、空の華

でも、私一人

電車は浴衣の人ばかり

せっかくの週末

今日もミット殴ったわ、but

On いつものキックボクシング

私実は格闘やってる、言うとは引くのね

地球の男

そうよ今日も一人

今日も友達一人、親に男紹介するらしいの

また一人片付くわ、私、流水の上のシロクマ

せっかくの HANABI、興奮してる近所の子供

でもね、本当の花火の寂しさは、わからないはずね

そうよ、今日ももうすぐ三十路のシングル花火デー

燃えているのは、花火だけね

散り行く炎が、まるで誘うはワ、哀愁

そうね、もうすぐ私も挑戦しようかな

OMIAI

強くなればなるほど、わかるの

引いてゆく、周りの男

そうよ、もうすぐ国際大会

でもね、私は、いつもシングル

なりたいワ、デュオ

いつも飲むのは、ダブル

どうせ今日も家で一人、HANABI 大会

しょうがないのよ、見えちゃうの HANABI 出窓から

いつもシングルで HANABI!

毎年シングルで HANABI!

REMEMBER ME

test by Madame AWAYA

Remember me.

覚えていますか？

一年 365 日毎日出会っていた。

まるで、幼なじみ。

同級生のあなた。

毎日会っていたあの日、特別だった日々。

何気なく刻を過ごした、私たち。

そうね、まるで今は他人。

街で出会っても、わからないかも。

でもね、思い出は一生。

はじめての告白、それはあなたから。

最後の2月、あなたからのチョコレート。

手紙には義理と書いてあった。

でもね、そんな他愛無い手紙、今でも取ってあるの。

Remember me.

覚えていますか？

あなたからもらった手紙、今でも全部、残してる。

何故だか、捨てられないの。

今だから言うわ。私、他に好きな人がいたの。

でもね、今はわかる。なんとなく。

あなたのストレートな気持ち、伝わったわ。

でもね、二人は、今は他人同士。

そうね、まるで今は他人。

街で出会っても、わからないかも。

Please, remember me.

覚えていますか？

久しぶりの同窓会。

勇気を出して参加したの。

私、あなたの顔探してた。

いや、あなただけを。

やっと話し掛けてくれたあなた。

あなたは、こう言った。

Remember me.

覚えていますか？

まるで別人。

前よりももっと綺麗になっていた、あなた。

返事するのが、精一杯。

ずっと一緒だったよね。答えた、私。

Please, remember me.

覚えていますか？

I always remember you.

In my heart.

そうね、また会う機会あったら。

勇気出して言ってみたい。

あの時の返事。

I always remember you.

In my heart.

でもね、今はお互い、思い出の人。

それで、いいのかも。

Remember me.

Say, remember me.

AMORE SEMPRE ATRAVERSARE ILMONDO.

TESSO di Madame AWAYA (Original italian edition)

IN QUESTO MONDO , SOLO IO, CANTAVA CON CHITARRA

IL MIO VOCE MI SEMBRAVA LA VOCE DI ALTRA DONNA

VOGLIO CANTARE IL MIO CANZONE

VOGLIO INCONTRARE IL MIO RAGAZZO

NATO CON IL MONDO E INCONTRO DI TE

MI SEMBRA IL MONDO SI FACCIA PIU PICCOLO

POSSO CANTARE IL MIO CANZONE SOLO DI ME

ESISTERE L'AMORE CHE TRAVERSA IL TEMPO E LO SPAZIO

AMORE SEMPRE ATRAVERSARE IL MONDO *

(* Repeat)

FELICE SEMPRE ESSERE CON NOI!

Sing Le Bell!

Sing Le Bell! test by Madame AWAYA

忘れちゃったわ

いつがクリスマスかなんて、そうよ私にはわか仏教徒

今歌います。Sing Le Bell!

ふと気付いたら、立っていたの

誰もいない砂丘の上

一面雪化粧、ラクダも冬休み！

Sing! Sing Le Bell!

誰が決めたの、キリストの誕生日を祝うのに

恋人と一緒にじゃないといけないと

そうよ私は仏教徒、12月だけ仏教徒

Amore Once More!

昔は信じてたかもね、サンタクロース

でもね、今はちょっと嫌い、トナカイも

Sing! Sing Le Bell!

私一人だけの歌。

言い訳じゃないけど

そうね、Double でもいいわ。ウィスキーなら。

いつもシングル！ いつだってシングル！

聞いたことがあるわ、夏になったら

砂丘も熱くて歩けないと

今、一面の雪景色、その先は日本海

Sing! Sing Le Bell!

歌えば、ちょっとだけ寂しくないかも

そうよ、Let's sing! Sing Le Bell!

Amore Once More!

来年こそ、迎えるわ、雪の砂丘

きっと2人で

この国だけよね、こんな言葉があるなんて。

英語じゃない、日本語でもない

和製英語

そうね、あなたも

Let's sing! Sing Le Bell!

いつかきっと、そしてきっと

リベンジするわ、この白い砂丘で

だから今だけ、今年だけ

Let's sing! Sing Le Bell!

Sing Le Bell! (Worldedition)

Sing Le Bell! English test by Madame AWAYA

I've forgotten.

When Christmas? I'm Buddhist.

Now I shall sing. Sing Le Bell!

Just Standing.

On Sand hill, where no one comes.

Snow all over ! Camel is on her vacation.

Sing! Sing Le Bell!

Who decided? You must stay Christmas with your lover.

I am alone. December Buddhist.

Amore Once More!

Just believed the existence of Santa Clause in my childhood.

But now, I dislike the reindeer, too.

Sing! Sing Le Bell!

Just only my own song.

Say! Double if whisky.

Always single! Whenever single!

Once I have heard , in summer. . .

Sand Hill is too hot to walk on.

Now, just over snow, next is the Japanese Sea.

Sing! Sing Le Bell!

Sing! Good bye aloneness.

Yes, Let's sing! Sing Le Bell!

Amore Once More!

Next year I shall go on the snow Sand Hill.

with new lover.

Only Japan! There exists such a Phrase.

Not English! Not Japanese.

Just Japanese Slung.

Yes, you.

Let's sing! Sing Le Bell!

Next time, I will revenge on the white Sand hill.

Just Only Now, this Year!

LET'S SING! SING LE BELL!

PRIMAVERA

一番好きな季節は春

植物が大好き、特に無口なところ

そういった FIRST DATE の時のあなた

見たわ、一緒に色々な花

もうすぐ、夏

この国には梅雨があるのが、苦手

そう言った異国出身のあなた

一番好きな画家はピカソ

キュビズムにハマっている、特に抽象的なところ

他に好きな画家は、モネ

やっぱり好きなのは植物、そして睡蓮

でもね、私はモネよりもクールベ

理想のタイプはガブリエル・カペだった

一番好きな季節は秋、な私

でも、物寂しい SEPTEMBER

いまはもうすぐ夏

ネコよりも、イヌが好き

動物よりも植物

パンダよりもトラよりもツツジ

難しいね、人生

まるで神戸、横浜みたいな海沿いの都市（まち）で育ったあなた

いつか案内してほしい、あなたの故郷（ふるさと）

私も一番好きな季節が春になるようにしたい

来年の春も一緒に、植物園に行こうと約束した2人

約束ほど当てになるものもないけど、来年の春

もう待てないわ、PRIMAVERA

Say Good Bye!

どんな時も、いつだって

私は Single、そう思った時もあったわ

でも、そんな自分に

Say Good Bye!

いつだって、時には

自信なくして、やる気なくす

そんな時もあるわ

でも、必ず取り戻すわ

私の PRIDE

そうね、誰でも生まれてくる時は

必ず Single、双子でもない限り

人は一人で生まれ、一人で旅立つ

でもね、いつかわかるはず

一人じゃない、人生は

いつだって Single、そう思っちゃうけれど

そんな自分に

Say Good Bye!

Say Good Bye!(globaledition)

Whenever, always

I am alone. Some time I think so.

But to such me.

Say Good Bye!

Always, sometime

Out of confidence, and not fine.

Such time goes.

But I shall return

My PRIDE.

Yeah, the time whoever be born

Always Single, even not duo.

People are born and dyes single.

But you will understand.

Never Single, your life,

Always Single, sometime we think but

To such ourselves,

Say Good Bye!

IMAGINE ME

IMAGINE ME. text by MADAM AWAYA.

IMAGINE ME.

WITHOUT YOU , I WON'T NEVER SURVIVE.

想って、わたしを

あなたなしでは、とても生きられない

冬のデートは、いつも雪と氷の国

白い雪の花と、かがやくあなたの笑顔

2人だけの雪の公園、わたしは

そっとあなたの手を握ろうとした

私のアルバムに映っているあなたの写真

いつも笑顔で、微笑んでいる

あなたのカメラに写っている私たちの写真

思い出だけが、交錯する

IMAGINE ME.

WITHOUT YOU , I WON'T NEVER SURVIVE.

想って、わたしを

あなたなしでは、とても生きられない

パラレル・ワールド：交わる心

パラレル・ワールド

そうよ、世界は平行線

一度出会って、別れたら

もう交わることはない

平行線は交わらない

それが人生の法則ね

そうね、世界は確かにパラレル・ワールドかもしれないわ

でも、きっと、交わるの私たちの心は

グッバイ、マイユークリッド

セイハロートゥ、ノンユークリッド

そうねもう決して交わらないと決めたのは

私の心の仮定、かもしれないわ

実際、世界は確かにパラレル・ワールドかもしれないわ

でも、きっと、交わるの人々の心は

グッバイ、マイユークリッド

セイハロートゥ、ノンユークリッド

心のジオグラフィー

幾何学模様恋をして

パラレル・ワールド

そうよ、世界は平行線

実際、世界は確かにパラレル・ワールドかもしれないわ

でも、きっと、交わるの人々の心は

FENIX: アルセーヌ・ポルゴのテーマ

FENIX: アルセーヌ・ポルゴのテーマ

FENIX: そうよ、あなたは不死鳥
何度倒れても、立ち上がる

FENIX: そうね、あなたは不死鳥
どんな逆境も跳ね返す

FENIX: まさに、あなたは不死鳥
何度でも舞い上がる

時には休みたい時もある、でも何度でも目覚める

FENIX: まさに、あなたは不死鳥
そうよ、あなたがアルセーヌ・ポルゴ

AMORE（挿入歌）

AMORE, AMORE MIO, PER SEMPRE.

愛、私の愛よ、永遠に

永遠に続くものなどないと気づいたあの日

でもね、思いは受け継がれる

時を越えて、空間を越えて

だからあるの、瞬間（いま）が

昨日と明日の間で、現在を生きる私

AMORE, AMORE MIO, PER SEMPRE.

ZIPANG: エンディング・テーマ

ZIPANG

かつて求められた黄金の国

そこには夢があった

ZIPANG

みんな探した黄金の国

そこには文化があった

ZIPANG

どこにもないと思われた国

そこには列島（しま）があった

ZIPANG

今はもう黄金はほとんど採掘（と）れないけれど

そこには文化がある

奥付

あとがき

500DL を越えたことを記念して、新章を加筆済。ポルゴの名前の元になったグレート＝セキカワの直系の子孫、ブラッド・セキカワ、およびその謎のパートナー、ソウル・カブキの忍者特急 666 を迎えて、銀河を舞台にした格闘大会キングオヴギャラクシーが新たな展開を迎えます。

このあとがきまでアルセーヌ・ポルゴの物語に付き合ってくれた読者の皆様に感謝いたします。

PS. 前作のアルセーヌ・ポルゴと同じ分量になりました。いずれ、どちらも紙の本にします。いずれ、イタリア語にも翻訳したり、映画化を目論んでいます。

令和 4 年 12 月 22 日 夏木康志

奥付

新アルセーヌ・ポルゴ

初版（限定部数を友人・知人にのみ紙媒体で配布）

../../book/49024

著者：夏木康志

主要作品：HyperJ-TEXT,SHAKU

著者プロフィール：[../../../../users/ynatsuki/profile](#)

感想はこちらのコメントへ

[../../../../book/49024](#)

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/49024>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<https://puboo.jp/>)

運営会社：株式会社 paperboy&co.

新アルセース・ポルゴ

著 夏木康志

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
